

昭和 58 年 度
事 業 報 告 書

自 昭和58年 4月 1日
至 昭和59年 3月 31日

(社) 日 本 病 院 会

目 次

昭和58年度事業報告

第1	会務報告	1
第2	会 議	6
第3	広 報	41
第4	委 員 会	48
第5	医療従事者無料職業紹介事業	67
第6	定例研究会	68
第7	全国研究会	79
第8	第一線リーダー研修会	94
第9	第23回病院視察研究会	96
第10	診療録管理通信教育	97
第11	メディカルクラーク通信教育	100
第12	事務長養成課程通信教育	102
第13	セミナー	104
第14	病院幹部医会	109
第15	海外視察研究会	110
第16	調 査 室	111
第17	医療費対策および病院大会	112
第18	第33回日本病院学会	117
第19	第24回日本人間ドック学会	120
第20	第7回日本診療録管理学会	123
第21	'83国際モダンホスピタルショウ	126
附録	要 望 書	127
	役員名簿	146
	委員会委員名簿	153
	会 員 状 況	165

第1. 会 務 報 告

- 4月1日 役員改選が行われ、会長に諸橋芳夫、副会長に若月俊一、河野稔稔、有澤源蔵、竹本吉夫の各氏が選出される
諸橋会長から緊急重要項目として“①団結と協調②医の倫理の確立③病院医療の質の向上④病院経営の健全化⑤税金対策の強化⑥医療機関の適正配置”が述べられた
- 4月12日 内藤前会長と諸橋新会長との引き継ぎが終る
- 4月19日 諸橋新執行部、厚生省幹部（大谷医務局長、吉村保険局長他5名）と懇談する
- 4月21日 諸橋新執行部、日医花岡会長、大西・小池両副会長と懇談をする
- 4月23日 厚生省大谷医務局長を迎え全理事会を開催し、役員の業務分掌、各種制度委員会委員長選任等を協議
- 4月25日 四病院団体連絡協議会（以下四病団）会議を開催し、医療法改正問題について最近の情勢分析と今後の対応を検討する
- 4月26日 諸橋会長と大浜方栄参議院議員と懇談
- 5月1日 勤務医師マニュアル1万8千部に増刷（改訂版）
- 5月6日 諸橋会長、自民党の時局問題懇談会に出席し、医療費是正の申入れを行う
- 5月18日 看護協会総会に有澤副会長出席
- 5月28日 代議員会・総会の席上で諸橋会長吉村論文（医療費抑制に関する論文）に対し、問題点を指摘し“衆知を集め、理論に対しては理論をもって対処してゆきたい”意向を示す
本会顧問に日医花岡会長、参与に看護協会大森会長を委嘱
- 5月28日 第1回顧問会議を開催
- 6月6日 諸橋会長自民党懇談会に出席
- 6月16日 四病団会議を開催し59年度税制改正要聖事項を検討し医療法人の相続税は“中小企業の相続税評価の改正にあわせて類似業種比準方式を適用すること”などを決め強力に推進することを確認
- 6月17日
～19日 '83国際モダンホスピタルショウが開催され、医療関係者延べ2万人が参加
- 6月18日 ホスピタルショウ記念講演会として諸橋会長「わか病院経営を語る」を講演
- 6月30日 国際病院連盟代表者会議がスイス・ローザンヌで開催され、日本から提案（提案者・吉岡理事）の“医の倫理・病院倫理綱領”が採択され世界各国の指標となる
- 7月1日 畑山 博氏（評論家・元毎日新聞論説副主幹）と高山、池谷、鈴木各常任理事とマスコミ対策について懇談
- 7月1日 消防庁自衛消防組織検討委員会、防火管理体制研究委員会の委員を平野常任理事から小原理事に変更
- 7月6日 病院診療報酬適正化推進会議を開催し、厳しい環境下における病院経営の安定化策をめぐ

って討議し、今後具体的行動に入ることを確認

- 7月7日 四病団会議を開催し、59年度税制改正要望事項（相続税を柱に11項目）を厚生省、大蔵省等関係方面に提出
諸橋会長は56年分申告所得税（個人）の税務調査結果での「ごまかし所得」記事について厚生省記者会で会見
- 7月9日 大政 満顧問弁護士叙勲祝賀会がホテルニューオータニで開催
- 7月11日 諸橋会長、五十嵐公私病連会長、北村社保委員長等が、林厚生大臣と面談し、病院診療報酬の早急な改定とその適正化、医療法改正、税制面に関して要望
- 8月19日 内藤前会長に感謝状を贈呈
- 9月1日 会員病院に“信頼される我が病院づくり”の原稿募集を開始
- 9月2日
～3日 第24回日本人間ドック学会を東京で開催
（学会登録者 350 名、延 700 名参加）
- 9月8日
～10日 第33回日本病院学会を浜松で開催
（延 5 千人の参加）
- 9月10日
～12日 アジア病院連盟（加盟 5 ヶ国）のスタディーツアー（135名参加）が浜松を起点に 5 施設を見学
- 9月20日 橋本龍太郎衆議院議員、瀬島竜三氏（第 2 臨調委員）と、本会および政連役員と懇談
- 9月20日 諸橋会長と大浜方栄参議院議員と懇談
- 9月22日 日医の医師大会に諸橋会長ほか参加
- 10月6日 病院診療報酬適正化推進会議は、全国の52病院団体、職能団体の賛同のもと、「国民医療崩壊阻止全国病院大会」を開催し医療保険制度の改悪案の撤回、病院診療報酬改定要求を決議。各政党、厚生省、大蔵省、中医協等に陳情
- 10月10日 第 3 次韓国病医療保険実務研修団来日19日まで研修
- 10月20日 社会保険診療報酬にかかわる事業税の非課税措置撤廃の政府税調答申につき、四病団会議を開催し、私的医療機関を壊滅の危機においやる事業税課税につき断固反対する旨を表明
- 10月20日
～21日 第 7 回日本診療録管理学会を大阪で開催（登録参加 720 名）
- 10月28日 賛助会員と本会幹部との懇談会を、ダイヤモンドホテルで開催
- 11月3日 I H F 事務総長ハーディー氏と諸橋会長ほか国際委員と懇談
- 11月6日 病院会計準則（改正版）納品、会員へ頒布
- 11月17日 健保連設立40周年記念式典に諸橋会長出席
- 11月10日
・21日 四病団会議では、年末総選挙を重視し、①医療法人の相続税②社会保険診療報酬にかかわる事業税につき、実際に要望にそって動いてくれる有力議員を推せんすることで一致

- 11月17日
～ 18日 日本設備協会創立30周年記念、第12回日本設備学会、病院設備展祝賀パーティーに諸橋会長出席
- 11月22日 日医役員と四病団役員と懇談
- 12月2日 四病団会議で総選挙対策を協議
- 12月7日 森 久雄公認会計士、心筋梗塞のため死去
- 12月9日 第2回顧問会議に花岡日医会長が出席。現下の医療費をめぐる諸問題、病院団体の諸情勢等につき懇談
- 12月21日 58年版会員名簿、全会員へ発送
- 1月11日 推進会議と四病団それぞれが、診療報酬緊急是正に関する重点要求項目を厚生省、中医協、日医等関係各方面に申し入れた
- 1月14日 中医協全員懇談会で診療報酬の改定につき、全体平均で2.7%程度の引き上げを行うことで合意
- 1月24日 中医協総会で診療報酬改定についての諮問案を了承、渡部厚相に答申
- 1月25日 千葉県支部（支部長・諸橋芳夫）誕生
- 2月9日 医薬品の公正競争規約の公聴会に池谷常任理事が公述人として出席
- 2月14日
～ 15日 医療費改定説明会を東京・千代田区公会堂、神戸・西山記念会館で開催（参加者・東京469名、神戸354名）
- 2月17日 点数表改正点の解説、薬価基準（速報版）会員へ発送
- 2月25日 日本病院会、全国公私病院連盟と合同実施の「病院概況調査」「病院経営実態調査」まとまる
- 3月6日 林前厚相、医務局長ほか関係者と諸橋会長、河野副会長と懇談
- 3月20日 秋田県病院協会（前多豊吉会長）設立総会に諸橋会長出席
- 3月24日 総会に引き続き、一条勝夫先生の特別講演を実施
- 3月27日 医療費改定にともなう実務研修会を、秋田県生涯教育センターで開催（参加者210名）

庶務、人事

叙勲・褒章（会員病院）

4月29日 勲三等旭日中綬章

浅井一太郎（元虎の門病院長・東京・71）氏

勲三等瑞宝章

大橋 登（元水俣市立病院長・熊本・70）氏

勲四等瑞宝章

池内兵一郎（野上療養所・和歌山・71）氏

大野 俊雄（元青山病院長・東京・78）氏

勲五等双光旭日章

内藤 貞勝（済生会岩泉病院長・岩手・70）氏

勲五等瑞宝章

内村 治信（元富山赤十字病院放射線科技師長・富山・70）氏ほか19名

勲六等单光旭日章

今泉 堅三（元国保黒岩病院診療放射線技師長・青森・63）氏ほか2名

勲六等宝冠章

石井 光江（元横須賀共済病院総婦長・神奈川・63）氏ほか4名

勲六等瑞宝章

阿部 清（元新潟県立吉田病院主任診療放射線技師・新潟・59）氏ほか4名

勲七等宝冠章

加藤 ヤウ（三生会病院病棟主任看護婦・山梨・65）氏ほか3名

黄綬褒章

足立 千里（河田病院総婦長・岡山・54）氏

今吉 清（国立療養所長島愛生園看護助手・岡山・54）氏

11月3日 勲三等瑞宝章

加納 寛一（大宮赤十字病院長・埼玉・70）氏

上高原勝美（鹿児島市立病院長・鹿児島・72）氏

平石 浩（元都立豊島病院長・東京・70）氏

勲四等旭日小綬章

角田 富雄（元社会保険船橋中央病院長・千葉・70）氏

山川 幸男（元市立半田病院長・愛知・74）氏

勲五等瑞宝章

近藤 フミ（王子総合病院婦長・北海道・69）氏ほか7名

勲六等宝冠章

飯泉 智（社保横浜中央病院総婦長・神奈川・58）氏ほか5名

勲六等瑞宝章

石垣さかゑ（元愛知県立尾張病院看護婦長・55）氏ほか5名

黄綬褒章

亀井小寿美（国立療養所長島愛生園看護婦長・岡山・50）氏

藍綬褒章

飯田 文良（山梨県立中央病院長・山梨・60）氏

銀 盃

太田 清一（医療法人財団愛仁会理事長・神奈川・83）

日本顕彰会・社会貢献者表彰

大野 松次（医療法人愛成会会長・神奈川・70）氏

人 事

1. 理 事（退任）

6月1日 長谷川豊男（元静岡市立静岡病院長、院長交代）

8月1日 北原 哲夫（元東京通信病院、院長交代）

8月1日 高橋 政夫（元大森赤十字病院長、院長交代）

10月1日 村田 勇（元富山県立中央病院長、院長交代）

12月24日 清水八洲雄（清水八束病院長、死去）

3月31日 原 俊夫（元公立昭和病院長、院長交代）

2. 代議員

（新 任）

6月25日 京都府・塩津 徳晃（公立南丹病院長）

3月24日 茨城県・林 茂樹（水戸協同病院長）

3月24日 岐阜県・木沢 彰（木沢病院長）

（退 任）

6月25日 寺田 正（元京都市立病院長、院長交代）

6月25日 山田 実男（元山田病院長、院長交代）

3月2日 鈴木 達也（元水戸協同病院長、院長交代）

3. 事務局職員

採 用 江連 修一（5月1日付）

退 職 江嶋 治重（4月30日付）

退 職 小林 保（6月30日付）

第 2. 会 議

総 会

第 1 回総会

5月28日（土） ダイヤモンドホテル 出席 68 名

1. 昭和57年度事業報告に関する件
原案どおり承認
2. 昭和57年度収支決算及び監査報告に関する件
報告を承認

第 2 回総会

3月24日（土） ダイヤモンドホテル 出席 81 名

1. 昭和59年度事業計画（案）に関する件
原案どおり承認
2. 昭和59年度予算（案）に関する件
原案どおり承認
3. 理事の補選について
欠員理事 5名の経営主体別により補選を実施することで承認
4. D会員会費引き上げについて
現行の1万円（年間）を2万円とすることで承認

代 議 員 会

第 1 回代議員会

4月1日（金） ダイヤモンドホテル 出席 61 名

1. 代議員会議長選出の件
財津 晃（滋賀県）を選出
2. 代議員会副議長選出の件
河井 博（東京都）を選出
3. 監事選出の件
太田清一（神奈川県）・戸川 潔（茨城県）を選出
4. 理事選出の件
理事60名の承認

5. 会長・副会長・常任理事の選出結果の件

書面報告とすることで承認

6. 顧問・参与委嘱の件

書面審理（定款第26条）とすることで承認

第2回代議員会

5月28日（土） ダイヤモンドホテル 出席 27名

1. 昭和57年度事業報告に関する件

原案どおり承認

2. 昭和57年度収支決算及び監査報告に関する件

報告を承認

3. 顧問・参与の委嘱に関する件

顧問9名、参与4名の紹介があり提案どおり承認

第3回代議員会

3月24日（土） ダイヤモンドホテル 出席 26名

1. 昭和59年度事業計画（案）に関する件

原案どおり承認

2. 昭和59年度予算（案）に関する件

原案どおり承認

3. 理事の補選について

欠員理事5名の経営主体別により補選を実施することで承認

4. 参与の委嘱について

（社）日本病院薬剤師会会長平岡栄一氏を承認

5. D会員会費引き上げに関する件

現行1万円（年間）を2万円とすることで承認

理 事 会

第1回理事会

4月1日（金） ダイヤモンドホテル 出席 54名

1. 会長選出に関する件

諸橋芳夫理事（千葉県・国保旭中央病院長）を会長に選出

2. 副会長選出に関する件

（公的）竹本吉夫（秋田赤十字病院長）・若月俊一（佐久総合病院長）・（私的）有澤源蔵（有澤総合病院長）・河野 稔（北品川総合病院長）の各氏を選出

3. 常任理事選出に関する件
公的7名、私的8名を選出
4. 理事会・常任理事会開催計画に関する件
提案どおり承認
5. 顧問・参与の委嘱に関する件
顧問3名（内藤景岳・野村秋守・遠山 豪各氏）の就任と参与2名の退任を承認

第2回理事会

4月23日（土） 日病会議室 出席41名

1. 昭和57年度事業報告について
原案どおり承認
2. 昭和57年度収支決算、監査報告について
原案どおり承認
3. 役員の業務分掌・及び各種制度委員会委員長の選任について
原案どおり承認
4. 顧問・参与の参嘱について
顧問に花岡堅而氏、参与に大森文子氏を委嘱することで承認
顧問会議の設置を承認
5. 病院診療報酬適正化推進会議、四病院団体連絡協議会の今後の対応及び代表委員選任について
原案どおり承認
6. 会員の入退会について
報告を了承。4月23日現在正会員1,767会員、賛助会員384会員
7. 顧問・参与の委嘱に伴う代議員会書面審理の結果報告について
報告を了承
8. 厚生省幹部、日医会長副会長との懇談結果について
報告を了承
9. '83国際モダンホスピタルショウの進捗状況について
報告を了承
10. 日本病院学会の日本医学会加盟について
報告を了承
11. 第33回日本病院学会（浜松市）の進捗状況について
報告を了承
12. 大韓病院協会定例第24回学会（4月26日）への吉岡理事派遣について

吉岡理事を派遣することで了承

13. 役員会の開催方法について

提案どおり承認

14. 事務職員の任免について

江嶋治重 4月30日付で退職のため 5月1日付で江連修一を採用

15. (財)日本医療食協会の要望について

報告を了承

16. 日本病院会政治連盟について

会長副会長会議にて検討することで了承

第3回理事会

9月7日(水) 浜松市・グランドホテル“白鳥の間” 出席 36名

1. 理事・代議員の退任及び交代について

下記の報告を承認

(理事退任)

静岡県 長谷川 豊 男 静岡市立静岡病院

東京都 高橋 政 夫 大森赤十字病院

東京都 北原 哲 夫 東京通信病院

(代議員退任)

岐阜県 山田 実 男 山田病院

京都府 寺田 正 京都市立病院

(代議員選出)

京都府 塩津 徳 晃 公立南丹病院

2. 顧問の委嘱について

大浜方栄氏の顧問委嘱を承認

3. 昭和59年・60年・61年の日本病院学会について

報告を承認

昭和59年 第34回・高知県・近藤慶二学会長

(59年11月8日～10日)

昭和60年 第35回・三重県・遠山 豪学会長(期日未定、金土の2日)

昭和61年 第36回・神奈川県・(社)神奈川県病院協会会長

(61年7月17日～19日) 神奈川県県民ホール

4. 「わが病院を語る一信頼される病院作り」の出版企画について

報告を承認

5. (社)日本租税研究協会への入会について
提案どおり入会を承認
6. 医療とニューメディアを考える会について
大道常任理事、三宅浩之委員長を世話人として推せんすることで承認
7. 社会保険診療報酬の対策について
理事会名で声明を出し、病院大会を実施することで承認
8. 税制対策について
59年度の税制改正の要望書を厚生省に提出した
9. 医療法の一部改正について
大道常任理事が原稿を執筆することで承認
10. 会員増強対策について
組織委員会で検討することで承認
11. 「全国病院団体連盟(仮称)」の設立について
現況説明にて了承
12. 会員の入退会について
報告を了承。正会員 1,834 会員、賛助会員 381 会員
13. 短期人間ドック、自動化健診施設の指定について
報告を了承
(短期人間ドック指定)
 - 岩手県 松園病院 116床(判定 2床)
 - 広島県 本永病院 160床(判定 2床)
 - 山口県 社保徳山中央病院 420床(判定 10床)
 - 兵庫県 伊丹市立伊丹病院 405床(判定 3床)
 - 兵庫県 田畑胃腸病院 106床(判定 2床)
 (自動化健診指定)
 - 新赤坂クリニック
 - 東京簡易保険郵便年金会館健診センター
14. 賛助会員への対応について
共存、共栄を計るため懇談会の実施を了承
15. 各種制度委員会・研究会委員の決定および開催結果報告について
報告を了承
16. 四病院団体連絡協議会の開催結果について
59年度の税制改正の要望書を関係省庁に提出

17. 病院診療報酬適正化推進会議の開催結果について
国民医療確保のための病院診療報酬適正化に関する要望決議を厚生大臣に陳情
18. 公取委の製薬協に対する独禁法違反の排除勧告、及び卸業連合会への警告処分について
報告を了承
19. 日本病院学会の日本医学会への加盟申請結果について
報告を了承
20. 日本病院学会評議員の異動について
異動の報告を了承
(評議員に推せん者)
登内 真・丹野清喜・鈴木憲輔・岡崎 通・岡本隆一・近藤慶二 各氏
(評議員から削除)
長谷川 功・美甘義夫・原 素行・尾口平吉 各氏
(評議員から名誉評議員へ異動)
内藤比天夫・小野田敏郎・島内武文・杉岡直登・三宅 博 各氏
(評議員からその他の評議員へ異動)
上泉 隆・大久保正一・日野原重明・倉田正一・西岡清春・伊藤吉孝 各氏
21. 昭和59年春の叙勲および賜杯並びに褒章受章候補者の推せんについて
小野 肇理事の推せんを了承
22. 昭和58年度社会貢献表彰候補者の推せんについて
大野松次・外口正枝両氏を推せん
23. '83国際モダンホスピタルショウの開催結果及び'84国際モダンホスピタルショウの開催について
報告を了承。84年は6月15日(金)～17日(日)
24. I H F理事の推せん結果について
河野副会長が選出された報告を了承
25. I H Fスペシャル・スタディー・ビジットの対応とハーディー事務総長の来日について
常任理事会で再検討
26. 大韓病院協会主催第24回定例学会への出席報告について
報告を了承
27. 中華民国医院行政協会(台湾病院協会)第16回定例学会への出席報告について
報告を了承
28. A H Fスタディーツアーの準備状況について
報告を了承

29. 昭和58年度第1四半期会計報告および監査報告について
報告を了承
30. 常任理事会の運営について
期日前に資料を送付し、各役員に事前に検討することで了承
31. 消防庁の自衛消防組織検討委員会、防火管理体制研究委員会委員の交代について
小原理事に交代することを了承
32. 事務局職員の退職について
江嶋治重（4月30日付）、小林 保（6月30日付）の退職報告を了承
33. 労働災害総合保険、身元信用保険の団体契約について
報告を了承
34. （財）日本建築防災協会からの評議員委嘱依頼について
諸橋会長の委嘱承諾を了承
35. 第12回日本設備学会併設展示 83病院設備展に対する協賛名義依頼について
協賛することで了承
36. 第1回医療審議会の開催結果について
報告を了承
37. （社）日本医師会社会保険研究委員会の開催結果について
報告を了承
38. （社）日本医師会医業経営検討委員会の開催結果について
報告を了承
39. 川崎医療短期大学の医療秘書科通信教育について
本会も協力することで承認

第4回理事会

11月26日（土） 日病会議室 出席 41名

1. 創立33周年記念事業について

提案どおり承認

- | | | | |
|-------|----------|-------------|---------|
| ① 日 時 | 5月29日（火） | 10:00～12:50 | 理事会 |
| | | 13:00～14:50 | 代議員会、総会 |
| | | 15:00～16:20 | 記念講演 |
| | | 16:30～17:15 | 記念式典 |
| | | 17:30～19:00 | 記念パーティー |

⊙ 場 所 東京・帝国ホテル

⊙ 講 演 倉敷中央病院・鷹取保三郎常務理事を予定

- ㊦ 表彰 厚生大臣表彰は公的、私的病院あわせて20名位とする。
理事10年以上位とし、会長表彰は20～30名とし、記念品は別途考慮するものとする。
 - ㊧ 30年史 現在、小野田顧問を中心に作成中
 - ㊨ 「我が病院を語る」の出版について
現在、学術委員会で執筆依頼中
 - ㊩ 招待者 2月の理事会で発表したい
2. 定款施行細則の変更について
第1条に“医師である開設者”の規定、第8条の見出しの変更を承認
 3. 通信教育の受講料改定について
提案どおり承認
 - 診療録管理 年間 54,000 円 → 60,000 円
 - メディカルクラーク 年間 54,000 円 → 64,000 円
 4. 日本救急医療ヘリコプター準備室の発起人について
提案どおり承認
 5. 社会保険診療報酬対策について
11月17日付で要望書を提出
 6. 病院税制対策について
医業に対する事業税の課税については、すでに反対しており、今後総選挙、選挙終了後も強力に推進してゆくこと了承
 7. 病院経営対策について
病院経営の実状を公的病院側から訴えた方が通りが良いと思うので積極的に推進してゆくこと了承
 8. 医療法改正について
医療審議会への病院団体代表、日医代議員への代表についての運動を積極的に展開すること了承
 9. 選挙対策について
提案どおり了承
 10. 全国病院団体連盟（仮称）について
今後様子を見るということで結論は得られず
 11. 昭和59年度事業計画について
提案どおり承認
 12. 会員増強対策について

組織委員会で検討することで了承

13. 会員の入退会について

報告を了承。正会員 1,846 会員、賛助会員 390 会員

14. 短期人間ドック施設の指定について

下記施設の報告を了承

①	和歌山県	和歌山赤十字病院	664床 (判定4床)
②	福岡県	福岡県医師会成人病センター	120床 (判定5床)
③	岩手県	盛岡繋温泉病院	230床 (判定4床)
④	鹿児島県	今村病院	153床 (判定6床)
⑤	愛知県	名古屋掖済会病院	376床 (判定4床)
⑥	神奈川県	国立横須賀病院	350床 (判定4床)
⑦	〃	伊勢原協同病院	430床 (判定8床)

15. 学会の開催結果および次期学会の準備状況について

報告を了承

16. 各種委員会の開催結果について

報告を了承

17. 研究会、セミナーの開催結果について

報告を了承

18. 第2四半期会計報告および監査報告について

報告を了承

19. 第33回日本病院学会の会計報告および監査報告について

報告を了承

20. 病院診療報酬適正化推進会議の開催結果について

報告を了承

21. 四病院団体連絡協議会の開催結果について

報告を了承

22. 理事の退任について

報告を了承

富山県 村田 勇氏 富山県立中央病院 (院長交代のため)

23. 昭和58年秋の勲章、褒章受章者について

報告を了承

勲三等瑞宝章 加納 寛一 大宮赤十字病院長

勲三等瑞宝章 上高原 勝美 鹿児島市立病院長

黄 綬 褒 章 亀 井 小 寿 美 国 立 療 養 所 長 島 愛 生 園 看 護 部 長
藍 綬 褒 章 飯 田 文 良 山 梨 県 立 中 央 病 院 長

24. (財)日本顕彰会社会貢献者表彰について
大野松次氏が表彰
25. A H F スタディーツアーの開催結果について
報告を了承
26. 第3次韓国病院視察団の研修視察について
報告を了承
27. I H F ハーディー事務総長の来日について
報告を了承
28. I H F 実行委員会への出席報告について
報告を了承
29. 全日本病院協会会長との懇談結果について
報告を了承
30. 日本医師会“医師大会”の開催結果について
報告を了承
31. 病院大会の開催結果について
報告を了承
10月6日(木) 東京・千代田区・第一生命ホール 参加者数1,100名
32. 社労委への出席要請について
要請した旨の報告がなされた。
33. 賛助会員との懇談会開催結果について
報告を了承
34. '84モダンホスピタルショウ出品説明会の開催について
報告を了承
35. 診療録管理通信教育二年次編入について
国際医療管理専門学校(東京・熱海・名古屋)、医療技術学園専門学校(東京医薬専門学校)の両校を承認
36. M E 機器の調査について
報告を了承
37. 病院の検査部門に関するアンケート調査について
統計調査部会で実施する旨の報告
38. V I P ホテルシステムの入会について

報告を了承

39. (財) 流通システム開発センターからの委員派遣依頼について

報告を了承

業務用石油ガス消費実態調査委員会

本会施設研究会委員長 倉持一雄

40. (財) 日本メディック・アラート国際協会への協力について

協力することで了承

第 5 回理事会

2月25日(土) 日病会議室 出席 41名

1. 昭和59年度事業計画について

原案どおり承認

2. 昭和59年度予算(案)について

原案どおり承認

3. 理事の補選について

欠員理事5名および4月1日付で退任する理事の補選を実施することで承認

4. 参与の委嘱について

(社) 日本病院薬剤師会 会長 平岡栄一氏を承認

5. 診療報酬改定に伴う実務解説講習会の開催について

東北地区を対象として3月27日秋田市で実施することで承認

6. 厚生省の医療保険制度改革(案)について

各役員の意見を拝聴した

7. 社会保険診療報酬対策について

今後も運動を展開してゆくことで了承

8. 病院税制対策について

活動報告を了承

9. 病院経営について

報告を了承

10. 会員増強対策について

提案を継続審議することで了承

11. 会員の入退会について

正会員入会29件、退会20件、賛助会員入会12件、退会3件の報告を了承

2月25日現在 正会員1,855会員、賛助会員399会員

12. 自動化健診および短期人間ドック実施施設の指定について

下記施設を報告了承

(自動化健診施設)

東京都・(財)協栄生命健康事業団原宿検診所

(短期人間ドック施設)

宮城県・東北公済病院 335床(判定4床)

大阪府・藤本病院 155床(判定4床)

13. 各種委員会の開催結果について

報告を了承

14. 各種研究会、セミナーの開催結果について

報告を了承

15. 診療報酬、薬価基準改定に伴う解説書、説明会について

報告を了承

16. 昭和59年度人間ドック、自動化健診料金の契約について

本会と健保連との契約報告にて了承

17. 創立33周年記念事業の進捗状況について

報告を了承

18. 学会の進捗状況について

日本病院学会、日本人間ドック学会、日本診療録管理学会の報告を了承

19. アジア地域大会およびスタディービジットについて

経過報告を了承

20. 日本病院会千葉県支部の設立について

1月25日発足した旨の報告を了承

21. 医療法改正について

報告を了承

22. 病院診療報酬適正化推進会議について

活動報告を了承

23. 四病院団体連絡協議会について

活動報告を了承

24. '84国際モダンホスピタルショウ進捗状況について

進捗状況報告を了承

25. 社団法人日本医師会の動きについて

現況報告を了承

26. 清水八洲雄理事のご逝去について

- ご逝去された旨の報告を了承
(12月24日交通事故にて死去)
27. 森 久雄顧問会計士のご逝去について
ご逝去された旨の報告を了承
(12月7日心筋梗塞で死去)
28. 薬品の公正競争規約について
2月9日の公聴会等の報告を了承
29. 第2回顧問会議の開催結果について
報告を了承
30. 全日病新年交歓会への出席について
出席した旨の報告を了承
31. 公私連との合同調査について
診療報酬、薬価基準改定の影響率調査を実施することで了承
32. 渡部厚生大臣との懇談会について
現況報告を了承
33. 昭和58年度第3四半期会計報告および監査報告について
報告を了承

常任理事会

第1回常任理事会

4月23日(土) 日病会議室 出席 24名

1. 役員の業務分掌に関する件
提案どおり承認
2. 本会各種制度委員会委員長の選任に関する件
12委員会、5部会の委員長、副委員長を承認
3. 諸規程の整備に関する件
整備することで承認
4. 本会顧問・参与の委嘱に関する件
顧問に花岡日医会長、熊谷日本医学会会長、参与に大森看護協会会長を承認
5. 病院診療報酬適正化推進会議、四病院団体連絡協議会の今後の対応及び代表委員の選任について
四団体の代表委員、総合部会、税制委員会、医療法委員会、医療経済委員会の委員と病院診療報酬適正化推進会議の代表委員、推進委員を選任し承認

6. 役員会の開催方法について
 - ① 昭和58年度役員会開催期日の変更について
 - ② 開催時刻の変更について提案どおり承認
7. 昭和57年度事業報告について
報告を承認
8. 昭和57年度収支決算、監査報告について
報告を承認
9. 会員の入退会について
正会員 8 件の入会、賛助会員入会 1 件、賛助会員退会 2 件を承認
4 月23日現在 正会員 1,763 会員、賛助会員 384 会員
10. 短期人間ドック実施指定について
下記施設を承認
栃木県・小山市立小山市民病院 244 床（判定 6 床）
東京都・日通健保組合東京病院 162 床（判定 2 床）
広島県・須波成人病病院 60 床（判定 2 床）
11. 医療食協会からの評議員変更要請について
内藤前会長から諸橋新会長に変更することで承認
12. 政治連盟について
日病と表裏一体で活動することを再確認して了承
13. 顧問・参与の委嘱に伴う代議員会書面審理の結果報告について
8 名の顧問、3 名の参与を承認した旨の報告を了承
14. 四病院団体連絡協議会の活動について
報告を了承
15. 4 月19日厚生省幹部、21日日本医師会正副会長との懇談結果について
報告を了承
16. '83国際モダンホスピタルショウの進捗状況について
報告を了承
17. 日本病院学会の日本医学会加盟について
役員の協力要請を了承
18. 大韓病院協会定例第24回学会（4 月26日）への吉岡理事派遣について
吉岡理事の派遣を承認
19. 第33回日本病院学会（浜松市）の進捗状況について

報告を了承

20. 事務局職員の任免について

江嶋治重の退職、江連修一の採用を承認

第2回常任理事会

5月28日(土) ダイヤモンドホテル「黄金の間」 出席24名

1. 研究会、セミナーと広報活動の関連に関する件

広報委員長が執筆を依頼することを了承

2. 会員増強に関する件

対策案を了承

3. IHF常任理事へ河野副会長立候補にあたっての対応策について

河野副会長を各国に依頼することで承認

4. 医学生育英資金の協賛に関する件

財政的な理由で今回は否決された

5. 病院長セミナーに関する件

8月6日か7日に実施することで承認

6. 58年度の四病院団体連絡協議会で連携する基本的事項について

報告を了承

7. 第34回日本病院学会に関する件

高知県で実施する方向で了承

8. 日本病院会和歌山県支部の要望書について

大同団結の要望書の紹介を了承

9. 日本医学会への加盟申請に関する件

提案どおり承認

10. 会員の入退会について

正会員入会28件、退会3件、賛助会入会1件、退会4件を承認

5月28日現在 正会員1,792会員、賛助会員381会員

11. 各種制度委員会委員の選任について

医療制度委員会、国際委員会、組織委員会委員の就任、変更を承認

12. 日本病院学会評議員の異動、推せんについて

異動等の報告を承認

13. 昭和58年度社会貢献表彰候補者の推せんについて

2名の推せんを承認

14. 第12回日本設備学会併設展示'83病院設備展に対する協賛名義依頼について

協賛することで承認

15. 中華民国医院行政協会（台湾病院協会）第16回定例学会への会長出席および講演に関する件

会長が出席し講演することで承認

16. 33周年記念式典に関する件

5月29日（火）、帝国ホテルで開催することで承認

17. '84国際モダンホスピタルショウの共催について

（社）日本経営協会と共催することで承認

18. 夏期賞与の支給について

提案どおり承認

19. 四病院団体連絡協議会の開催結果について

報告を了承

20. 各種委員会・研究会の開催結果について

報告を了承

21. '83国際モダンホスピタルショウの小間割決定について

報告を了承

22. 昭和58年度研究会委員の決定について

報告を了承

23. 昭和58年度病院運営実態分析調査の実施について

実施することで了承

24. 第1回医療審議会の開催結果について

報告を了承

25. 社団法人神奈川県病院協会からの老人保健法に関する意見書について

報告を了承

26. 大韓病院協会主催第24回定例学会への出席報告について

報告を了承

27. 1983年A H F スタディーツアーの準備状況及び経過報告について

報告を了承

28. （株）日本病院共済会からの助成等について

助成を受けることで了承

29. 日本医師会社会保険研究委員会の開催結果について

報告を了承

30. 日本医師会医療経営委員会の開催結果について

報告を了承

第3回常任理事会

6月25日(土) 日病会議室 出席 19名

1. 社会保険診療報酬の対策について
各役員の見解を社会保険委員会でまとめ次回の常任理事会に報告することで了承
2. IHFスペシャル・スタディー・ビジットに伴う特別委員会設置及びハーディ事務総長の来日について
国際委員会が担当することで了承
3. IHF理事の推せんについて
河野副会長を推せんすることで了承
4. 病院団体連合会構想について
諸団体の活動等を見、時期を待つことで了承
5. 日本医学会加盟について
再度役員への協力要請を了承
6. 第34回学会について
高知県で実施する方向で了承
7. 政治連盟について
今後再検討することで了承
8. 常任理事会の運営について
会議の効率化を図るため資料を事前に送付することで了承
9. 56年10月中医協の医療経済実態調査に関する公私連の見解について
報告を了承
10. 病院診療報酬適正化推進会議の開催について
7月上旬に実施する方針で了承
11. 自衛消防組織検討委員会、防火管理体制研究委員会委員の交代について
平野常任理事から小原理事に交代することで了承
12. 会員の入退会について
正会員入会12件、賛助会員入会1件、退会1件を承認
6月25日現在 正会員1,805名、賛助会員381名
13. (財)日本建築防災協会からの評議員委嘱依頼について
依頼どおり会長が就任することで承認
14. 病院長(含病院幹部)セミナーの開催次第について
提案どおり承認

15. 各種制度委員会委員の変更について
国際、臨床予防医学両委員会、勤務医対策部会、労務・福利厚生・物品部会の委員の変更を承認
16. 短期人間ドック及び自動化健診施設の指定について
下記施設を承認
(短期人間ドック)

岩手県・松園病院	116床(判定2床)
広島県・本永病院	160床(判定2床)
山口県・社保徳山中央病院	420床(判定10床)

(自動化健診)

東京都・新赤坂クリニック
〃・東京簡易保険郵便年金会館健診センター
17. 代議員の退任に伴う変更について
下記変更を承認
(京都府)

新	塩津 徳晃(公立南丹病院長)
旧	寺田 正(元京都市立病院長:退職のため)
18. 社団法人日本租税研究協会への入会について
入会することで承認
19. 各委員会、研究会の開催結果について
報告を了承
20. 自民党懇談会の出席結果について
報告を了承
21. 四病院団体連絡協議会の開催結果について
報告を了承
22. '83国際モダンホスピタルショウの開催結果について
報告を了承
23. 公取委の“製薬協に対する独禁法違反の排除勧告、卸業連合会への警告処分”について
報告を了承
24. 中華民国医院行政協会(台湾病院協会)第16回定例学会への出席報告について
報告を了承
25. 第33回日本病院学会の進捗状況について
報告を了承

26. (社)日本医師会社会保険研究委員会について
報告を了承
27. (社)日本医師会医業経営検討委員会について
報告を了承
28. 公庫資金の活用について
本年度も公庫業務を実施する旨の報告を了承
29. 内藤前会長への感謝状、記念品の贈呈について
諸橋会長が8月19日持参することです承
30. 労働災害総合保険について
本会事務局職員にも適用させることです承
31. 日本病院会雑誌、銷夏随筆の投稿依頼について
役員への協力依頼です承

第4回常任理事会

7月23日(土) 日病会議室 出席26名

1. 社会保険診療報酬の対策について
日医、各団体の意見もきくこととし、社会保険委員会に諮問し答申を受け再度常任理事会で検討することです承
2. 税制対策について
相続税についての提案・意見を提出してもらうことです承
3. 医療法の一部改正について
医療制度委員会で検討することです承
4. AHFスタディーツアーの対策について
国際委員会での計画を実施してゆくことです承
5. 「わが病院を語る—信頼される病院作り—」の出版企画について
創立33周年記念に合わせて出版する方針で承認
6. 昭和59年春の叙勲および賜杯並びに褒章受章候補者の推せんについて
小野理事(神奈川県)を推せんすることです承
7. 会員増強対策について
中小病院の魅力あることを計画することです承
8. 「全国病院団体連盟(仮称)」の設立について
意見拝聴を了承
9. 賛助会員への対応について
執行部との懇談会を実施することです承

10. 統計調査部会の運営について
次回常任理事会にて協議することで了承
11. 公取委の勧告に対する京都市立病院協会の見解
行政に対し本会の見解を表明することで了承
12. 会員の入退会について
正会員入会19件、退会 2件、賛助会員入会 1件、退会 2件を承認
7月23日現在 正会員 1,822 会員、賛助会員 380 会員
13. 短期人間ドック実施指定について
下記 2 施設を承認
兵庫県・伊丹市立伊丹病院 405 床（判定 3 床）
〃 ・田畑胃腸病院 106 床（判定 2 床）
14. 日本病院学会の開催について
第34回（59年11月 8 日～10日）高知県（近藤慶二学会長）、第35回・三重県（遠山豪学
会長）、第36回（61年 7月17日～19日）神奈川県にて開催することで承認
15. 医療とニューメディアを考える会の代表世話人について
代表世話人に諸橋会長、世話人に大道常任理事、三宅委員長を選任することで承認
16. 日本病院共済会企画による海外病院視察旅行の本会名義使用依頼について
名義使用を承認
17. 事務局職員の退職について
小林 保の退職を了承、事務職員の永年勤続表彰制度を検討することで了承
18. 顧問の委嘱依頼について
大浜方栄参議院議員を委嘱依頼することで承認
19. 理事の退任について
2名の理事退任を承認
高橋 政夫氏（大森赤十字病院長：院長交代）
長谷川豊男氏（元静岡市立静岡病院長：院長交代）
20. IHF理事推せん結果について
河野副会長が選出された旨の報告を了承
21. 各種委員会の開催結果について
報告を了承
22. 四病院団体連絡協議会の開催結果について
報告を了承
23. 病院診療報酬適正化推進会議の開催結果について

報告を了承

24. 病院の脱税報道に伴う本会の見解表明について
7月7日に厚生省日比谷クラブにて事情説明を実施した旨の報告を了承
25. 日本病院学会の日本医学会への加盟申請結果について
申請は承認されなかったが、4年後に再度加盟申請することで承認
26. 第33回日本病院学会の経過報告について
報告を了承
27. マスコミ対策懇談会の開催結果について
広報の参考としてゆくことで了承
28. 病院長セミナーの懇談会の開催について
80名の限定で実施することで了承
29. 身元信用保険の採用について
会員病院に勧め取扱いについては日本病院共済会が実施することで了承
30. 吉岡理事のIHF理事退任に伴う感謝状の贈呈について
会議席上にて感謝状、記念品を贈呈した。

第5回常任理事会

8月27日(土) 日病会議室 出席 24名

1. 医療の質の向上について
意見拝聴で了承
2. 社会保険診療報酬対策について
9月7日の理事会において8割給付反対等の声明書を出すこと、病院大会は10月6日(木)に開催することで承認
3. 病院の経営対策について
病院大会において病院の現状、実情等、経営健全化を訴えることで了承
4. 医療法の一部改正について
衆・参両院の社労委員会に要望書を提出することで承認
5. 税金対策について
四団体の59年度税制改正要望事項に月額表乙欄の税率見直について要望項目に追加することが承認
6. レインボーシステムについて
導入に際しては、安全対策を図り実施してもらうことで了承
7. 1984年IHFスペシャルスタディービジット開催計画案および準備について
準備委員会を設置することが承認され委員選任については国際委員長に一任することで

承認

8. 33周年記念式典の表彰について

下記のとおり承認（表彰の人選については検討中）

5月28日（月）常任理事会 14:00～17:30

5月29日（火）代議員会・総会 10:00～12:00

記念講演会 13:00～16:15

記念式典 16:30～17:15

パーティー 17:30～19:00

9. 「信頼される我が病院作り10項目」について

学術委員会での検討結果を承認

10. 資料室の設置について

設置を承認

11. 会員増強対策について

意見拝聴で了承

12. 各常任理事の提案事項について

統計調査部会の今後のあり方について

予算的問題を加味した次回常任理事会にて検討することで了承

13. 9月7日の全理事会への提案、報告について

“8割給付反対の声明書”病院大会の実施、を提案することで了承

14. 医師大会の実施について

参加要請に対し本会からも出席することで了承

15. 会員の入退会について

正会員入会8件、退会1件、賛助会員入会2件、退会1件を承認

8月27日現在 正会員1,829会員、賛助会員381会員

16. 健康保険組合連合会“第18回健康強調月間”に対する協力依頼について

依頼どおり承認

17. 日本衛生検査協会“第6回臨床検査月間”への協賛名義依頼について

協賛することで承認

18. 第12回日本病院設備学会の後援名義使用依頼について

後援することで承認

19. 川原邦彦氏のアメリカ病院管理学会入会の推せん状交付かたの依頼について

“講演実績証明書”を交付することで承認

20. 病院防災対策セミナーの開催について

提案どおり実施することが承認

21. 国際モダンホスピタルショウの委員委嘱について
実行委員22名、企画委員会委員15名を承認
22. 四病院団体連絡協議会、医療経済委員会の開催結果について
報告を了承
23. 昭和58年度第1四半期会計報告および監査報告について
報告を了承
24. 1983年アジア病院連盟スタディーツアーの実施について
9月10日～12日の開催について役員各位のご協力願ひにて了承
25. 各種制度委員会セミナーの開催結果について
報告を了承
26. 近畿病院団体連合会の会議開催結果について
報告を了承
27. 内藤景岳前会長に、感謝状と記念品贈呈について
贈呈した旨の報告を了承
28. 学会の進捗状況について
報告を了承
29. 公正取引委員会の資料について
報告を了承
30. 川崎医療短期大学の医療秘書科通信教育について
本会のニュース等でPRすることで承認

第6回常任理事会

9月24日（土） 日病会議室 出席 27名

1. 社会保険診療報酬対策について
2. 厚生省、政府の昭和59年度予算概算要求について
拝聴した意見を十分に反省させ公式の場で発表することで承認
3. 国民医療崩壊阻止全国病院大会の開催について
10月6日（木）に第一生命ホールにて開催するので役員の協力を願うことで承認
4. 全国病院団体連盟（仮称）の結成について
反対の意見もなかったため、大同団結に向けての全国病院連盟（仮称）の設立に加盟する方針が承認された。
5. 日本病院会政治連盟との連携について

常任理事会には、日病政連委員長も出席願うことでした承

6. 韓国の第3回医療実務研修団の来日について

接遇は本会医事研究会に担当願うことでした承

7. 四病院団体連絡協議会について

活動報告を了承

8. 会員の入退会について

正会員入会1件、賛助会員入会3件、退会1件を承認

9月24日現在 正会員1,835会員、賛助会員383会員

9. 短期人間ドック施設の指定について

下記施設を承認

和歌山県・和歌山赤十字病院 664床(判定4床)

10. 医療紛争防止のためのセミナー開催について

1月9日～10日で開催することを承認

11. 各種制度委員会の開催結果について

報告を了承

12. 第24回人間ドック学会の開催結果について

報告を了承。第25回は愛知県・名古屋市(岡山学会長)において開催することが承認

13. 第33回日本病院学会の開催結果について

報告を了承。9月8日(木)～10日(土) 於:浜松市民会館、延5,000名の参加

14. A H F スタディーツアーの開催結果について

報告を了承

15. 全理事会“声明書”送付について

16. 社会労働委員会への出席要請について

理事会名で“8割給付反対”の声明書を厚生省、衆・参社労委員会等に声明書を提出した旨と社労委員会への出席要請を行った旨の報告にて了承

17. 社団法人 日本医師会“医師大会”の開催結果について

報告を了承

18. 医療法の改正について

次回再検討で了承

19. 代議会書面審理の中間報告について

大浜方栄氏の代議員会書面審理結果報告を了承

20. M E 機器の調査について

協力要請を了承

21. 第34回日本病院学会について

報告を了承

第7回常任理事会

10月29日（土） 日病会議室 出席 25名

1. 社会保険診療報酬対策について
各役員の見意見を反映させ活動を強化してゆくことで了承
2. 病院の経営対策について
意見拝聴で了承
3. 政治連盟との連携について
本会との一心同体の活動の確認と会費については公的病院にも依頼することで承認
4. 全国病院団体連盟（仮称）設立準備会の発足について
各役員の見意見聴取で了承
5. 昭和59年度事業計画について
提案どおり承認
6. 創立33周年記念事業について
日程、記念講演、表彰、招待者等について提案どおり承認
7. 病院倫理について（IHF諮問のアンケート調査について）
本会としてのアンケートの回答とすることで承認
8. “医療法改正について”の投稿依頼について
大道常任理事に執筆依頼することで承認
9. 会員の入退会について
正会員入会8件、退会2件、賛助会員入会7件、退会2件を承認
10月29日現在 正会員1,841会員、賛助会員386会員
10. 定款施行細則の変更について
提案どおり承認。11月の理事会に諮ることで承認
11. 診療録管理通信教育二年次編入について
下記2施設を承認
国際医療管理専門学校
大阪医療技術学園専門学校（東京医薬専門学校）
12. 通信教育受講料等の改定について
下記のとおり承認
診療録管理 年間60,000円
メディカルクラーク 年間64,000円

(講師謝礼 時間当り 10,000 円)
(レポート採点料を 400 円)

13. 病院の検査部門に関するアンケート調査について
統計調査部会の指導、監督により実施することで承認
14. 日本救急医療ヘリコプター準備室発起人の委嘱について
発起人に就任することで承認
15. ハーディー氏来日に伴う晩さん会の開催について
提案どおり承認
16. 短期人間ドック実施指定について
下記 3 施設を承認
岩手県・盛岡繋温泉病院 230 床 (判定 4 床)
福岡県・福岡市医師会成人病センター 120 床 (判定 5 床)
鹿児島県・今村病院 153 床 (判定 6 床)
17. 各種制度委員会、研究会、セミナーの開催について
報告を了承
18. 国民医療崩壊阻止全国病院大会の開催結果について
報告を了承
19. 第 7 回日本診療録管理学会の開催結果について
報告を了承
20. 昭和 58 年度第 2 四半期会計および監査報告について
報告を了承
21. アジア病院連盟スタディーツアー収支報告について
報告を了承
22. 賛助会員との懇談会開催結果について
報告を了承
23. 診療報酬適正化推進会議の開催結果について
報告を了承
24. 四病院団体連絡協議会の開催結果について
報告を了承
25. '83 国際モダンホスピタルショウの事業報告およびホスピタルショウ委員会について
報告を了承
6 月 17 日 (金) ~ 19 日 (日)
延 16,770 名の参加者

26. 第3次韓国病院視察団の研修視察について
報告を了承
27. (財)日本顕彰会社会貢献者表彰について
大野松次氏が受彰した旨の報告を了承
28. 第23回病院視察研究会参加要請について
参加要請を了承
29. フィリピン学会への参加要請について
欠席する旨の回答で了承
30. VIPホテルシステムの入会について
報告を了承
31. (財)流通システム開発センターからの委員派遣依頼について
倉持一雄(施設研究会委員長)氏の依頼を承認
32. (財)日本メディック・アラート国際協会からの協力依頼について
協力することで承認

第8回常任理事会

11月26日(土) 日病会議室 出席 22名

1. 社会保険診療報酬対策について
意見統一は図らず意見拝聴で了承
2. 病院の経営対策について
資料一読で了承
3. 病院税制・医療法について
社会保険診療報酬に対する事業税課税反対を強力に推進することで承認。医療法については大道常任理事の執筆を参考してもらうことで了承
4. 選挙対策について(政治連盟)
公的病院のご協力も願うことで了承
5. 顧問会議の開催について
12月9日(金)に開催することで了承
6. 病団連結成準備会について
病院診療報酬適正化推進会議で当分の間様子を見ることで了承
7. 会員の入退会について
正会員入会5件、賛助会員入会5件、退会1件を承認
11月26日現在 正会員1,846会員、賛助会員390会員
8. 短期人間ドック施設の指定について

下記 3 施設を承認

- 愛知県・名古屋掖済会病院 376 床 (判定 4 床)
- 神奈川県・国立横須賀病院 350 床 (判定 4 床)
- 〃 ・伊勢原協同病院 430 床 (判定 8 床)

9. 理事の退任について

退任した旨の報告を了承

村田 勇氏 (富山県立中央病院長・10月1日院長交代)

10. “第8回九州科学機器展” “第5回九州医科器械展”の後援について

後援を承認

11. I H F 海外論文募集について

日本病院会ニュース等の募集について掲載することで承認

12. 事務局職員のベースアップおよび期末、勤勉手当の支給について

提案どおり承認

第9回常任理事会

12月24日(土) 日病会議室 出席 30 名

1. 社会保険診療報酬対策について

各役員の見解等を十分考慮し本会の活動を強力に推進してゆくことでした承

2. 病院経営対策について

各役員の見解聴取で了承

3. 税制対策について

自民党税制調査会構成員に対し、非課税措置の存続を求めるように強力に推進すること
で了承

4. 勤務医対策について

日医に問題点を話すことでした承

5. 昭和59年度事業計画(案)について

33周年記念事業等を含め原案どおり承認

6. 昭和59年度予算(案)について

原案どおり承認

7. 病院幹部医会への入会について

役員への協力願いで了承

8. 病院長セミナーの運営について

再検討することでした承

9. (財)日本メディックアラートの強化委員派遣について

河野副会長を推せんすることです承

10. 会員の入退会について

正会員入会 7 件、退会 6 件、賛助会員入会 2 件、退会 2 件を承認

12月24日現在 正会員 1,847 会員、賛助会員 390 会員

11. 昭和59年度人間ドック、自動化健診料金の契約について

下記のとおり承認

- 短期人間ドック利用料…………… 59,000 円
- 妊婦保健指導料……………総合病院は 24,000 円、産院・産科病院は 21,000 円
- 主婦保健指導料……………登録料を含み 5,200 円
- 乳児保健指導…………… 5 回を原則とし 1 回の指導料は 2,200 円

12. 各種制度委員会の開催結果報告について（11月28日～12月24日）

報告を了承

13. 第37回総選挙および日病政連の活動報告について

報告を了承

14. 四病院団体連絡協議会開催結果について

現況報告を了承

15. 第 2 回顧問会議の開催結果について

報告を了承

16. 内保連第63回例会の開催について

報告を了承

17. 日本製薬工業協会の独占禁止法違反の措置の廃止などについて

報告を了承

18. 公認会計士 森 久雄氏のご逝去について

12月 7 日心筋梗塞でご逝去された旨の報告を了承

19. 短期人間ドック実施指定の取り消し及び名称変更について

下記のとおり承認

- 取り消し 東京都・山田総合病院
- 名称変更 東京都・旧 日発病院

新 東海大学医学部付属病院

第 10 回常任理事会

1 月 28 日（土） 日病会議室

出席 22 名

1. 厚生省の医療保険制度改革案について

各役員の見解聴取にて了承

2. 診療報酬対策について
各役員の意見聴取にて了承
3. 税制対策について
59年度税制要望事項の結果報告を了承
4. 病院経営について
現況説明等を了承
5. 会員増強対策について
役員の協力を得、今後対策を推進することで了承
6. 理事補選について
提案どおりの日程及び従来の趣旨で実施することで了承
7. (社)日本病院薬剤師会会長の参与委嘱について
平岡栄一会長の参与委嘱を承認
8. 渡部新厚生大臣との懇談について
企画案を了承
9. 昭和59年度事業計画(案)について
原案どおり承認
10. 昭和59年度予算(案)について
原案どおり承認。収支合計 345,000,000円
11. 国際委員会の委員追加委嘱について
左奈田幸夫、遠山 豪、両顧問を追加委嘱することで承認
12. (社)日本医師会の動きについて
現況報告を了承
13. 会員の入退会について
正会員入会8件、退会2件、賛助会員入会3件、退会1件を承認
1月28日現在 正会員1,853会員、賛助会員392会員
14. 自動化健診施設の指定について
下記施設を承認
東京都・(財)協栄生命健康事業団原宿検診所
15. 診療報酬・薬価基準改訂に伴う点数表の会員配布について
配布することで承認
16. 各種制度委員会、部会、セミナーの開催結果報告について
報告を了承
17. 日本病院会千葉県支部の設立について

1月25日（水）に設立総会を開催し発足した旨の報告を了承

18. 薬品の公正競争規約について

本会としての意見を提出し2月9日の公聴会に池谷常任理事が出席することで了承

19. 創立33周年記念事業の進捗状況について

報告を了承

20. 清水八洲雄理事のご逝去について

12月24日、交通事故にてご逝去された旨の報告を了承

21. 診療報酬適正化推進会議について

活動報告を了承

22. 四病院団体連絡協議会について

活動報告を了承

23. '84国際モダンホスピタルショウの進捗状況について

報告を了承

24. （社）全日本病院協会新年交歓会への出席について

報告を了承

25. 第7回日本診療録管理学会の監査報告について

報告を了承

26. 昭和59年秋の叙勲及び賜杯並びに褒章受章候補者の推せんについて

内藤景岳顧問を推せんすることで承認

第11回常任理事会

2月25日（土） 日病会議室 出席 29名

1. 病院経営について

(1) 医療制度及び診療報酬の改定について

協議にて了承

(2) 薬価引き下げについて

協議にて了承

(3) 病院経営及び税制対策について

協議にて了承

2. 59年度研究会の開催地等の変更について

看護、病院管理総合、医事の各研究会の変更を承認

3. 会員の入退会について

正会員入会14件、退会12件、賛助会員入会7件を承認

2月25日現在 正会員 1,855 会員、賛助会員 399 会員

4. 短期人間ドック実施指定について
下記2施設を承認
宮城県・東北公済病院 335床（判定4床）
大阪府・藤本病院 155床（判定4床）
5. 4月の常任理事会開催日繰り上げについて
4月28日（土）を4月21日（土）に変更にて承認
6. 後援名義使用のお願いについて
下記3件を承認
① 第33回日本理学療法学会
② '84大阪国際メディカルショー
③ ニューメンブレンテクノロジー'84
7. 医療費改定に伴う実務解説研修会開催について
3月27日（火）秋田市において開催することで承認
8. 各種制度委員会の開催報告について
報告を了承
9. 各種研究会の開催結果について
報告を了承
10. 医療費改定による説明会開催結果について
報告を了承（2月14日東京、15日神戸）
11. 学会の進捗状況について
報告を了承
12. “医療法改正”について
報告を了承
13. 創立33周年記念事業「病院設備機器実用ハンドブック」記事、広告掲載について
報告を了承
14. 韓国病院協会長との懇談および地域大会並びにスタディービジットについて
報告を了承
15. 医療品の公正競争規約に関する公聴会について
出席報告を了承
16. 四病院団体連絡協議会について
活動報告を了承
17. 公私病連との合同調査について
診療報酬、薬価基準改正の影響率調査を実施することで了承

18. 日医の動きと「国民医療破壊阻止全国三師会大会」について
報告を了承
19. 昭和59年度第3四半期会計報告および監査報告について
報告を了承

第12回常任理事会

3月24日(土) 日病会議室 出席 26名

1. 医療保険制度改革案について
協議にて了承
2. 病院経営について
協議にて了承
3. 病院税制について
協議にて了承
4. 日医会長選挙について
現況報告を了承
5. 昭和59年度社会貢献表彰候補者の推せんについて
候補者推せん依頼にて了承
6. IHFスペシャルスタディービジットについて
経過報告を了承
7. 会員の入退会について
正会員入会14件、退会9件、賛助会員入会2件、退会1件の承認
3月24日現在 正会員 1,860 会員、賛助会員 400 会員
8. 短期人間ドック施設の指定について
7施設を承認
 - 大阪府・市立枚方市民病院 454床(判定2床)
 - “ ・北野病院 741床(判定4床)
 - “ ・ベルランド病院 298床(判定6床)
 - “ ・府中病院 316床(判定6床)
 - 三重県・富田浜病院 157床(判定4床)
 - 新潟県・下越病院 189床(判定2床)
 - 岡山県・金田病院 258床(判定5床)
9. 代議員の補選について
下記のとおり承認
岐阜県 新任 木沢 彰氏(医療法人 木沢病院長)

岐阜県 前任 山田 実男氏

茨城県 新任 林 茂樹氏（水戸協同病院長）

〃 前任 鈴木 達也氏

10. 日本エム・イー学会からの協賛依頼について

下記について承認

ME技術講習会の件

第2種ME技術実行検定試験実施の件

11. A.H.F理事の後任について

下記のとおり承認

新任 竹本 吉夫氏

前任 村田 勇氏

12. 各種制度委員会の開催結果について

報告を了承

13. 四病院団体連絡協議会の開催結果について

報告を了承

14. '84国際モダンホスピタルショウの進捗状況について

報告を了承

15. 33周年記念式典の表彰について

経過報告を了承

顧問会議

第1回顧問会議

5月28日 ダイヤモンドホテル 12名出席

1. 会長就任あいさつ、抱負について
2. 58年度会議日程について
3. 各種制度委員会委員について
4. 顧問・参与の委嘱について
5. 4月1日以降の経過報告について
 - 厚生省・日本医師会との懇談会
 - 会員の入会状況について
6. 創立33周年記念式典について
7. 褒章、叙勲について

第2回顧問会議

12月9日 味館 10名出席

(現状報告)

1. 医療保険大改革案に反論する
2. 激変するわが国の医療を問う
3. 「全国病院団体連盟（仮称）」の設立について
4. 四病院団体連絡協議会の活動について
5. 日本病院会政治連盟について
6. 正会員入会状況について
7. 第四半期会計報告及び監査報告について

(今後の計画)

1. 33周年記念事業として
2. 59年度事業計画について
3. 58年度代議員会・総会（59年3月24日）での特別講演について
(一条勝夫氏・自治医科大学教授)
4. IHF 1984年スタディービジットの概要について

第 3 広 報

日本病院会ニュース

号 数	発 行 日	主 な 記 事 内 容
236号	4月10日	1) 新執行部決まる、会長に諸橋芳夫氏 2) 医療法国会審議へ、病院の意見反映へ検討続く、4病連 3) 会長就任の抱負(諸橋芳夫) 4) (主潮) 国民適正化医療への提言 5) 正・副会長、常任理事の略歴、新理事の紹介 6) 58年度事業計画と予算、代議員会・総会で承認 7) バリのケッキングダンス(遠山美知) 8) 58年度日本病院会研究会の開催予定表
237号	4月25日	1) 57年病院概況調査まとむ、1,019施設のデータ収載、看護要員が大幅増 2) 医学会総会開く、27会場で「キャプテン」導入 3) 現行医療制度諸問題と将来、医学会総会・シンポジウム 4) 諸橋新執行部、厚生省・日医と懇談 5) 日病ニュースについて、広報委員から「どう読んで活用するか」 6) 恥づかしながら(中野博光) 7) 特別寄稿、思考停止現象(畑山博)
238号	5月10日	1) 緊急重要6項目の実現を、諸橋会長理事会で提示 2) 医療法改正案、継続審議か廃案か、4病連今後の情勢を検討 3) (主潮) 新医療制度への課題 4) 日本病院会事業別委員会等業務分掌 5) 第33回日本病院学会、シンポ、パネル等の演者決まる 6) 春の叙勲ほう章に、本会関係から44人受章 7) 私とカラオケ(中村了生) 8) 市民2千人が参観、和歌山県病の“健康展”で
239号	5月25日	1) 6.17～19 東京・池袋、ホスピタルショウ開幕へ、モデル病院コアに一般展示

- 2) 9月浜松、第33回日本病院学会、日程原案決まる
 - 3) 愛想は三文の得（池谷巨）
 - 4) 全国研究会へのご案内
- 240号 6月10日
- 1) 諸橋会長「吉村論文」に反論「多くの他の問題ふまえてない」代議員会・総会
 - 2) 医療費は正を申入れ、自民党時局問題懇談会で諸橋会長
 - 3) 医療法次期国会へ、医業承継円滑化で前進
 - 4) 制度委各委員長が所信表明、日病緊急重要6項目実現のため
 - 5) （主潮）一人医療法人制度
 - 6) 許可540、許可外95、老人病院で厚生省発表
 - 7) 病院会計準則大幅改正へ、7月確定、来年4月施行
 - 8) 山陰回顧（小野田敏郎）
 - 9) アラ探しせず実態みつめよ、適正化推進本部に一言（永瀬一郎）
- 241号 6月25日
- 1) 医業承継の円滑化、4病連59年度税制改正の柱に
 - 2) 予想上回る入場2万人、ホスピタルショウ盛況に終わる
 - 3) 医療公庫、統合方針出たが業務は継続
 - 4) 諸橋会長「病院経営」を語る、ホスピタル併設研修に多数参加
 - 5) みかんの花、紀州紀の国（遠藤香苗）
 - 6) 病院長セミナー8月開催、「適正化」で吉村保険局長と討議
 - 7) アメリカ病院協会の働き、診療録管理士からのレポート（三竹年世子）
- 242号 7月10日
- 1) 9月8～10日浜松、第33回日本病院学会全プログラム確定、意欲的な企画並ぶ
 - 2) 推進会議新執行部初会合、情勢にらみ具体行動へ
 - 3) 英文誌2号を発刊、勤務医師マニュアル等海外へ紹介
 - 4) 河野副会長IHF常任理事に、ローザンヌ総会で選任
 - 5) （主潮）老人医療
 - 6) 第33回日本病院学会プログラム
 - 7) 看護は気くばり（船場宮子）
 - 8) 埋立ての功罪（平野明）
- 243号 7月25日
- 1) 9月2～3日東京・第24回日本人間ドック学会開幕へ

- 2) 病院経営安定化を、推進会議林厚相と面談
- 3) 税制改正要望まとむ、59年度相続税柱に11項目、4病連
- 4) 病院倫理世界指標設定へ、IHF 代表者会議日本提案を採択
- 5) 「自戒のカテにして…」諸橋会長 “ごまかし所得” で会見
- 6) 第24回日本人間ドック学会プログラム
- 7) 趣味（西能正一郎）
- 8) 「よりよい医療」を提案、来年のテーマ、池袋ホスピタルショウ結果を検討

- 244号 8月10日
- 1) 日本診療録管理学会開幕へ、10月大阪、第7回学会プログラム発表
 - 2) 院長セミナー、申込み200名突破
 - 3) 数は力なり（遠藤香苗）
 - 4) （主潮）医療費問題、備えあれば憂いなし
 - 5) 服薬指導について（片山孝一）
 - 6) 第7回日本診療録管理学会プログラム
 - 7) 第23回国際病院学会こぼればなし（河野稔）
 - 8) もっと食事に関心を（平野井直英）

- 245号 9月10日
- 1) 全理事会声明、国民負担強要には反対、各種保険統合等優先せよ、病院大会開催へ
 - 2) 日本人間ドック学会開幕、350人参加、活発な質疑続く
 - 3) 10.6 東京「国民医療崩壊阻止全国病院大会」推進会議、諸団体へ呼びかけ
 - 4) （主潮）国民にツケを回すな
 - 5) 「信頼される我が病院づくり」全会員から原稿募集
 - 6) 長生きするという事は、窓口からの独り言
 - 7) 余暇時代（平和夫）
 - 8) 仕事への心構え、再スタートした栄養士から（鋤柄優子）
 - 9) ジュネーブ湖のほとりにて（上）第23回国際病院学会余話（織本良子）
 - 10) マーラー先生講演録を翻訳するにあたって（小西幸男）

- 246号 9月25日
- 1) 10.6 病院大会、国民医療崩壊の阻止へ、一方的抑制策に抗議、原価割れを是正要求

- 2) 明日の病院の発展の光を模索、成果あげ33回日本病院学会閉幕
 - 3) (学会特集) 開会式、学会長講演、パネルディスカッション、シンポジウム、特別講演、特別企画 併設ホスピタルショ
 - 4) 135人の大視察団、AHF スタディツアー 富士、箱根方面へ
 - 5) ブロンクス区での出来事(三上晃)
 - 6) ジュネーブ湖のほとりにて(下)、第23回国際病院学会余話(織本良子)
- 247号 10月10日
- 1) 今日の団結を永久大同団結に、全国病院大会に1,100人結集、医療崩壊阻止へ広範な運動展開、諸橋会長「財源はあるはず」 “党修正”を言明、戸沢氏も
 - 2) (主潮) 健康戦術と国際協力
 - 3) 座談会、激変するわが国の医療を問う、医療費抑制と国民医療の崩壊(上)
 - 4) おいしい病院給食を、栄養科から(加藤晶子)
 - 5) 級友(後藤清)
 - 6) 11月17日から、病院設備学会開催へ
- 248号 10月25日
- 1) 第7回学会に720人参加、診療録管理着実な発展、来年は通算10回で、高橋次期学会長、総会で意欲
 - 2) 壊滅の危機へ追いやるもの、4病連、事業税課税問題の対策へ
 - 3) 業務への従事率は70%、診療録管理士の勤務実態、報告
 - 4) 座談会、激変するわが国の医療を問う、医療費抑制と国民医療の崩壊(下)
 - 5) 病院敷地から古代遺跡、地主負担で発掘ナミダの1,350万円
 - 6) 罰金(三竹年世子)
- 249号 11月10日
- 1) 事業税課税は断固反対、自民税調等強力に陳情へ、4病団動く
 - 2) 国会議員対策を展開、推進会議、ハガキ攻勢等医療崩壊阻止運動へ
 - 3) 日病の目指すもの理解を、諸橋執行部賛助会員と懇談
 - 4) (主潮) 勤務医と開業医
 - 5) 58年秋の叙勲、褒章、厚生省関係から368名が会員病院27名受章
 - 6) 結婚式(宇井美代子)
 - 7) 7回生38人が卒業、メディカルクラーク通教延べ433人を認定
- 250号 11月25日
- 1) 重要懸案問題しぼり、年末総選挙を重視、4病団が一致、重点候補の支援体制へ

- 2) 全面改正病院会計準則説明会開く
- 3) 米国医療事情と病院経営、DRG 等最新情報を研究、病院管理総合研
- 4) 1000 病院のコンピュータ利用実態、医事研が調査報告
- 5) 「日医健康祭り」22日から日本橋三越で盛大に
- 6) ふれあい（片山孝一）
- 7) 筑波研究学園都市で、10月全国病院診療研開く

251号 12月10日

- 1) 師走総選挙終盤戦へ、4病団総力戦の構え、重点候補支援を強化、諸橋・齊藤会長等トップが一堂に
- 2) 選挙対策を討議、25日の日病政連常任幹事会
- 3) 衆参120議員が回答、推進会議アンケート、改革案は修正、医療費改定を支持
- 4) （主潮）力には力を
- 5) 来年6月ホスピタルショウ、「医療の質の改善」打出し、池袋2年目へ出品受付を開始
- 6) 薬価等の意識調査、京都私病協、現下制度問題まとむ
- 7) 松茸酒（木村千枝子）
- 8) 救急ヘリ事業来春発進、設立発起人に諸橋会長も
- 9) 4月15～21日IHFスタディビジット日本開催、国内外の参加募集を開始

252号 1月1日

- 1) 年頭所感、今年こそ病院経営にとって正念場（会長諸橋芳夫）
- 2) 新春座談会、日本のプライマリ・ケア、病院の役割と今後の動向を探る（前）
- 3) 衆院選、推せん候補の当落、厳しい結果に政局激動へ
- 4) 医療費医師過剰問題等、2月神奈川で幹部医セミナー
- 5) ある幻視（財津晃）
- 6) 花岡日医会長も出席、9日・第2回顧問会議開く
- 7) 武見氏ご逝去
- 8) がんばれ女流棋士
- 9) IHF 執行部委員会に参加して(上)（河野 稔）

253号 1月25日

- 1) プライマリ・ケア、良質な入院医療等方向示し、診療報酬改定平均2.7% 14日の中医協で合意、薬価は大幅16%台下げ

- 2) 救急医療配慮、在宅透析新設推進会議11日申し入れ
- 3) 健保本人給付自民決定、59・60年度は9割、61年度から8割に
- 4) 相続税問題大筋解決、医業承継円滑化へ一歩、党税制改正大綱決まる、事業税課税は見送り
- 5) 医療法施行規則を検討、4病団、従業員標準問題など
- 6) 演題募集を開始、4月末締切り、8月名古屋、25回日本人間ドック学会
- 7) 人間ドック通達、胆のう検査は超音波、大腸癌に便潜血反応
- 8) 新春座談会、日本のプライマリ・ケア、病院の役割と今後の動向を探る
(後)
- 9) I H F 執行部委員会に参加して(下) (河野 稔)
- 10) たそがれのウイーン (村田 勇)

- 254号 2月10日
- 1) 病院診療報酬3.2%アップ、短期入院へ重点配分、指導料救急等評価24日
中医協答申
 - 2) 今回の診療報酬、医療保険、税制の改正について (会長諸橋芳夫)
 - 3) 千葉県支部が誕生、支部長に諸橋会長25日設立総会開く
 - 4) 新しく日本医師会を担おうとする方々に (西能正一郎)
 - 5) (主潮) これからの医療の行方
 - 6) 病薬平岡会長を参与に、常任理で決定、看護大森会長に次ぎ
 - 7) T Q C 活動の実際など、事務長セミナー開く、師岡東海大教授「病院も挑戦を」
 - 8) 逃げ道 (宮本祥郎)
 - 9) 中医協審議の資料にも活用、58年病院概況・経営実態調査まとむ
 - 10) 乳幼児食にかける (川田光子)

- 255号 2月25日
- 1) 58年病院概況調査まとむ、日病・公私病連合同調査100床当たり職員数は
86.8人、平均在院日数短縮化へ
 - 2) 東京・神戸で900人、医療費改定説明会開く
 - 3) 58年病院概況調査、開設者別諸表
 - 4) 日医会長候補にのぞむ
 - 5) 研修と交流の実をあげ、病院幹部医セミナー終える
 - 6) 幹部医会員を募集、会長に笹森氏再選
 - 7) 五千円札のニューフェース (遠山美知)

- 8) '84 国際モダンホスピタルショウ、「質の改善と実践」事例公募、併設発表会のための演題3月末まで
- 9) 薬局待ち時間を短縮、薬剤自動交付機ホスピタルショウ出展へ
- 10) 4月ソウル地域会議へ協会、A H F 趙会長と懇談、諸橋会長

- 256号 3月10日
- 1) 58年病院経営開設者別の実態総数 $\frac{2}{3}$ 私的で $\frac{1}{3}$ 強の赤字、医療崩壊の実相に迫る。
 - 2) (主潮) 日医会長選挙を迎え
 - 3) ケア施設に条件緩和、医療金融公庫59年度融資計画を発表
 - 4) 第10回日本診療録管理学会案内
 - 5) 国際病院連盟、病院個人等会員を募集
 - 6) 一般演題は4月末まで、第25回日本人間ドック学会、8月名古屋
 - 7) プライマリ・ケア (中野博光)
 - 8) 医療費改定説明会質疑応答

- 257号 3月25日
- 1) 創立33周年記念行事、5月29日帝国ホテル開催へ、各界代表合せ数百人規模、厚生大臣表彰等多彩な催し、膨大な記念誌製作も「30年史」「我が病院づくり」を発刊
 - 2) 11月、高知市、日本病院学会、開催大要を発表、会期は8.9の2日間、学会テーマ激動下における明日の病院、演題は7月末締切り
 - 3) 秋田県病院協会が発足、新会長は前多氏、諸橋会長も激励に
 - 4) 防火防災対策の融資、医療金融公庫積極利用呼びかけ
 - 5) 「診療録管理」解説、主として病院管理者のために、その1 (三竹年世子)
 - 6) 老人保健法と胃集団検診 (近藤慶二)
 - 7) わが国唯一の施設、児童精神病院を見学、東京都立梅ヶ丘病院 (2月病院診療研)

第 4 委 員 会

1. 医療制度委員会

1. 開催回数 10回
2. 出席者数 74名
3. 協議項目
 - 1) 今後の検討課題について
 - 2) 勤務医師マニュアルについて
 - 3) 医療基準、病院機能基準について
 - 4) 勤務医師マニュアル作成について
 - 5) 医療評価について
 - 6) 医療人のマニュアル作成について
 - 7) 病院経営管理指導要領について
(委員より意見聴収)
 - 8) 「経営管理機構と管理者マニュアル」作成について
 - 9) その他

4. 総 評

丹野清喜委員長を中心に新しくスタートした委員会において、医療基準、病院機能基準等の設定、および医療評価、地域医療を研究する方針とされた。また並行して「医療人のマニュアル(仮称)」作成の方向にもっていくこととされた。

その結果、1984年3月の常任理事会において「経営管理機構と管理者マニュアル」として中間報告が行われ、ほぼ完成を見た。4月以降に調整のうえ出版する運びとなった。

また前回発行された「勤務医師マニュアル」は合計20,000冊印刷のうち17,000冊が頒布されるに至っている。

また、厚生省、昭和44年版による「病院経営管理指導要領」についての意見を求めたところ今後更に検討することとなった。

2. 病院管理運営委員会

① 統計調査部会

1. 開催回数 2回
2. 出席者数 7名
3. 協議項目
 - 1) 58年度合同調査に関する覚え書(案)について
 - 2) 合同調査の調査対象等の拡大について
 - 3) 昭和58年度調査室予算について
 - 4) 病院情報センターの予算について
 - 5) 公私病連との電算処理の費用分担について
 - 6) 統計調査部会委員構成について
 - 7) 各研究会アンケートについて
 - 8) 統計調査部会の今後のあり方について
 - 9) ファックスの導入について
 - 10) その他

4. 総 評

今年度は、公私病連との合同調査のあり方について今後拡大するという方針のもとに「病院運営実態調査」の他に「診療報酬および薬価基準改定による影響率調査」を実施した。また独自の調査として「中央検査部門の役割に関する動向調査」を実施した。

今後の展望としては、日本病院会独自で調査・解析できるよう努力したい。

② 勤務医対策部会

1. 開催回数 1回
2. 出席者数 7名
3. 協議項目
 - 1) 勤務医対策部会の活動方針について
 - 2) 勤務医の日常活動のあり方について
 - 3) 勤務医の組織確立について
 - 4) 勤務医の厚生問題について

4. 総 評

勤務医が総医師数の6割をしめる現在、勤務医対策は病院管理・運営に重要となってきており、日本病院会は59年度より、勤務医対策委員会とし活動することとなった。

③ 医療事故対策部会

1. 開催回数 5回

2. 出席者数 25名
3. 協議項目
 - 1) 医療事故対策部会の活動方針について
 - 2) 医療紛争防止のためのセミナー開催について
 - 3) 昭和59年度事業計画(案)について
 - 4) 昭和59年度収支予算(案)について
 - 5) 医療紛争防止のためのセミナー開催について
 - 6) その他

4. 総 評

本年度の活動方針としては、セミナー等を通じ医療紛争防止策を実践して行くこととなり、11月のセミナー開催計画等につき検討を行なった。

④ 防災対策部会

1. 開催回数 1回
2. 出席者数 9名
3. 協議項目
 - 1) 防災対策部会の活動方針について
 - 2) 病院防災セミナーについて
 - 3) その他

4. 総 評

今年度の委員会は開催回数が1回と少なく、9月開催の病院防災セミナーの計画実行を主として検討、また自治省消防庁では、防火管理者制度の検討会が開かれ、当会から小原担当理事が出席され活発な活動が続けられている。

⑤ 労務・福利・物品

3. 教育委員会

1. 開催回数 教育委員会 3回
 研究会委員長会議 3回
2. 出席者数 教育委員会 12名
 研究会委員長会議 65名
3. 協議項目 1) 昭和58年度研究会の運営について
 2) 研究会の現況について
 3) 昭和59年度研究会の施行方針について
 4) 昭和58年度上半期研究会報告
 5) 昭和59年度研究会活動方針について
 6) '84国際モダンホスピタルショウへの協力について
 7) 昭和58年度研究会活動の反省
4. 総 評

昭和58年度は、定例研究会延開催回数54回、全国研究会延開催回数17回、セミナー延開催回数4回、第一線リーダー研修会延開催回数3回を実施した。また、延参加者数は、定例研究会2,529名、全国研究会1,516名、セミナー235名、第一線リーダー研修会は88名であり、それぞれ多大の成果を挙げて終了した。

今年度は、明年度（59年度）の研究会開催日程を、10月にあらかじめ決めてしまうという例年がないスピードぶりであった。開催日・開催地を決めるにあたっては、あくまで地元の協力が得られることを基本とし、特に、全国研究会においては、研究会どうしが、相互に重ならないよう調整しつつ決定した。地元の協力が得られるよう当委員会も応援していくことにした。会場借用費を節約すべく、日病会議室をより一層利用しやすくするため、研究会用の什器・備品を購入し、日病会議室の利用度を高めた。

研究会の参加費、講師謝礼につき、検討を加えた。すなわち、現行のものは、数年前のものであり、近時、増額が叫ばれていたもので、時勢にあわせた金額にスライドしたものである。これにより、ここ2、3年の懸案事項がひとつ解決をみたわけである。

なお、'84国際モダンホスピタルショウ（池袋・サンシャインシティ文化会館、59年6月開催）へ各研究会が協力する件につき、話し合いが行なわれた。

4. 通信教育委員会

① 診療録管理通信教育

1. 開催回数 2回
2. 出席者数 12名

3. 協議項目

第1回 9月17日(土) 大阪第一ホテル

○進級・卒業試験の合否について

通信教育の項参照

○本通信教育の現況と今後について

— 実務経験不足に伴うサブ・システムの導入について —

i) 開講式導入

ii) 実習指定病院の多様化・拡大化

○受講料の改定について

現行 54,000円(1年間)

改定 60,000円

実施時期 59年1月1日開講24期生から適用

○二次編入校の審査について

申請校 国際医療管理専門学校認可、編入実施時期を60年1月1日とする。

○スクーリング単位について

申請研究会名

新潟病歴管理セミナー

北海道診療録管理研究会

認可。窓口をそれぞれ、新潟市民病院・金子裕子氏、市立江別総合病院・倉部直子氏を指名

第2回 3月10日(土) 大阪第一ホテル

○進級・卒業試験の合否について

通信教育の項参照

○集中スクーリング講師代行について

継続案件とする

○スクーリング単位取扱について

途中退席者の単位取得については認められない

当該事由 貧血

○第25回集中スクーリングの日程について

自 昭和59年8月23日(木)

至 昭和59年8月29日(水)

第21回認定式 10月10日(水)

② メディカルクラーク通信教育

1. 開催回数 2回
2. 出席者数 14名
3. 協議項目

① 4月16日(土) 17:00～20:00 於鉄道会館ルビーホール 鳳凰の間

1) 昭和58年度の教育実施について

- 試験 : 第7期生後期 8月21日(日) 9:00～16:00
第8期生前期 2月14日(火) 9:00～16:00
- スクーリング : 第8期生前期 8月18日～20日 東京会場
8月22日～24日 京都会場
第8期生後期 2月11日～13日 京都会場
2月15日～17日 東京会場
- 第7回認定者審査委員会 10月1日(土) 17:00～
- 第7回認定証授与式 10月29日(土) 17:00～

2) スクーリングの時間割り

- 8月18日～20日の時間割り
初日の18日のみ午前を10:00～13:00、午後を14:00～17:00とする。
- 59年2月の時間割り

2/11(土)	午前	病院管理学	午後	文書実務	京都会場
12(日)	午前	医療事務			
	午後				
13(月)	午前	医療情報	午後	病歴管理	東京会場
15(水)	午前	病院管理学	午後	医療情報	
16(木)	午前	文書実務	午後	病歴管理	
17(金)	午前	医療事務			
	午後				

3) 月報の誌上セミナーを各講師担当

5月より三宅講師に依頼

② 10月1日(土) 17:00～20:00 於鉄道会館ルビーホール 葵の間

1) 第7回の認定審査

- 第7回認定者 38名(内延長生2名)

2) 延長受講予定者 25名

3) 59年2月の試験スクーリングについて

予定表通り確認

4) 59年度より

- 試験科目は全科必修とする
- 受講生の募集を年2回以上とし、スクーリングの編成を研究する
- 卒業生に対し、受講生増の為のアンケート調査を実施する
- 受講料の値上げについては、委員長に一任

③ 事務長養成課程通信教育

1. 開催回数 1回
2. 出席者数 10名
3. 協議項目 4月5日(火) 15:00～17:00 於日本病院会 第一会議室

1) 昭和58年度の教育実施について

原案のとおり承認(要領は前年同様)

- 第4回生最終試験 : 6月18日(土) 京都堀川会館
 - 第4回認定証授与式 : 7月16日(土) 東京都内
 - 7月の試験・スクーリング : 7月11日～23日の期間とする。
 - 59年1月の試験・スクーリング : 1月8日～21日
- 試験 : 第5回生1年後期 7月17日(日)
第5回生2年前期 1月15日(日)
第6回生1年前期 1月8日(日)
- スクーリング : 第5回生2年前期 7月18日～23日
第5回生2年後期 1月16日～21日
第6回生1年前期 7月11日～16日
第6回生1年後期 1月9日～14日

会場はいずれも聖路加国際病院第2記念館とする。

2) 7月のスクーリング時間割りにについて

- 第6回生1年前期
7/13(水) 労務管理論 伊藤講師 → 7/15(金) に
7/15(金) 医療統計 一条講師 → 7/13(水) に
- 第5回生2年前期については再調整

3) 課目名の変更 : 医療紛争論 → 医事紛争論

- 4) リポート問題の数について：1回を4問位まで
- 5) リポート問題と試験問題は関連させる
- 6) リポートの提出要領は従来通り
- 7) 教育開始5年を経過したので諸資料のまとめを高橋委員長・落合委員の担任とする。

5. 医療経済委員会

1. 開催回数 2回
2. 出席者数 15名
3. 協議項目
 - 1) 59年度税制改正要望事項について
 - 2) 病院会計準則の改正について
 - 3) 医療法人の相続税に関するアンケートについて
 - 4) 建物耐用年数調査について
 - 5) 59年度税制改正について
 - 6) 四病院団体連絡協議会の報告
 - 7) 森先生死去による後任について
 - 8) 承継税制について
 - 9) その他
4. 総 評

今年度の活動は、税制関係では59年度税制改正に対して日本病院会の意見をまとめ四病院団体連絡協議会で各団体との調整をはかったうえ、関係省庁へ提出した。また病院会計準則の改正に対して会計経理研究会と共に検討し厚生省に意見書を提出した。

6. 国際委員会

1. 開催回数 12回
2. 出席委員数 79名（ハーディー氏出席含む）
3. 報 告

新しくIHF会長として、オーストラリア、ロイス、クロンボルグ氏を中心に日本代表である河野副会長IHF理事が日本の窓口となって国際交流の促進、情報交換を行った。

1984年にはIHF、スペシャル・スタディー・ビジットが開催される。その計画を中心に報告すると、IHF関連、AHF関連の順に列記すると下記のとおりである。

4. 国際病院連盟関連

吉岡観八委員長が I H F に対して提案していた「医療倫理・病院倫理についての研究」が I H F の継続課題のひとつにとり上げられた。新しく左奈田・遠山両顧問が委員に加わった。

吉岡委員長が中心となって I H F 留学奨学基金のために日本の企業、財団より総額 27,000 ポンドを集め I H F に送金した。I H F はこれによりアジアを中心とした奨学制度を設置した。

I H F 実行委員（理事）選挙により新しく日本代表となった河野稔、日病副会長が I H F 実行委員会に出席した。1983年11月11日、ロンドン開催。

I H F ハーディー事務総長が11月2～5日来日、日病国際委員会に同席し、1984年 I H F ・ S S V に関する審議が行れた。

I H F に関する由来、および個人的会員の募集を日病を通して会員病院に伝え、I H F を理解していただくため P R 案内状を日病ニュース、雑誌他に掲載する運びとなった。

1984年度海外視察研究会のラインが設定され、3コース（韓国、北欧、アメリカ）を計画することになった。

1984年 I H F 地域会議がソウルにおいて開催されるため論文発表者を選出したところ、諸橋会長、大道学先生、長澤泰氏が4月22日～5月2日までの会議中発表することとなった。4月25日に A H F 理事会も開かれる。

I H F 会費 1984年度分 1,650 ポンドを支払った。

5. アジア病院連盟関連

大韓病院協会第24回学会（58.4.26）に吉岡観八理事が出席。

台湾病院協会第16回学会（58.6.4）に諸橋会長が出席。

1983年 A H F スタディーツアーが9月10日～9月12日、浜松、静岡、神奈川、東京の順に5カ国119名の参加者をもって開催された。A H F 理事会も同時開催された。

第3回病院視察団が韓国より来日、10月10日～19日、11名が研修を受けた。

1983年 A H F 会費 500ドルを支払った。

7. 臨床予防医学委員会

1. 開催回数 6回（小委員会4回含む）
2. 出席者数 54名
3. 協議項目
 - (1) 日本人間ドック学会役員選任について
 - (2) 第23回日本人間ドック学会会計報告
 - (3) 次期（第25回・昭和59年度）日本人間ドック学会長選出について
 - (4) 次々期（第26回・昭和60年度）学会について
 - (5) 昭和57年度人間ドック現況報告
 - (6) 短期人間ドック検査項目改正について
 - (7) 短期人間ドック検査項目改正の検討
 - ① 胆のう検査について（エコー）
 - ② 糖負荷試験について
 - ③ 便潜血反応について
 - (8) 来年度（昭和59年度）短期人間ドック並びに自動化健診料金について
 - (9) 短期人間ドック指定に伴う実査方法について
 - (10) 短期人間ドック指定病床数の変更手続きについて
 - (11) 短期人間ドック並びに自動化健診の来年度（昭和59年度）料金の契約
 - (12) 短期人間ドック検査項目改正マニュアルの作成について（胆のう検査、便潜血反応検査）
 - (13) 第25回日本人間ドック学会経過報告について
 - (14) 短期人間ドック検査項目改正の検討
 - ① 人間ドック手帳の改正の検討
 - ② エコー使用マニュアル作成検討
 - (15) 短期人間ドック検査項目改正
 - ① エコー使用マニュアル作成
 - ② 人間ドック手帳改訂版の作成
 - ③ 検査項目一覧表の改訂版の作成
 - (16) 短期人間ドック検査項目改正実施について
 - (17) 第25回日本人間ドック学会準備状況について
 - (18) 臨床予防医学委員会の運営について

4. 総 評

本年度は、短期人間ドック検査項目の改正に重点がおかれ、昭和59年4月1日より、日病指定

短期人間ドック実施病院に対し、胆のう検査に超音波機器（エコー）の使用を義務付けることとし、関東中央病院の竹原靖明画像診断科部長にエコー実施マニュアルの作成を依頼、作成した。また便潜血反応検査についても食生活の欧米化に伴い、同じく昭和59年4月1日より実施とし、笹森委員により作成した。

また、上記検査に伴う人間ドック手帳の改正が急務となり、各担当委員の尽力により改訂版が完成した。

なお、腹部超音波検査（エコー）については、実施マニュアルを各指定病院に送付しただけではなく、今後さらに詳細なマニュアルの作成並びに超音波実施講習会（仮称）等を開催し、エコー実施者に対する指導、育成に勤めなければならないことを痛感している。

8. 社会保険委員会

1. 開催回数 4回
2. 出席者数 18名
3. 協議項目
 - (1) 社会保険委員会の活動方針について
 - (2) 医療保険政策構想の検討について
 - (3) 病院大会（国民医療崩壊阻止全国病院大会）について
 - (4) 医療費改定説明会開催について
 - (5) 医療費改定に伴う影響率あてはめ調査について
 - (6) その他
4. 総 評

上半期は「医療保険政策構想」の検討を中心に行ない、委員より意見を求めた。

また、下半期は医療費改定に伴う影響率あてはめ調査を全国公私病院連盟と合同で実施することを決めた。

9. 組織委員会

1. 開催回数 2回
2. 出席委員数 12名
3. 総 評

会員拡大に関連する諸問題につき審議が行れ、非会員病院をどのように勧誘するか、現在のPR方法、メリット、デメリットは何か、個人病院への働きかけ等々について意見が出され、新しく会員病院名簿が作成されるため会員・非会員の確認を行ったうえ、PR方法を検討することになった。

10. 学 術 委 員 会

1. 開催回数 12回

2. 出席者数 123名

3. 協議項目

- 1) 日本病院会雑誌 '83 6月号～'84 5月号の編集
- 2) 日本病院会雑誌 '83 7月号～'84 6月号の企画
- 3) 「信頼される我が病院づくり」の編集及び出版について

4. 雑誌58年度（'83 4月号～'84 3月号）主要掲載記事

（4月号）

グラフ・名古屋保健衛生大学病院

アメリカにおける医療費抑制と今後の病院経営 … 川原 邦彦

交流分析について …………… 水野 正憲

（5月号）

グラフ・埼玉県立小児医療センター

病院の労務管理について …………… 西能正一郎

病院経営の動向とその対応策 …………… 石原 信吾

（6月号）

グラフ・鳥取県立中立病院

病院の医療評価 …………… 諸橋 芳夫

第23回人間ドック学会特別講演・人間ドックと糖尿病 … 後藤 由夫

（7月号）

グラフ・'83 国際モダンホスピタルショウ

病院幹部の今後の望まれる姿勢 …………… 河野 稔

第二薬局とは何か …………… 太田 清一

（8月号）

グラフ・東京都養育院附属病院

日本の10年後の病院像 予防・健康増進と医療網の設定へ … 諸橋 芳夫

続・米国の医療制度－変遷と模索－(1) …………… 小野 肇

（9月号）

グラフ・第23回国際病院学会とヨーロッパの病院

第23回・国際病院学会・ルネサンド講演西暦2,000年までに世界のすべての人を健康にする

ための戦略における病院の役割 … H・マラー

(10月号)

グラフ・米国の病歴室

医療人のmorality について … 左奈田幸夫

医療保険大改革案に反論する …… 橋諸 芳夫

(11月号)

グラフ・第33回日本病院学会

医療保険制度の改革をめぐる … 岡崎 通

激動する病院の光と影 …………… 中山 耕作

(12月号)

グラフ・アジア病院連盟スタディ・ツアー高齢者対策を考える … 河野 稔

国際病院連盟の思い出あれこれ第2報 — IHF 第23回ロザンヌ学会に出席して —

………… 吉岡 観八

(1月号)

グラフ・第23回病院視察研究会

第23回日本病院学会 パネルディスカッション、シンポジウム

第23回病院視察研究会 参加者による病院視察見学記

(2月号)

グラフ・チベットの病院

良心的な病院の唯一の選択 — 病院団体横断組織実現の時 — … 鈴木 憲輔

第24回日本人間ドック 学会長講演、シンポジウム、一般演題抄録

(3月号)

グラフ・第7回日本診療録管理学会

日本病院会と渉外活動 …………… 丹野 清喜

第7回日本診療録管理学会 学会長講演、特別講演、シンポジウム、一般演題抄録、その他

5. 総評「信頼される我が病院づくり」の編集、出版について

従来、学術委員会は、雑誌の編集、出版を専ら行ってきたが、今年度より書籍出版関係も受け持つこととなり、この一年間、中山耕作委員長を中心に、上記書籍の編集及び出版が討議されてきた。全国の会員施設より原稿を募ったところ、130数編が集まった。これにもとづき、5月29日開催の日本病院会創立33周年記念式典に間に合うよう発刊すべく、目下、極力作業を進めている。

11. 広報委員会

1. 開催回数 6回
2. 出席者数 55名
3. 協議項目
 - 1) 日病ニュースの製作、編集方針
 - 2) 日病ニュースの配布先について
 - 3) 研究会の記事について
 - 4) 座談会など企画について
 - 5) 無影灯などシリーズものについて
 - 6) 国民向P Rの企画について
 - 7) 日病ニュースのP Rについて
 - 8) 59年度活動計画及び予算案
 - 9) 座談会、激変するわが国の医療を問う
 - 10) 座談会、日本のプライマリ・ケア
 - 11) 常任理事会議事速報の掲載について
 - 12) 病院の格差付け問題
 - 13) 日病ニュースエッセイグループについて
3. 総 評

今年度は4月、諸橋新執行部が誕生した。新会長がただちに掲げた日病の取り組むべき緊急、重要6項目の施策のもと、ニュース紙上掲載を中心に内外向け広報活動を展開、行政当局者による医療費亡国論に対する反論、医業承継円滑化に向けての税制改正対策が取り上げられた。8月厚生省の59年度予算概算要求案が発表されるとただちに全理事会の名で国民負担を強要する案には断固反対の声明を発表。これと原価割れ診療報酬改正を要求し、推進会議主催による病院大会を開催、全国病院の永久大同団結を掲げた。年末総選挙に当たっては、4病団も重点候補支援対策を掲げ、相続税、事業税の税制、医療費など重要懸案問題解決に向け総力戦の構えをとった。59年に入って、薬価基準の改正、診療報酬改正の動きとその結果、また医療保険、税制など一連の問題を諸橋会長にまとめてもらった。この間、座談会を2度開催、今年度その渦中にあった「激変するわが国の医療を問う」と、もう一つは今後の方向としての「日本のプライマリ・ケア」を取り上げた。また日病主催の3学会、ホスピタルショー、病院運営実態調査の報告、研修・研究会関係、国際活動等の広報につとめた。シリーズものとしては「無影灯」「主潮」「エッセイ」など、硬軟とりまぜた内容が定着、また各地会員、各部門からの寄稿もつづいた。なお、日刊、各紙の報道人との懇談、評論家との懇談など時機をみて開き、病院医療への理解、認識を求めた。一般向けP Rも検討されたが、病院会の内部強化を先とする方向であった。

12. 諸規定検討委員会

1. 開催回数 2回
2. 出席者数 9名
3. 協議項目

第1回 7月22日(金) 日病役員室

- 1) 定款、同施行細則、選挙規程の見直しについて
 - ・定款の正会員の定義を同施行細則でおぎなう
 - ・選挙規程に内規を作り公私同数を明示することの検討
- 2) その他諸規程の検討方針
 - ・加除式規程集の発行
 - ・字句の整理統一
 - ・定款、同施行細則、選挙規程を年内に整備
 - ・(案)のままのもの、不要なもの、必要なものがあれば、整備し又は削除する

第2回 10月14日(金) 日病役員室

- 1) 定款の正会員の定義の補足を同施行細則第1条に入れることの決定
- 2) 選挙規程を受けた内規の検討
 - ・従来どおり申し合わせ事項で処理する
 - ・4月1日は辞令交付日なので、3月中に改選出来ないかを検討
- 3) 加除式規程集の発行について
 - ・字句を整理統一して印刷発行する
 - ・現行規程のミスプリ、誤りを訂正し理事会の承認を得て印刷する

〔特別委員会〕

1. 病院情報センター委員会

1. 開催回数 6回
2. 出席者数 47名
3. 協議項目
 - (1) 診療報酬改定に伴う厚生省への要望について
 - (2) 6月開催のシンポジウムについて
 - (3) '83 モダンホスピタルショウへのパネル展示について
 - (4) 「コンピュータ導入の早分り」発行について

(5) レインボーシステムについて

(6) その他

4. 総 評

今年度の委員会は、各県によってまちまちなレセプトのフォーマットを統一するよう厚生省等へ要望する旨の計画がたてられたが、諸般の事由により中止することとなった。また、'83モダンホスピタルショウへ病院情報センターとして参加し、各県よりとりよせたレセプト展示を行なった。

シンポジウム「病院における効果的なコンピュータの使い方」

日 時 昭和58年6月18日(土)

会 場 大東京火災海上保険㈱ 本社別館

参加者数 117名(87施設)

- 演 題
1. 病院運営におけるコンピュータの位置づけ
 2. グループディスカッション(病院規模別の利用・拡大計画)
 3. ホスピタルショウ見学
 4. その他

総 評 今回は、'83国際モダンホスピタルショウと同日開催、昭和57年10月のシンポジウムと同テーマとし、更に病院規模別におけるコンピュータ利用計画等について活発な論議がなされた。

2. 国際モダンホスピタルショウ委員会

1. 昭和58年
4月19日 企画委員会 (パシフィックホテル) 12名
議 題 : '83国際モダンホスピタルショウシステム展示について
2. 5月12日 企画委員会 日本病院会 14名
議 題 : 小間割発表について
3. 5月24日 実行委員会 (パシフィックホテル) 17名
'83国際モダンホスピタルショウ報告
4. 7月5日 実行委員会 (パシフィックホテル) 17名
 - ① '83国際モダンホスピタルショウ結果について
 - ② '84国際モダンホスピタルショウ開催について
 - ③ テーマ決定
5. 7月26日(火) 企画委員会 (パシフィックホテル) 15名

- ① 前回の反省をふまえて
 - ② '84 国際モダンホスピタルショウ企画(案)について
 - 6. 9月6日(火) 企画委員会 (SRL 会議案) 14名
 - ① 全体のレイアウト(案)について
 - ② ポスターについて
 - 7. 10月6日(木) 企画委員会 (SRL 会議案) 16名
 - ワーキンググループについて
 - 8. 11月10日(木) 企画委員会 (SRL 会議案) 11名
 - 特別企画事業について
 - 9. 12月26日(月) 合同委員会 (パンフィックホテル) 23名
 - 企画委員会報告について
 - 昭和59年
10. 1月24日(火) 合同企画委員会 (日病) 25名
 - ① 医療における質の改善と実践
討論・研究会について
 - ② 各展示部門コア展示について
 - 11. 3月6日(火) 合同企画委員会 (日病) 26名
 - ① 出品申込状況について
 - ② 実例発表討論会・研究会について
 - 実行委員会 3回 57名
 - 企画委員会(合同会議) 8回 156名
- (ただし、この人数のメンバーにはそれぞれの事務局も含まれています)

3. 33周年記念事業企画委員会

8月26日(金)、9月24日(土)、2月24日(金)開催の記念式典運営委員会に諸橋会長・高橋事務局長出席(記念式典運営委員会の項参照)

4. 創立 33 周年記念式典運営委員会

1. 開催回数 3回
2. 出席者数 17名
3. 協議項目

第1回 8月26日(金) 於帝国ホテル

- 1) 会場の下見
 - ・予定会場4室を下見
- 2) 運営方法について
 - ・5月29日の会議、式典、パーティー等時間割の検討
 - ・記念講演会の開催
- 3) 費用概算見積
 - ・パーティーの参加者は500名程度に
 - ・パーティーの費用は2万円/人程度に
- 4) 会計
 - ・記念誌を含め特別会計とする

第2回 9月24日(土) 於番町共済会館

- 1) 日程の変更について
 - ・会議の重複をさけるためと多数の出席者を得るために決算理事会を5月29日に開催する。
常任理事会は5月28日に開催する
 - ・記念講演の講師の検討
- 2) 厚生大臣表彰・会長表彰について
- 3) 招待者の検討

第3回 2月24日(金) 於ダイヤモンドホテル

- 1) 招待者の決定
 - ・国会議員、省庁、関係団体、都道府県病院協会、報道関係
- 2) 式次第および運営役員の分掌決定
- 3) 表彰について
 - ・厚生大臣表彰－申請中
 - ・会長表彰－各種委員会委員、研究会委員、事務局職員
- 4) 記念品について
- 5) 「病院設備機器実用ハンドブック」の記事および広告について

5. 三十年史編集委員会

1. 開催回数 全体会議 1回
小委員会 1回
2. 出席者数 17名
3. 協議項目
 - (1) 小委員会 58年11月1日(火)
 - ① 原稿収集状況について
 - ② 制作について
 - ③ その他
 - (2) 全体会議 58年12月9日(金)
 - ① 編集進行状況について
 - ② 装丁・仕様について
 - ③ 史実の内容について
 - ④ その他
4. 総 評

昨年度に引続き、59年5月の会創立33周年記念出版として会史の発刊を進めてきたが、11月の小委員会で会史名を「日本病院会三十年史」と決めた。会創設の昭和26年から昭和55年12月までの30年とし、暦年単位で記述することとし、体裁はB5判、横2段組みとして、記録を重点に客観的な文体に統一することになった。

編集委員は、小野田敏郎委員長以下は内藤景岳、渡辺進、吉岡親八、遠山豪、北原哲夫、高橋政祺、落合勝一郎、大城三郎、高橋彦太郎、西山君枝各氏で、これに諸橋芳夫会長が参加して協議が進められた。

在京小委員会は、小野田委員長のほか北原、高橋、落合、大城、高橋（彦）、西山の7氏で、制作進行の打合せをおこなった。

年史は当初、年譜、グラフを含めて500頁弱と見込んでいたが、原稿の収集を最終的に調整した結果700頁に及ぶことがわかり、当初予定の59年3月末刊行は4月にずれ込むことになった。

内容は、第Ⅰ部総説 — 1創設時代、2橋本会長時代、3神崎会長時代、4病院会時代、第Ⅱ部年表、第Ⅲ部各論 — 1定款、2人事、3経済、4研究部会、5臨床予防医学活動、6通信教育、7研究旅行、8学会、9国際関係、10広報、11事務局、12日本病院共済会、13日本病院会政治連盟となっている。

執筆者も多岐にわたり、小野田敏郎氏はじめ33氏を数えた。執筆、制作にあたられた各氏の労を謝する。

第5 医療従事者無料職業紹介事業

(紹介状況)

(昭和58年4月～昭和59年3月)

項目 職業別	求職件数	求人件数	就職件数	繰越された有効	
				求職件数	求人件数
医師	114	90	45	19	39
看護職員	3	7	2	0	0
医師看護職員を除く医療従業者	12	10	10	2	5
合計	129	107	57	21	44

※ 表中繰越された有効求職件数および求人件数は、求職および求人を取り消した件数を除いた。

(就職者の地域別)

項目 職業別	求職	求人	就職											合計	備考
			東北	関東	甲信越	近畿	中国	九州	30代	40代	50代	60代	70代		
医師	114	90	2	26	4	10	2	1	6	10	11	15	3	45	
看護職員	3	7	1	0	1	0	0	0	1	1	0	0	0	2	
上記以外の職員	12	10	2	7	0	1	0	0	5	4	1	0	0	10	
合計	129	107	5	33	5	11	2	1	12	15	12	15	3	57	

(就職者の診療科目別)

内科 35名 外科 3名 整形外科 1名 産婦人科 5名 小児科 1名

(総評) 本職業紹介事業が設置されて4年が経過し、年々躍進の一途をたどっている。

昭和58年5月日本経済新聞、11月NHKテレビ等に紹介状況がとりあげられ、反響を呼んだ。また労働大臣より昭和58年11月～61年11月までの継続認可を得た。昭和59年度は更に求職求人双方の期待に添うよう業務の推進に努めたい。

第6 定例研究会

1. 定例病院診療研究会

1. 開催回数 6回

2. 開催概要

- ① 5月17日(火) 東京簡易保険郵便年金会館健診センター 23施設 39名
(1) 「ゆうぼうと健診センターにおける自動化多項目総合健診の経験」
ゆうぼうと健診センター センター長 日置治男
(2) 施設見学
- ② 6月21日(火) 東京都立築地産院 14施設 22名
(1) 「周産期医療の現状と問題点」 東京都立築地産院 副院長 柳田昌彦
(2) 施設見学
- ③ 7月19日(火) 東京都養育院附属病院 11施設 18名
(1) 「東京都養育院附属病院10年のあゆみ」
東京都養育院附属病院 院長 村上元孝
(2) 施設見学
- ④ 8月16日(火) 日本病院会会議室 13施設 17名
(1) 「老人病院の経営問題について」 — 院長の立場より —
浴風会病院 名誉院長 関増爾
(2) 「老人病院の経営問題について」 — 事務長の立場より —
信愛病院 事務局長 長澤一男
(事務管理研究会と合同で開催)
- ⑤ 11月15日(火) 済生会横浜市南部病院 9施設 15名
(1) 「済生会横浜市南部病院の現況」 — 新しい形態の病院を運営して —
済生会横浜市南部病院 副院長 阿部達夫
(2) 施設見学
- ⑥ 2月21日(火) 東京都立梅ヶ丘病院 10施設 23名
(1) 「児童精神病院の現状」 東京都立梅ヶ丘病院 院長 藤原豪
(2) 施設見学

2. 定例事務管理研究会

1. 開催回数 3回

2. 開催概要

- ① 4月15日(金) 東医健保会館会議室 45施設 55名
「保険薬局と院外処方」
佼成病院 事務長 沢田光正
あそか病院 事務長 初鹿三良
弥生調剤薬局 薬局長 古川正
聖路加国際病院 事務長 上林三郎
- ② 6月8日(水) 日本病院会会議室 26施設 32名
「病院経営と業務委託」 — 外注合理化による問題点をさぐる —
厚生省病院管理研究所 経営管理部長 石原信吾
(1) 事例Ⅰ「給食業務」 杏林大学医学部附属病院 栄養科長 鈴木昌訓
(2) 事例Ⅱ「検査業務」 北品川総合病院 副院長 笠木茂伸
(3) 事例Ⅲ「ハウスキーピング業務」
慶応義塾大学病院 ハウスキーパー 小田桐信子
- ③ 8月16日(火) 日本病院会会議室 13施設 17名
(1) 「老人病院の経営問題について」 — 院長の立場より —
浴風会病院 名誉院長 関増爾
(2) 「老人病院の経営問題について」 — 事務長の立場より —
信愛病院 事務局長 長澤一男
(病院診療研究会と合同で開催)

3. 定例医事研究会

1. 開催回数 3回

2. 開催概要

- ① 4月19日(火) 石垣記念ホール 96施設 180名
「職員教育・請求もれ防止対策」
(1) 「職員教育 その1 新入職員教育」
a 点数算定の基礎 虎の門病院 保険課係長 船津浩
b 医事システムの留意点 杏林大学医学部附属病院 医事課長 徳永貴士
c 医事関連法規 社会保険蒲田総合病院 事務長 安藤秀雄
(2) 「職員教育 その2 職員教育のあり方」
d 具体的な方法論 本島病院 電算室室長 中野隆男
e 中間管理者のあり方 北品川総合病院 事務部顧問 加藤雄二
(3) 「請求もれ防止対策 その1」

- a 処置に伴う薬剤等のもれの実例 河北総合病院 医事課係長 大西正利
- b 緊急処置を中心とした実例 永寿総合病院 医事課長 小田博夫
- c レセプトチェックのポイント 東京都済生会中央病院 医事課長 松尾茂
- (4) 「請求もれ防止対策 その2」
- d 外科手術の基本的とらえ方 聖路加国際病院 医事課長 渡辺勲
- e 数病院における症例の分析－胃切・骨折観血手術等－
越谷市立病院 医事課第二係長 染谷光一
- ② 9月20日(火) 全社連会館 101施設 168名
- 「医事業務とコンピュータ その8」
- (1) 「レインボーシステムについて」
厚生省保険局保険課組合第二係長 厚生事務官 竹田睦
- (2) 「コンピュータ導入時の留意点」
- a 院内整備の進め方 杏林大学医学部附属病院 医事課長 徳永貴士
- b 病院担当者として知っておくべき問題点とその解決策
永寿総合病院 医事課長 小田博夫
- c メーカー名とセンター名について(コンピュータ用語解説を含めて)
三井記念病院 医事課電算係副主任 桜井雅彦
- (3) 「アンケート集計発表」 三井記念病院 医事課顧問 三上晃
- (4) 「利用病院の現況における問題」
- a レベルアップの必要性とその限界点
越谷市立病院 医事課第二係長 染谷光一
- b ベターな入力方法について 本島病院 電算室室長 中野隆男
- ③ 2月16日(木)～17日(金) 熱海市 新熱海ホテル 47施設 82名
- (1) 基礎医学講座(第25回)
「やさしい基礎医学知識」—脳神経外科を中心として—
総合病院聖隷浜松病院 院長 中山耕作
- (2) グループ討議
- (3) フリーディスカッション(情報交換)
- (4) 事例解答例の説明
- (5) 全体討議

4. 定例庶務人事研究会

1. 開催回数 3回

2. 開催概要

- ① 7月8日(金) 聖路加国際病院第二記念館 28施設 35名
(1) 「読まれる企画をたてるコツ」
「取材インタビューの心得10カ条」 P R研究会代表 池田 喜作
- ② 9月30日(金) 日本病院会会議室 17施設 20名
(1) 「休日・夜間の事務管理体制について」
聖路加国際病院 総務課保安係長 竹下 洋
(2) 「高齢化社会における退職金・年金制度について」
石和温泉病院 事務長 斉藤 正夫
(3) 「O A時代におけるファイリングシステムについて」
a 文書ファイリングシステムの変遷
日本オフィスオートメーション協会 情報事業部担当マネージャー 橋本 真一
b ファイリングシステムの電子化の現状と将来展望
横河北辰電機㈱ オフィス機器営業部主任 笹田 学
- ③ 3月2日(金) 日本病院会会議室 29施設 31名
(1) パネルディスカッション
「これからの病院賃金体系のあり方」 石和温泉病院 事務長 斉藤 正夫
聖路加国際病院 総務課次長 石山 稔
東京衛生病院 人事課長 西浦 捷裕
元東京都済生会向島病院 事務長 稲垣 武

5. 定例用度研究会

1. 開催回数 2回

2. 開催概要

- ① 6月23日(木) 13:00～15:00 日本病院会会議室 21施設 23名
「物品管理について ― 在庫管理を中心として ―」
帝国ホテル 用度課長 海野 洋
- ② 11月24日(木) 10:00～16:00 日本病院会会議室 25施設 27名
「用度業務と価格調査」

6. 定例施設研究会

1. 開催回数 4回

2. 開催概要

① 5月18日(水) 日本病院会会議室 34施設 44名
「病院の災害対策及びその事例 ― 大きな事故につながる日常のトラブル ―」

② 9月29日(木) 日本病院会会議室 20施設 21名

(1) 「地下湧水の有料制について」

(2) 「ガス漏れ警報装置の施行義務について ― 施行方法と事例 ―」

③ 12月17日(土) 虎の門病院 25施設 34名

(1) 「病院の増改築に伴う保守管理の委託業務について」

(2) 「病院の増改築に伴う諸問題について」

虎の門病院 事務部事務次長 本田 力

(3) 施設見学

④ 2月28日(火) 日本病院会会議室 34施設 46名

(1) 「病院の施設管理マニュアル作成の必要と意義」

(2) 「マニュアルの一事例」

(3) 「作業手順と職員の心得」

(4) 「院内における施設設備の情報処理とその対応」

7. 定例会計経理研究会

1. 開催回数 1回

2. 開催概要

① 6月27日(月) 日本赤十字武蔵野女子短期大学 59施設 71名

(1) 「病院会計準則の改正について」

厚生省病院管理研究所 経営管理部主任研究官 針谷 達志

(2) 施設見学

8. 定例労務研究会

(今年度は、全て庶務人事研究会との合同開催として実施した。)

9. 定例看護管理研究会

1. 開催回数 1回

2. 開催概要

- ① 5月26日(木) トラック事業健保会館 46施設 111名
「老年病の予防と管理」
(循環器疾患を中心として)
東京都老人総合研究所 疫学部第一研究室長 松崎俊久

10. 定例看護研究会

1. 開催回数 1回

2. 開催概要

- ① 10月6日(木) 新宿区立牛込公会堂 36施設 113名
「ホスピスにおけるターミナル・ケア」
聖隷三方原病院 聖隷ホスピス所長 原 義雄

11. 定例薬事管理研究会

1. 開催回数 5回

2. 開催概要

- ① 4月20日(水) 14:00～16:00 日赤中央女子短大講堂 46施設 67名
「注射薬混合の問題点 ― そのメリット、デメリット」
武蔵野赤十字病院 薬剤部 堀 治
国立東京第二病院 副薬剤科長 下川 正見
社保蒲田総合病院 薬剤部長 浅見 信子
- ② 8月17日(水) 14:00～16:00 日本病院会会議室 28施設 31名
「同一組成医薬品の購入方法について」 大宮赤十字病院 薬剤部長 井上 毅
国立東京第二病院 薬局長 吉本 与一
- ③ 10月19日(水) 14:00～16:00 日赤中央女子短大講堂 26施設 31名
「副作用情報をめぐって」 厚生省薬務局安全課 佐々木 弥生
(財)日本医薬情報センター 事務局長 国田 初男
- ④ 12月9日(金) 14:00～16:00 日赤中央女子短大講堂 43施設 51名
「麻薬についての諸問題」 厚生省薬務局麻薬課
東京都薬務部薬務課 鳥井 哲
- ⑤ 2月8日(水) 14:00～16:00 日赤中央女子短大講堂 41施設 51名
「病院薬剤師にとっての薬事法学」 東京大学薬学部講師 弁護士 三輪 亮寿

12. 定例栄養管理研究会

1. 開催回数 4回

2. 開催概要

- ① 4月6日(水) 東京都養育院附属病院講堂 36施設 54名
(1) 「骨粗鬆症について」 東京都養育院附属病院 内科 白木正孝
(2) 「老人問題と老齡保障の考え方」
東京都老人総合研究所 統計調査研究室 佐藤嘉夫
(3) 病院施設見学
- ② 6月7日(火) 日本栄養会館 53施設 66名
(1) 「虚血性心疾患と栄養代謝」 順天堂大学医学部循環器内科 講師 加納達二
(2) 「植物性たん白質食品を主とした食事療法」
東京衛生病院 栄養科長 米山貞治
- ③ 8月2日(火) 日本栄養会館 69施設 96名
(1) 「栄養部門におけるコンピュータの利用と応用」
国立病院医療センター 栄養管理室長 山本辰芳
(2) 「既存病院におけるコンピュータの食数計算」
慶応義塾大学病院 食養課 武田純枝
(3) 「パーソナル・コンピュータによる栄養学習プログラム」
東京厚生年金病院 栄養部長 松原民江
- ④ 2月8日(水) (栄養管理、調理合同研究会) 友愛会館9階大会議室 40施設 58名
(1) 「最近の洗剤について」
(株)アデカクリーンエード 研究開発部長 三浦健治
(2) 「魚貝類による食中毒について」 東京飲用牛乳協会 常務理事 海沼勝

13. 定例調理研究会

1. 開催回数 5回

2. 開催概要

- ① 5月18日(水) (株)伊勢丹プチモンド 新宿駅マイシティ店 27施設 42名
(1) 「中国料理調理のコツ」
(株)伊勢丹プチモンド 中国料理担当料理長 栗原優一
(2) 試食会
- ② 7月7日(木) 日本病院会会議室 30施設 46名

- (1) 「栄養関係数値の見方について」 女子栄養大学 助教授 吉田 企世子
- ③ 9月8日(木) 六本木ワールドクッキングスクール 38施設 69名
- (1) 講習「グラタンとムニエルの基本」 — おいしく作るコツ —
- ワールドクッキングスクール室長 実践女子大学講師 大竹 伸郎
- ④ 2月8日(水) (今回は栄養管理研究会との合同研究会として開催実施した)
- ⑤ 2月24日(金) (株)伊勢丹プチモンド 新宿駅マイシティ店 39施設 66名
- (1) 講習「日本料理の基本」 — おいしく作るコツ・料理の盛付け方 —
- (株)伊勢丹プチモンド 新宿駅マイシティ店 松澄 厨房長 三股 英敏
- (2) 試食会及び質疑応答

14. 定例診療録管理研究会

1. 開催回数 4回
2. 開催概要
- ① 第64回 4月9日(土) 41施設 56名 柏戸病院 病歴室見学
- ② 第65回 7月9日(土) 33施設 50名 筑波大学附属病院 病歴室見学
- ③ 第66回 10月8日(土) 36施設 46名 聖マリアンナ医科大学病院 病歴室見学
- ④ 第67回 1月13日(金) 41施設 51名 東京衛生病院 病歴室見学

15. 定例病院管理総合研究会

1. 開催回数 3回
2. 開催概要
- ① 9月22日(木) 14:00～17:00
- 安田病院見学(大田区大森北1-11-18) 11施設 16名
- ② 11月17日(木) 14:00～17:00 日本病院会会議室 10施設 11名
- 「米国の最近の医療事情について」 日経メディカル 記者 野上 秀雄
- 「米国の病院経営学」 筑波大学社会医学系教授 紀伊國 献三
- ③ 3月15日(木) 14:00～16:00 日本病院会会議室 12施設 19名
- 「高齢化社会をむかえるにあたって」 元NHKアナウンサー 松村 満美子

※ なお、当初計画した1月の定例研究会は諸般の事情により中止した。

16. 定例放射線研究会

1. 開催回数 4回

2. 開催概要

- ① 4月15日(金) 14:00～17:00 日本病院会会議室 18施設 18名
「放射線技師の将来とその対策 ― 定員の考え方 ―」
(社)日本放射線技師会 常務理事 二村 梓
- ② 8月19日(金) 14:00～17:00 日本病院会会議室 18施設 20名
「放射線科における患者の急変とその対応」
北里大学病院救命救急センター 主任 前川 和彦
- ③ 12月17日(土) 14:00～17:00 郡山地域職業訓練センター 10施設 10名
- ④ 2月24日(金) 14:00～17:00 日本病院会会議室 10施設 10名
「放射線科の運営に必要なデータは何か」
都立府中病院 放射線科技師長 妹尾 昭一
聖路加国際病院 放射線科技師長 大内 周信

17. 定例臨床検査管理研究会

1. 開催回数 2回

2. 開催概要

- ① 6月3日(金) 14:00～16:00 日本病院会会議室 20施設 33名
「医療人としての心得」 新千里病院 院長 吉岡 観八
- ② 9月2日(金) 13:00～17:00
東芝OAショールーム(港区虎ノ門) 32施設 43名
「臨床検査の情報化社会への対応 ― 最新OA機器の実体と実演」

18. 定例ハウスキーピング研究会

1. 開催回数 3回

2. 開催概要

- ① 9月28日(水) 日本病院会会議室 45施設 61名
事例報告「基準寝具の管理の行政監査について」 研究会委員
- ② 11月28日(月) 日本病院会会議室 13施設 20名
事例報告「ハウスキーピング・マニュアル(清掃)作成の中間発表とその作成にあつての問題点の解決策」 (社)日本人事管理協会 理事 酒井 暢

③ 2月22日(水) 都立府中病院大会議室

23施設 35名

事例報告「院内感染防止の立場からハウスキーピング作業員(外注業者も含む)の健康管理のしかた」

— 作業員の急病のリリーフ対策を含めて委員病院のハウスキーパーの事例発表を中心とした参加者を含む討議方式 —

19. 医療費改定説明会及び実務研修会＝定例医事研究会

1. 日 時 昭和59年2月14日(火) 13:00～16:30
2月15日(水) 13:00～16:30

2. 会 場 東京会場 千代田区公会堂(14日)
兵庫会場 西山記念会館(15日)

3. 参加者数 東京会場 469名 兵庫会場 354名 計 823名

4. 講 師 厚生省保険局医療課 今田 睦 寛

総 評 今回の改定説明会は、東京、神戸の2会場において、医事研究会委員が中心となり、講師に厚生省保険局今田技官があたり熱心な説明会となった。

20. 医療費改定にともなう実務研修会＝定例医事研究会

1. 日 時 昭和59年3月27日(火)

2. 会 場 秋田県生涯教育センター

3. 共 催 (社)日本病院会・秋田県病院管理研究協議会

4. 後 援 秋田県病院協会

5. 参加者数 210名

6. テ ー マ (1) レインボーシステムについて
(2) 医事業務における請求もれの実際について
(3) 今点数改正の要点とその実務における運用について

総 評 従来より改定のあるたび、説明会を開催しているが、今回は、定例説明会に加え、秋田県において、改定にともなう実務者向けの研修会(東北ブロック中心)を開催し、定例説明会でクリアされていない疑義解釈・実際運用面での問題等につき検討、研修を行った。

21. 内科臨床協議会 (Joint Conference)

		参加人員		
5月26日(木)	武蔵野赤十字病院	13名	診断困難であった肺化膿症の1例	武蔵野赤十字病院
6月23日(木)	関東通信病院	33名	(1) 下腿浮腫、関節痛、咳嗽、発熱を呈した1例 (2) 頑固な下痢をくり返した全身性母斑の1症例 (3) 胸水を伴った重症肺炎の1例	関東通信病院 厚生中央病院
9月16日(金)	日赤医療センター	35名	(1) 激症肝炎の一治験例 (2) 壊疽性鼻炎 (3) 脳出血を合併した無酸素性脳症の一例	日赤医療センター 国立病院医療センター
10月20日(木)	自衛隊中央病院	34名	(1) 脾嚢胞の一例 (2) バタンポナーデを初発症状とした悪性リンパ腫 (3) 原因不明の腸閉塞症状を繰返した一症例	佼成病院 中央鉄道病院 関東中央病院
11月26日(土)	共済立川病院	10名	(1) 好中球減少症に血小板減少を合併した1症例 (2) 肺腫瘍の1例 (3) 全身浮腫著明な1症例 (4) SLEの肺ならびに胸膜病変について	共済立川病院 国立立川病院 福生病院
2月23日(木)	聖路加国際病院	12名	(1) 肝膿瘍の1例 (2) 腹部腫瘤の1例 (3) 腹痛と房室ブロックの1例	国立村山病院 三楽病院 国立がんセンター 聖路加国際病院

第7 全国研究会

1. 全国病院診療研究会

1. 開催回数 1回
2. 開催期日 昭和58年10月7日(金)～8日(土)
3. 開催地 茨城県 ① 筑波研究学園都市
② 筑波大学附属病院
4. 参加者数 17施設 26名
5. 演題 (1) 講演
 - ① 「筑波研究学園都市の概要」
科学技術庁研究交流センター 所長 松井正雄
 - ② 「筑波大学附属病院の概要」
筑波大学附属病院 病院部部长 伊藤甲子郎
 - ③ 「病院情報管理」 筑波大学社会医学系 教授 紀伊國 献三
 - ④ 「筑波大学附属病院におけるP P Cと看護運営」
筑波大学附属病院 看護部部长 鈴木小津江
- (2) 施設見学
 - ① 筑波大学附属病院
 - ② 工業技術院 製品科学研究所
 - ③ 工業技術院 電子技術総合研究所
 - ④ 高エネルギー物理学研究所
 - ⑤ 筑波大学キャンパス

6. 総評

本年度の全国研究会は、日本の教育、医療、技術の頭脳を中心である筑波研究学園都市において、筑波大学附属病院の見学並びに国の試験研究機関の見学を取り入れた、まったく新しい試みとして実施した。中でも参加者の注目をあつめたのは、筑波大学臨床医学系澤口重徳教授並びに監物久夫講師の多大なるご尽力により見学の機会を得た国の試験研究機関での医療の最先端技術であり、特にレーザーメス、人工皮膚等の進歩の状況をつぶさに視察できたことは特筆に値するものであった。また、いちはやくP P C看護方式等の斬新な体制を取り入れた筑波大学附属病院の見学もまたとない機会であり、参加者数が比較的少なかったことは惜しまれた。ただ参加した方々にとっては今後大きく進歩するであろう医療技術や病院体制の変化をまのあたりに体験できたことは大変貴重なものであったと思われた。なお開催にあたって多大なるご援助を賜った澤

口、監物両先生に深く感謝するしだいである。

2. 全国事務管理研究会

1. 開催回数 1回（庶務人事研究会、労務研究会と合同開催）
2. 開催期日 昭和58年10月27日（木）～28日（金）
3. 開催地 京都府 京都府中小企業会館
4. 参加者数 56施設 83名
5. 演題 (1) 「中小病院の悩み（20床から330床へ）」
岡本病院 理事長 岡本 隆一
- (2) 「高齢化社会の退職金・年金制度」
石和温泉病院 事務長 斉藤 正夫
- (3) 「仕事の合理化・標準化」
倉敷中央病院 常務理事 鷹取 保三郎
- (4) 「O・A機器と事務合理化」
聖路加国際病院 総務課次長 石山 稔
大和六地藏病院 事務長 松本 彪
- (5) 「看護部門からみた病院の休日・夜間管理体制について」
ユニチカ中央病院 総婦長 関 和香子
- (6) 「管理部門からみた病院の休日・夜間管理体制について」
横浜赤十字病院 事務部長 益田 啓作

6. 総評

本年度の全国研究会は、庶務人事研究会、労務研究会との3研究会合同研究会として開催した。近年は病院経営をとりまく環境がきびしく、事務部門の合理化が急務となってきた時期にあたり、事務部門全般にわたっての合理化・効率化を考えなおす機会をもつ意味で有意義であった。また従来のような大病院にかたよった講演よりも中小病院にも参加できやすいような講演を取り入れ、病院全体の問題として企画した事で、参加者の危機意識が高まった研修会であった。なお、参加者より討論形式の時間を取り入れたらとの意見も聞かれ、今後の課題とした。また、開催にあたり、種々ご尽力いただいた京都府病院協会並びに京都私立病院協会関係者に深謝する。

3. 全国医事研究会

1. 開催回数 2回
2. 開催期日 （第1回） 昭和58年 6月23日（木）～24日（金）

(第2回) 昭和58年11月17日(木)～18日(金)

3. 開催地 (第1回) 新潟市 新潟厚生年金会館

(第2回) 松山市 愛媛県勤労会館

4. 参加者 (第1回) 99施設 183名

(第2回) 90施設 158名

5. 演題 (第1回)

(1) 特別講演「厳しくなるこれからの病院経営」

学校法人東京文化学園 常務理事 落合勝一郎

(2) 基礎医学講座(第23回)

「消化器疾患における内視鏡診断と治療」

新潟県立ガンセンター新潟病院 内科部長 小越和栄

(3) 「看護業務の実際」

新潟県立新発田病院 看護副部長 桜井和江

(4) 「医事業務に必要な基礎的医学知識」— 診療報酬と看護業務 —

三井記念病院 医事課顧問 三上晃

(5) グループ討議

(6) 「病棟クランクと情報伝達」

杏林大学医学部附属病院 医事課長 徳永貴士

(7) 「請求もれ防止対策」— 具体例を中心に —

信楽園病院 医事課長 横堀ノキ

(8) 「省力化をはかる帳票の例」

北品川総合病院 事務部顧問 加藤雄二

(9) 事例解答例の説明

(10) 全体討議

(第2回)

(1) 「病医院経営難を乗り切るためには」

① 請求もれ防止対策 I

社会保険蒲田総合病院 事務長 安藤秀雄

② 請求もれ防止対策 II

三井記念病院 医事課顧問 三上晃

(2) 「請求もれ防止対策の事例」

① 具体例 I 大洲中央病院 医事課主任 筒井秀秋

- ② 具体例 II 松山第一病院 常務理事 越 智 治 美
- (3) 「コンピュータ利用の現状と今後の問題点」
- ① レインボーシステムを中心に
本島病院 電算室室長 中 野 隆 男
- ② アンケート調査から 三井記念病院 医事課顧問 三 上 晃
- ③ 当院におけるコンピュータ利用の経過と現状
総合病院松山市民病院 医事課長補佐 野 本 慶 一
- (4) グループ討議
- (5) 事例解答例の説明
- (6) 全体討議
- (7) 基礎医学講座（第24回）
「肥大型心筋症について」
愛媛大学医学部第二内科 医学博士 濱 田 希 臣

6. 総 評

開催地元関係各位の協力を得られ、予想以上の成果を収めることができた。

従来からの基礎医学講座、事例研究に加え、病院経営の観点から医事課職員が抱えている諸問題をタイムリーにプログラムとして盛り込むことを配慮したことも反映し、延189施設341名の参加者を集めた。

特に、診療報酬と看護業務に関する講演、あるいは、レインボーシステムに対応したコンピュータ利用の現状と今後の問題点等は、テーマが時宜にかなっていたとの声が届いている。

また、事例研究のグループ討議や全体討議は、単に事例研究の範囲にとどまらず、医事業務全般についての終始熱のこもった質疑が交された。

終了後のアンケート結果をみると、「非常に参考になった。」あるいは、プログラム編成上、30分から1時間程度の講演時間、2時間余りのグループ討議時間に対して「もっとゆとりのあるプログラムを組んでほしい。」等々の声があり、これらを参考にして今後も研修の実をあげるよう、なお一層充実させたい。

4. 全国庶務人事研究会

1. 開催回数 1回
2. 開催期日 昭和58年10月27日(木)～28日(金)
3. 開催地 京都市 京都府中小企業会館
4. 参加者 56施設 83名

5. 演 題 (1) 「中小病院の悩み(20床から330床へ)」 ― わが病院の足跡を顧みて ―
岡本病院 理事長 岡 本 隆 一
- (2) 「高齢化社会の退職金・年金制度」
石和温泉病院 事務長 齊 藤 正 夫
- (3) 「仕事の合理化・標準化」 倉敷中央病院 常務理事 鷹 取 保三郎
- (4) 「OA機器と事務合理化」
- ① ワードプロセッサを使った文書管理の効率化
聖路加国際病院 総務課次長 石 山 稔
- ② 診療業務と密着したコンピュータの使い方
大和六地蔵病院 事務長 松 本 彪
- (5) 「看護部門からみた病院の休日・夜間管理体制について」
ユニチカ中央病院 総婦長 関 和香子
- (6) 「管理部門からみた病院の休日・夜間管理体制について ― 特に看護部門
に対する考え方 ―」 横浜赤十字病院 事務部長 益 田 啓 作

6. 総 評

昨年度、庶務人事研究会と労務研究会との合同研究会が好評であったことをふまえ、今年度は開催期間及び開催地がほぼ同一時期であったこともあり、さらに事務管理研究会を加えた3研究会の合同研究会を企画した。

開催地元関係者の協力が予め得られたこともあり、準備期間が短かかったうえに、3研究会が集まって企画を練る会合が少なかつたにもかかわらず、地元・研究会相互に十分意思の疎通を図ることができた。

テーマは、各研究会の独自性を失なうこともなく、各々定例研究会で発表し好評であったテーマを持ち寄り、2日間のプログラムを編成した。

従来、研究会の性格から事務部門の参加者のみの研究会であったが、看護部門の方々にも応用できるテーマを組み入れた今回の研究会の意義が理解されたこともあり、参加者は事務部門関係者に限らず医師、看護部門と多岐にわたり、予想以上の成果を収めることができた。

5. 全国用度研究会

1. 開催回数 1回
2. 開催期日 2月9日(木)～10日(金)
3. 開催地 神戸市 川崎重工業保健会館
4. 参加者数 82施設 111名

5. 演 題 (1) アンケート報告「用度業務に関する調査」
「医薬品以外の物品に関する調査」
「医薬品に関する調査」

- (2) 医療機器購入上の諸問題
(3) 病院視察見学 神戸市立中央市民病院

6. 総 評

昨年、中止のやむなきに至った全国研だが、今年は開催地を神戸とし、地元病院協会の支援を得て標記の成果を収めることができた。今回は万全の体制で臨んだだけに、100名以上の参加を得て、委員一同、自信を新たにした次第である。今後も、業務に密着した地道な研究活動を積み重ねてゆきたい。

6. 全国施設研究会

1. 開催回数 1回
2. 開催期日 昭和58年10月20日(木)～21日(金)
3. 開催地 岡山市 岡山商工会議所
4. 参加者 63施設 84名
5. 演 題 (1) 「アンケート集計結果の発表」
自治医科大学事務局技監 倉持一雄
(2) 「搬送設備計画について」
① 物品の集中管理と搬送について
岡山赤十字病院 建設課計画係長 三折武志
② 搬送設備運用上の問題点 自治医科大学事務局技監 倉持一雄
(3) 「省エネルギー対策と教育について」
東京警察病院 事務長補佐 石原英世
(4) 「建物の保守管理について ― 保守対策を考えた病院設計 ―」
武蔵野赤十字病院 庶務係長 小峰建二
(5) 「病棟・外来における施設設備のトラブルについて ― 施設管理と周辺機器 ―」
北品川総合病院 施設課長 中島昭二郎
(6) グループ討議
(7) 「設備の保守管理について ― 病院設備の保守管理のポイント ―」
癌研究会附属病院 施設管理課長 松岡文男
(8) 「室内環境の空調運転について ― 室内環境と温湿度の調和、その他 ―」

東京都済生会中央病院 施設課長 辺 見 九十九

(9) 「蒸気滅菌装置の事故防止等について」

東京都立豊島病院 主事 中 西 照 録

(10) 施設見学 倉敷中央病院

6. 総 評

研究会のあり方を、従来にもまして今年度は一新することに心がけた。

企画段階において、従来好評である地元関係者の希望テーマを組み込んで、参加者が単に講演を聞くにとどまらず、各病院が抱える諸問題解決への糸口が見つけられるようなプログラムの編成をするとともに、昨年度の反省事項に留意して、予め全国会員病院を対照とした病院施設管理調査の実施・集計発表、また定例研究会で好評の病院施設見学を加えた。

開催地元関係各位の協力を得られ、熱っぽい雰囲気の中での講演、グループ討議・発表、さらに参加者ほぼ全員が参加した施設見学と予想以上の成果を収めることができた。

アンケート結果を見ても、「非常に参考になった。」との声が多く、これらの声に応えるべく、なお一層充実を図りたい。

7. 全国会計経理研究会

1. 開催回数 1回

2. 開催期日 昭和58年11月10日(木)～11日(金)

3. 開催地 東京都 新宿区牛込公会堂

4. 参加者 85施設 102名

5. 演 題 (1) 「医療法と医療保険制度の改革案について」

蕨市立病院 院長 池 谷 亘

(2) 「有利な資金の運用法について」

三和銀行資金証券部 部長代理 永 淵 修 身

(3) 「最近の病院税制について」 森会計事務所 所長 森 久 雄

(4) 「経営分析集計結果の発表」 河北総合病院 事務長 酒 泉 春 雄

(5) 「病院の経営管理について」 自治医科大学 教授 一 条 勝 夫

(6) 「病院会計準則(改訂版)について」

厚生省病院管理研究所 経営管理部主任研究官 針 谷 達 志

6. 総 評

今年度も、例年実施している「経営分析集計結果の発表」の他に、会計経理業務を担当し、研究会へ参加したくても2日間の参加が困難であるという方からの声が多く、それを受け今回は、

直接業務に関係する病院会計準則の改訂についてのみ、つまり半日の参加が可能なプログラムを企画した。

従来にもまして、担当者と講師との間に熱心な質疑が交され、「テーマが時宜にかなっていた。」「参考になった。」、また「運営がスムーズであった。」との声に、その成果が期待されるところである。

8. 全国労務研究会

(今年度は、全て庶務人事研究会との合同開催として実施した。)

9. 全国看護管理研究会

1. 開催回数 1回
2. 開催期日 昭和58年11月17日(木)～18日(金)
3. 開催地 京都市 京都府中小企業会館
4. 参加者数 85施設 173名
5. 演題
 - (1) シンポジウム「看護ケアの量的・質的变化について」
 - ① 検査と介助の変化 東京都済生会中央病院 看護科長 船場 宮子
 - ② 医療機器の導入と看護 武蔵野赤十字病院 婦長 中原 久江
 - ③ 手術療法にかかわる変化 練馬総合病院 総婦長 大久保 和恵
 - ④ 外来における治療と指導
日本専売公社東京病院 看護部長 須谷 照子
 - (2) 講演「患者が看護職に求めているもの」
— 記者として患者側に立って考える —
朝日新聞東京本社出版局「フットワーク」編集長 長倉 功
 - (3) 講演「ぼけの理解」 堀川病院 院長 早川 一光
 - (4) 講演「病院医療と看護の方向」
聖路加国際病院 総婦長 内田 卿子

6. 総評

揺れ動く病院医療状況の中で、これからの看護の在り方を考えるテーマ設定の下に、地元よりの参加者62名を含む総勢173名の参加者を得て盛会裡に終了した。看護に求められている諸々の問題を、その根源から摘出し、現在の問題に照射することを最大の課題としてプログラム設定がなされた。

シンポジウムについては、4名の演者より各論が発表され、実務面よりの問題点の所在が明示

された。しかし残念ながらその解決策については、今後の研究課題として深化、発展させる必要性が各演者より指摘された。

外部からの看護職への視点という試みとして朝日新聞より長倉功氏を講師として迎え、患者サイドより生の声を反映させることにより、対応姿勢の反省と自覚へのステップとした。

地元京都の早川講師の講演は、身近な問題に見落されがちなく看護の心への必要性を指摘されるとともに、医師、健康人、管理者、各々の立場より、初心に帰ることの大切さにスポットが当てられた。

「病院医療と看護の方向」では、医療費抑制の気運に対して、パートの婦長、主任の登用という注目される発想が展開された。

以上の各テーマに対して、参加者より諸々の場面での具体的な解決策が要望されたことは、今後の当研究会の課題である。

10. 全国看護研究会

1. 開催回数 1回
2. 開催期日 昭和58年6月9日(木)～10日(金)
3. 開催地 仙台市 宮城県看護研修センター
4. 参加者数 46施設 105名
5. 演題
 - (1) 講演「情報の渦の中で」 聖路加国際病院 総婦長 内田 卿子
 - (2) 講演「老人保健法の診療報酬について」
三井記念病院 医事課顧問 三上 晃
 - (3) 講演「患者の安全を守るために」(医療過誤の防止)
(社)日本看護協会 常任理事 井上 幸子
 - (4) シンポジウム「看護ケアの量的、質的变化について」
 - ① 検査と介助の変化
東京都済生会中央病院 看護科長 船場 宮子
 - ② 医療機器の導入と看護 関東通信病院 総婦長 大関 マサ子
 - ③ 手術療法にかかわる変化 東京警察病院 総婦長 嶋崎 佐智子
 - ④ 外来における治療と指導 聖路加国際病院 総婦長 内田 卿子

6. 総評

後援団体の(社)宮城県看護協会の甚大なるご協力により105名の参加者を集め盛会裡に終了した。

内田講師、三上講師、井上講師の提案はともに日常業務の中で是非考えを深めなければならな

いことがらであり、また、シンポジウムについては、これからの看護ケアに対する現状分析の意味を持つものであるだけに、参加者の関心も予想以上に深く、内容的にも大変意義のある研究会となった。

11. 全国薬事管理研究会

1. 開催回数 1回
2. 開催期日 6月18日(土)～19日(日)
3. 開催地 富山市 富山市公会堂
4. 参加者数 77施設 142名
5. 演題 (1) 特別講演「これからの病院のあり方と薬剤師に期待するもの」
富山県立中央病院 院長 村田 勇
シンポジウム「病院薬局と漢方製剤」
 - ① 医師の立場から
富山医科薬科大学附属病院 和漢診療部副部長 今田屋 章
 - ② 薬剤師の立場から
富山医科薬科大学附属病院 薬剤部長 堀越 勇(2) パネルディスカッション
「薬剤師の病棟における治動」
 - ① 薬剤管理 大森赤十字病院 薬剤師 柏倉 春子
 - ② 人間関係 国立東京第二病院 薬局長 吉本 与一
 - ③ 看護の立場から 富山県立中央病院 病棟婦長 山崎 節子

6. 総評

これまで定例研究会でとりあげたテーマの中から、病院薬剤師にとって特に必要と思われるものを、集約する形で、今回の全国研究会を構成した。漢方製剤については、地元の特色を取り入れたつもりである。多数の参加を得て、盛会裡に開催され、関係方面からもかなりの反響を得ることができた。開催の意図は達せられたといえる。日病常任理事である地元の西能正一郎先生には、50名近い動員をされるなど多大のご協力をいただいた。厚く感謝の意を表したい。

12. 全国栄養管理研究会（調理研究会との合同研究会）

1. 開催回数 1回
2. 開催期日 昭和58年11月18日(金)～19日(土)
3. 開催地 神戸市 神戸市勤労会館

4. 参加者 70施設 115名

5. 演題 (1) 講演「仕事の原点を見直す」

元大阪厚生年金病院 栄養部長 大政 翠

(2) 講演「明日の病院給食をめぐる」 — 科学と芸術との調和 —

慶応義塾大学病院 食養第一科長 山下 光雄

(3) 講演「新しい病院給食施設について」

神戸市立中央市民病院 栄養科主幹 織野 俊之

(4) 事例報告「科内勉強会の運営とあり方」

① 神鋼病院 主任栄養士 猪奥 道子

② 東京都立神経病院 栄養科長 馬場 昂

③ 社会保険神戸中央病院 栄養係長 広田 ヒサ子

④ 東邦大学医学部附属大森病院 栄養部次長 花岡 瞳

⑤ 島根県玉造厚生年金病院 栄養科主任 佐藤 加代子

(5) 病院施設見学

神戸市立中央市民病院

6. 総評

本年度は、病院給食部門の進むべき方向を探る試みとして、調理研究会との合同研究会が持たれた。

病院給食を推進する栄養、調理の両部門においては、相互の連携と協力体制を緊密化させる必要性から、お互いの職域への理解と内省の意味を込めて、病院給食に関する講演を3題設定した。

また、科内勉強会について5施設より実質的な問題提起という観点に立脚した事例報告がなされ、参加者よりの活発な意見交流が持たれた。

引き続き、会員病院の協力により、先駆的な給食設備を誇る神戸市立中央市民病院の施設見学を行い、盛会裡に終了した。

なお、同病院の織野俊之主幹をはじめ、地元の関係者の方々には開催及び運営諸般につき多大のご協力を戴いた。深謝申しあげる。

13. 全国調理研究会

(本年度は、栄養管理研究会との合同開催として実施した)

14. 全国病院管理総合研究会

1. 開催回数 1回
2. 開催期日 6月15日(水)～16日(木)
3. 開催地 東京都 東京トラック事業健保会館
4. 参加者数 47施設 99名
5. 演 題 (1) 講演「医療人のモラルについて」
東海大学医学部 教授 左奈田 幸 夫
(2) パネルディスカッション
「看護部門と他部門との連携強化を如何にすべきか」
(3) 講演「老人保健法について」
厚生省公衆衛生局老人保健部 保健課課長補佐 渡 辺 芳 樹
(4) 講演「激変する医療経済と今後の病院運営」
㈱川原経営総合センター 社長 川 原 邦 彦
(5) 講演「報道の立場からみた日本の医療」
朝日新聞東京本社科学部部長 論説委員 柴 田 鉄 治
6. 総 評

参加者の便宜を考え、東京都において開催した。また参加者の動員について、各委員が努力するなど、収支面も配慮したつもりである。内容的には、「教養」、「法律」、「一般」、「ジャーナリズム」の諸点から上記のとおり、かなり盛り沢山のものとなった。

病院管理総合研究会はテーマの制約がないので、多面的な研究活動ができる。今後もこの特色を生かした研究会を企画していきたい。

15. 全国放射線研究会

1. 開催回数 1回
2. 開催期日 6月24日(金)～25日(土)
3. 開催地 仙台市 仙台市戦災復興記念館
4. 参加者数 23施設 26名
5. 演 題 (1) 教育講演「医療人としての心得」
仙台市立病院 院長 丹 野 三 男
(2) 特別講演「低線量のリスク」
東北大学名誉教授・東北放射線科学センター理事長 栗 冠 正 利
(3) 全体討議 (1) 「業務基準と定員」

全体討議 (2) 「技師の職務とその権限」

6. 総 評

参加者は少なかったが、講演2題とも好評であり、全体討議では発言が相次ぐなど、熱心な受講風景が見られ、充実した研究会だった。

16. 全国臨床検査管理研究会

1. 開催回数 1回
2. 開催期日 10月21日(金)～22日(土)
3. 開催地 仙台市 国立仙台病院地域研修センター
4. 参加者数 26施設 30名
5. 演 題 (1) 特別講演「癌検査の現状と展望」
仙台市立病院 内科医長 桜田 弘之
(2) 特別講演「宮城県の臨床検査の現状」
国立仙台病院 技師長 笹原 武夫
(3) 特別講演「迂曲しつつある臨床検査管理の問題点」
昭和大学病院 技師長 平沢 政人
(4) パネルディスカッション
「厳しい医療情勢の中で臨床検査は如何にあるべきか」

6. 総 評

国立仙台病院のご協力を得て、同院研修センターにおいて開催。現今の医療情勢下において、今後、臨床検査部門がとるべき方向性とは何かを主たるテーマとした。容易に結論の出る問題ではないが、臨床検査技師としての自覚を新たにし、研究会の活動を通して、これからもこの問題に取り組んでいきたい。

17. 全国ハウスキーピング研究会

1. 開催回数 1回
2. 開催期日 昭和58年5月20日(金)
3. 開催地 東京都 日本病院会会議室
4. 参加者 27施設 32名
5. 演 題 (1) 講演「アメリカから上陸した監督者業務委託の経験」
河北総合病院 院長 小笠原 道夫
(2) シンポジウム「アメリカから監督者業務委託が上陸してきた現状と今後の

動向について」

- ① 院長の立場から 順天堂医院 副院長 川北 祐 幸
- ② 事務長の立場から 東京衛生病院 事務長 高原 敏 夫
- ③ 総婦長の立場から 虎の門病院 看護部長 栗原 や ま
- ④ ゼネラル・ハウスキーパーの立場から
ハウスキーピング研究会委員長 近藤 英 二

6. 総 評

近時、アメリカより病院の監督者業務を受託する企業が上陸し、従来のいわゆる外注委託業者とは本質的に異なるこの委託システムの影響は、今後、病院関係者へ大きな波紋を投げかけるものと懸念されている。そのような情勢の下、当研究会では、この委託システムの実態はいかなるものであるか、という切実な問いに答える試みとして、まずわが国で初めてこの委託システムを導入した河北総合病院、小笠原院長より講演を願い、監督者業務委託を可能にする諸条件について言及された。続いて、院内より院長、事務長、総婦長、ゼネラル・ハウスキーパーの各々の立場より見解が述べられ、問題の所在を顕在化させることに努めた。

折悪しく、院内多忙の時期と重なり、32名の参加者にとどまったものの、今後の問題として大きくクローズアップされてくることは明白であるだけに、今後も継続的に取組むべき研究対象であると考えます。

18. 全国図書室研究会

- 1. 開催回数 1回
- 2. 開催期日 昭和58年8月27日(土)～28日(日)
- 3. 開催地 東京都 ① 東医健保会館(27日)
② 東京女子医科大学図書館(28日)
- 4. 参加者数 42施設 47名
- 5. 演 題 (1) 「医学中央雑誌の改訂について」
医学中央雑誌刊行会 部長 佐藤 輝 義
(2) 「消化器疾患について」
帝京大学救急救命センター 講師 葛西 猛
(3) 「消化器系MeSH 用語の学び方」
— 消化器系MeSH Tree 構成について —
東京女子医科大学図書館 司書 堀江 幸 司

(4) 「医学文献の探し方」(実習)

— Index Medicus を利用して —

東京女子医科大学図書館 司書 西岡正行

(5) 実習の解説及び質疑応答

6. 総 評

本年度の全国研究会は、「医学文献の探し方Ⅲ」と題し、第1日目を文献検索に必要な基礎知識の修得のための講義、第2日目はテーマにそった実習及び解説、質疑応答と充実した内容で開催した。なお2日目の実習については、東京女子医科大学図書館の絶大なるご協力により、休日にもかかわらず図書館内を使用させていただき、実物を参考に大学側の堀江幸司氏、西岡正行氏の指導を受けられたことは、かつてない経験であった。今後も実践的な内容のテーマを中心に、図書室研究会を発展させていくよう努力したい。なお、今回の全国研究会開催にあたって、多大なるご援助、ご尽力を賜った東京女子医科大学図書館関係者各位に対し深く感謝したい。

第8 第一線リーダー研修会

1. 開催回数 3回

2. 開催概要 第1回（5日間コース）

期 日 6月13日（月）～17日（金）

開催地 東京都 番町共済会館

参加者 13施設18名（修了証交付）

演 題 (1) 特別講演

「最近の医療情勢について」

日比谷病院 院長 深瀬 邦雄

「この研修を今後活かすために」

社団法人 日本人事管理協会

理事・専任講師 酒井 暢

(2) 監督者の職務

(3) 仕事の管理

(4) 仕事の改善

(5) 部下の育成

(6) 事例研究

(7) リーダーシップ

第2回（3日間コース）

期 日 11月10日（木）～12日（土）

開催地 東京都 日本病院会会議室

参加者 20施設23名

演 題 (1) 職場リーダーのポジションと役割

(2) 職場運営のポイント

(3) 要求される創意工夫

(4) 職場研修のねらい

(5) ケーススタディ

(6) リーダーシップと相互理解

第3回（3日間コース）

期 日 2月23日（木）～25日（土）

開催地 京都市 京都社会福祉会館

- 参加者 25 施設 47 名
- 演 題 (1) 職場リーダーのポジションと役割
- (2) ケーススタディ
- (3) 職場運営のポイント
- (4) 要求される創意工夫
- (5) 職場研修のねらい
- (6) リーダーシップと相互理解

3. 総 評

各職場の管理監督者として必須のテーマを盛り込んで、今年度は5日間コースを従来の湯河原から東京に変更し1回、3日間通学コースを東京と京都で各1回、計3回開催した。

5日間コースではケーススタディの予習の厳しさもさることながら、「各病院の職種・年令等多種多様の方々が共通の目的のもとに集まり、寝食を忘れての討議は非常に新鮮であり、有意義であった。」と、また3日間コースでは、「受講してみて忘れていたことを再認識したり、自覚がもてたりした。」と、それぞれアンケートに書かれる一方、「もっとゆとりのあるプログラムを企画してほしい。」と要望される方もいる。

例年、必ず1人は参加者を派遣する病院も多く、今後もこれらアンケートの声を無駄にすることなく企画を練り直し、研修の実があげられるよう、なお一層の改善に励みたい。

第9 第23回病院視察研究会

1. 開催地 福岡県・佐賀県
2. 開催期日 昭和58年11月16日(水)～19日(土) 3泊4日
3. 視察病院
 - ① 福岡県・北九州市(学校法人)産業医科大学病院(17日)
 - ② 福岡県・北九州市(市町村)北九州市立八幡病院(17日)
 - ③ 福岡県・久留米市(医療法人)聖マリア病院(18日)
 - ④ 佐賀県・佐賀市(国)佐賀医科大学医学部付属病院(18日)
 - ⑤ 福岡県・福岡市(共済及連合)浜の町病院(19日)
4. 宿泊所
 - ① 16日(水)博多都ホテル(兼集合場所)
 - ② 17日(木)福岡山の上ホテル
 - ③ 18日(金)ホテルニューオータニ佐賀
5. 参加者数 24名
6. 総評

毎年恒例の行事となっている病院視察研究会も23回目を迎え、東海道新幹線シリーズとして西へと進められてきたが、今回は幹線終着の福岡県と佐賀県の5病院の視察が行われた。(社)福岡県病院協会の協賛を得て5病院を歴訪したが、院長の人柄を反映して、それぞれ厳しい環境の中にも暖かい院内の雰囲気がたどよい、視察・討議を通して研究員には貴重な体験となった。なお特に福岡地区では病院内での禁煙を励行する施設が多く、待合室などでは“喫煙コーナー”以外での喫煙を禁じるなど、環境衛生にも留意する態度が目立った。来年度以降はまたフリダシにもどし、東方の施設からの視察を企画することになっている。

第10 診療録管理通信教育

1. 入学状況

○第23期入学

- 1) 開講月日 昭和58年7月1日
- 2) 入学者数 87名(但し、1名2年次編入含)
- 3) 受講料 54,000円

○第24期入学

- 1) 開講月日 昭和59年1月1日
- 2) 入学者数 82名(但し、7名2年次編入含)
- 3) 受講料 60,000円

2. 卒業状況

○第19期卒業

- 1) 卒業者数 34名(男9名 女25名)
- 2) 卒業式典 昭和58年10月19日(水)
- 3) 同会場 大阪府立青少年会館(大阪東区)

○第20期卒業

- 1) 卒業者数 50名(男8名 女42名)
- 2) 卒業式典 昭和59年3月24日(土)
- 3) 同会場 ふくおか会館(東京千代田区)

3. 受講生員数状況

○入学者総数 2,071名(男 491名、女 1,580名)

○卒業者総数 804名(男 172名、女 632名)

○受講者総数 474名(58.3.26現在)

内 訳	21期生	143名
	22期生	89名
	23期生	160名
	24期生	82名

4. 集中スクーリング実施状況

○昭和58年8月

基礎科目スクーリング			試 験	専門科目スクーリング		
第22・23期生			第19期生 第21期生	第20・21期生 第22・23期生の内 2年次編入生		
18日	19日	20日	21日	22日	23日	24日
(木)	(金)	(土)	(日)	(月)	(火)	(水)

地 区	会 場	延出席者数
東京地区	東京文化学園	643名
大阪地区	大阪府中小企業文化会館	342名
福岡地区	福岡大学医学部	148名

○昭和59年2月

基礎科目スクーリング			試 験	専門科目スクーリング		
第23・24期生			第20期生 第22期生	第21・22期生 第23・24期生の内 2年次編入生		
16日	17日	18日	19日	20日	21日	22日
(木)	(金)	(土)	(日)	(月)	(火)	(水)

東京地区	早稲田速記学校	574名
大阪地区	(スクーリング会場) 大阪府中小企業文化会館	309名
	(試 験 会 場) 大阪医療技術学園専門学校	39名
福岡地区	福岡大学医学部	147名

5. 月例スクーリング

①	4月2日	情報管理	日病会会議室	9名
②	4月16日	内科学Ⅴ	日病会会議室	14名
③	5月14日	医学用語学Ⅰ	日病会会議室	19名
④	5月21日	内科学Ⅵ	早稲田速記学校	15名
⑤	6月18日	内科学Ⅶ	日病会会議室	15名
⑥	6月25日	医学用語学Ⅱ	早稲田速記学校	24名
⑦	7月2日	解剖学Ⅰ	日病会会議室	15名
⑧	7月23日	医学用語学Ⅲ	早稲田速記学校	16名
⑨	9月24日	解剖学Ⅱ	早稲田速記学校	8名
⑩	10月1日	品質管理Ⅰ	日病会会議室	19名
⑪	10月22日	解剖学Ⅲ	日病会会議室	9名
⑫	10月29日	品質管理Ⅱ	早稲田速記学校	17名
⑬	11月12日	診療録管理室運営Ⅰ	日病会会議室	17名
⑭	11月26日	解剖学Ⅳ	早稲田速記学校	11名
⑮	12月10日	診療録管理室運営Ⅱ	日病会会議室	18名
⑯	12月17日	解剖学Ⅴ	日病会会議室	9名
⑰	1月21日	解剖学Ⅵ	日病会会議室	7名
⑱	1月28日	診療録管理室運営Ⅲ	早稲田速記学校	12名
⑲	3月3日	診療録管理室運営Ⅳ	日病会会議室	5名

第11 メディカルクラーク通信教育

1. 第7回認定証授与式

昭和58年10月29日(土) 17:00～20:00

会 場 : 東京半蔵門 ふくおか会館

認 定 者 : 38名

追加認定者 : 3名(59.3.15)

2. 試 験

1) 第7期生後期試験(8月21日(日))

東京会場 : 26名

京都会場 : 14名

合 格 者 39名(内1名、前期再試)

不合格者 1名

2) 第8期生前期及再追試(2月14日(火))

東京会場 : 30名

京都会場 : 25名

合 格 者 51名

不合格者 4名

3. スクーリング(第8期生)

1) 前期(8.18～24)

8/18	19	20	22	23	24
(木)	(金)	(土)	(月)	(火)	(水)
東 京 会 場 早稲田速記学校			京 都 会 場 ビ ル 葆 光		
121名			99名		

2) 後期(2.11～17)

2/11	12	13	15	16	17
(土)	(日)	(月)	(水)	(木)	(金)
京 都 会 場 ビ ル 葆 光			東 京 会 場 早稲田速記学校		
73名			94名		

4. 医学セミナー

58.	4. 16	内科学	5	20名
	5. 21	”	6	19名
	6. 18	”	7	21名
	7. 2	解剖学	1	24名
	9. 24	”	2	22名
	10. 22	”	3	18名
	11. 26	”	4	15名
	12. 17	”	5	12名
	1. 21	”	6	9名

第12 事務長養成課程通信教育

1. 第4回認定証授与式

昭和58年7月16日(土) 17:00~19:30

会 場：東京半蔵門 ふくおか会館

認定者：10名

2. 試 験

1) 第4回生2年後期(6月18日(土))

於 京都堀川会館

受験者 10名、合格者 10名

2) 第5回生1年後期(7月17日(日))

於 東京・聖路加国際病院第2記念館

受験者 6名、合格者 6名

3) 第5回生2年前期(1月15日(日))

於 東京・聖路加国際病院第2記念館

受験者 6名、合格者 6名

4) 第6回生1年前期(1月8日(日))

於 東京・聖路加国際病院第2記念館

受験者 6名、合格者 4名、不合格者 2名

3. スクーリング

1) 前期(7.11~23)

	7/11	12	13	14	15	16	7/18	19	20	21	22	23
	月	火	水	木	金	土	月	火	水	木	金	土
期 別	第6回生1年前期						第5回生2年前期					
延 数	66名						36名					
会 場	聖路加国際病院第2記念館											

2) 後期 (59. 1. 9～21)

	1/9	10	11	12	13	14	7/16	17	18	19	20	21
	月	火	水	木	金	土	月	火	水	木	金	土
期 別	第 6 回 生 1 年 後 期						第 5 回 生 2 年 後 期					
延 数	42 名						36 名					
会 場	聖 路 加 国 際 病 院 第 2 記 念 館											

4. 第 2 回 卒 後 研 修 会

昭和 58 年 6 月 18 日 (土) 13:00～17:30

会 場 : 京 都 堀 川 会 館

テ ー マ : 『 経 営 危 機 下 の 病 院 運 営 と 医 療 の モ ラ ル 』

— シ ン ポ ジ ウ ム 形 式 に よ る —

講 師 : 杏 林 大 学 医 学 部 教 授 高 橋 政 禎

東 京 文 化 学 園 常 務 理 事 落 合 勝 一 郎

自 治 医 科 大 学 教 授 一 条 勝 夫

参 加 者 : 23 名

第13 セミナー

1. 病院長並びに病院幹部セミナー

1. 開催回数 1回
2. 開催期日 昭和58年8月6日(土) 13:00 - 18:00 7日(日) 10:00 - 17:00
3. 開催地 東京都 ダイヤモンドホテル
4. 参加者数 173施設 216名
5. 演 題 第1日(8月6日)

講演 「医療費適正化の考え方」 厚生省保険局長 吉村 仁

司会 日本病院会理事・岡山病院長 岡山 義雄

シンポジウム 「病院管理運営上の諸問題」

日本病院会会長・国保旭中央病院長 諸橋 芳夫

日本病院会副会長・佐久総合病院長 若月 俊一

日本病院会副会長・北品川総合病院長 河野 稔

日本病院会副会長・有澤総合病院長 有澤 源蔵

日本病院会副会長・秋田赤十字病院長 竹本 吉夫

司会 日本病院会常任理事・高山整形外科病院長 高山 瑩

第2日(8月7日)

講演 「私はこのようにして病院を管理運営している」

日本病院会常任理事・西能病院理事長 西能 正一郎

河北総合病院長 小笠原 道夫

司会 日本病院会常任理事・高知県立中央病院長 近藤 慶二

シンポジウム 「これからの日本の病院はどうなるか」

厚生省病院管理研究所長 佐分利 輝彦

NHK家庭部チーフディレクター 行天 良雄

京都大学経済学部助教授 西村 周三

大口病院理事長 小野 肇

司会 日本病院会常任理事・水戸済生会病院長 丹野 清喜

6. 総 評

4月の役員改選により新執行部は諸橋会長を中心にして進行を始めた。一方、厚生省は薬価基準の改訂と医療費改正を企図しており、こうした医療界の環境変化への対応をはかるため、諸橋会長がセミナー企画の中心になり、プログラムの編成をおこなった。

講演は、医療費問題をふまえて吉村保険局長に厚生省としての考え方を、病院の管理運営については、実体例を西能・小笠原両氏を講師にして演述してもらった。医療費改正については、質問が集中したが、吉村氏は「まじめな病院が潰れないように考えている。また施策についての病院側からの意見があれば、どしどし提案をされたい。」と述べ、医療側の意見を参考にする態度を示した。

シンポジウムの1つは、日病の正副会長がそろって自施設の現況と将来へのビジョンを語り、また、これからの日本の病院については、斯界の第一人者と目される人々を講師として、それぞれの構想が述べられた。

当初の予想を上回る参加者を得て、開催されたことは、会員の新執行部に対する期待と、環境悪の苦況を打開するものを求めてのことと推測できた。

なお多数の報道関係者もつめかけ、医療行政ならびに病院界の実情について深い関心を示した。

2. 総婦長セミナー

1. 開催回数 1回
2. 開催期日 昭和58年8月18日(木)～19日(金)
3. 開催地 東京都 コクヨホール
4. 参加者数 60施設 98名
5. 演題
 - ① 講演「交流分析」
岡山大学教育学部 助教授 水野正憲
 - ② 講演「看護情報の渦の中で」
聖路加国際病院 総婦長 内田卿子
 - ③ 講演「平安時代民衆の価値観」
独協大学 教授 河北 騰
 - ④ 講演「看護業務と診療報酬」
三井記念病院医事課 顧問 三上 晃
 - ⑤ 講演「報道の立場から見た医療看護界」
朝日新聞東京本社出版局
「フットワーク」 編集長 長倉 功

6. 総評

例年200名以上の参加者を得て盛會を誇っている本セミナーではあるが、本年は98名と予想外に少なく、残念ながら盛りあがりの点で芳しくなかった。開催の内容、案内方法を再考すべき時期にあると反省している。

今年は気分一新を目指して、会場に品川駅前のコクヨホールを充てたが、設備及び場内の雰囲気は申し分ない、と参加者から大変好評であった。来年度は会場の他に、より新鮮なテーマ設定をはかり、前進していきたい。

3. 事務長セミナー

1. 開催回数 1回
2. 開催期日 昭和59年1月27日(金)～28日(土)
3. 開催地 東京都 食糧会館大会議室
4. 参加者数 72施設 83名
5. 演題
 - (1) 「病院におけるTQC活動の実際」
東海大学工学部経営工学科 教授 師岡孝次
 - (2) 「今、事務長に望むこと」 秋田赤十字病院 院長 竹本吉夫
 - (3) 「医療費適正化と病院の運営」
厚生省病院管理研究所経営管理部 主任研究官 針谷達志
 - (4) シンポジウム
「病院経営危機の乗り切り策はなにか、」
 - 院長の立場より 河北総合病院 院長 小笠原道夫
 - 事務長の立場より 社保蒲田総合病院 事務長 安藤秀雄
聖隷福祉事業団 専務理事 大塚暢
 - 総婦長の立場より 厚生連篠ノ井病院 総婦長 塚田八重子
 - 進行・まとめ 虎の門病院 事務部長 黒田幸男

6. 総評

本年度の事務長セミナーは、「病院経営危機の実態と克服策」と題し、昨年度のセミナーに引き続き、経営危機下の病院運営克服について深く追求した。その結果、昨年度の出席者も会場にかなり見られ、主催側としても問題の深さをあらためて認識した。また、本年度は、昨年度の経験を生かし、2日目にシンポジウムを取り入れた結果、会場内の熱気が非常に感じられたセミナーとなった。なお今後も統一テーマにより、さらにこの問題を追求していかなければならない事を痛感した。

4. 放射線技師監督者セミナー

1. 開催回数 1回
2. 開催期日 10月13日(木) 10:00～20:00

14日(金) 9:00～17:30

15日(土) 9:00～13:00

3. 開催地 静岡県・湯河原 ちとせ荘
4. 参加者数 16施設 21名
5. 演 題 特別講演「医療人の心得」 聖隷浜松病院 院長 中山 耕作
「3分間スピーチ」
講演「N・M・Rについて—その理論と実際—」
国立山梨医科大学 助教授 荒木 力
全体討議「技師の職務とその権限」
特別講演「今後の医療経営におけるパラメディカル・スタッフのあり方」
榑川原経営総合センター 社長 川原 邦彦
事例研究

5. 臨床検査管理セミナー

1. 開催回数 1回
2. 開催期日 2月3日(金) 13:00～23:00
4日(土) 9:00～12:10
3. 開催地 静岡県・湯河原 厚生年金会館
4. 参加者数 30施設 33名
5. 演 題 講演「新人・中途採用者のオリエンテーションについて」
昭和大学病院 技師長 平 沢 政 人
聖路加国際病院 ハウスキーピング課長 内 藤 均
シンポジウム
「臨床検査の外注と医療機関との調和」
蕨市立病院 院長 池 谷 亘
日本衛生検査所協会 会長 山 本 義 教
SRL専務取締役 伏 見 修
順天堂医院 技師長 藤 沢 武 吉
グループ討議「外注検査の見直しについて」
講演「病院経済の行方」
虎の門病院 事務長 黒 田 幸 男

6. 医療紛争防止のためのセミナー

1. 開催月日 昭和58年11月9日(水) 9:30～17:00
10日(木) 9:00～15:10
2. 会場 全社連会館 東京都品川区東五反田2-10-24
3. 参加者数 48施設 63名
4. 演題
 1. 医療紛争雑感
 2. 医療事故解決の方法とその予防
 3. 医療紛争から見た看護の諸問題
 4. 看護上起りやすい医療事故
 5. 事例紹介「ある病院の医療事故」
 6. 救急と蘇生
5. 総評 今回は案内状の発送が遅れ、63名と参加者は少なめであったが、事例紹介「ある病院の医療事故」では、医師、看護婦、患者、家族等の会話の大切さを再認識させられる問題であった。

7. 病院防災セミナー

1. 開催月日 昭和59年9月28日(水) 10:00～17:00
9月29日(木) 9:00～16:35
〔(株)日本病院共済会と共催〕
2. 会場 大東京火災海上保険(株)中央研修所
3. 参加者数 78施設 112名
4. 演題
 1. 病院防災管理を問う
 2. 大規模地震が今おきたら
 3. 災害を経験して思うこと
 4. 病院における夜間管理体制を考える
 5. 病院火災による防火管理者等の民事上・刑事上の責任について
 6. 病院災害を保障する保険と保険料低減策
 7. 病院における大型災害への対応は万全か
 8. その他
5. 総評 前年度同様、大東京火災海上保険(株)中央研修所を会場とし、参加者112名を集め活発な討論会となった。

第14 病院幹部医会

総 会

2月18日(土) 神奈川県・東保園・大東京火災海上保険㈱

1. 昭和59年度事業計画(案)、予算(案)に関する件
2. 役員改選に関する件

常任幹事会

11月16日(木) 日本病院会会議室

1月20日(金) 日本病院会会議室

1. 病院幹部医セミナー開催テーマ、講師等の選定について検討
2. その他

病院幹部医セミナー

1. 開催回数 1回
2. 開催期日 昭和59年2月18日(土)・19日(日)
3. 開催地 神奈川県・東保園・大東京火災海上保険㈱
4. 参加者数 30病院 43名
5. 演 題
 - ① 医師過剰時代を迎えて
 - ② レインボーシステムについて
 - ③ 医師と看護婦の連携について
 - ④ 医療費をめぐる諸情勢

第15 海外視察研究会

1. 第23回 I H F 国際病院学会参加と西欧病院視察研究会（Cコース）
1983年6月24日～7月8日
ローザンヌ～アテネ
コーディネータ、波多野 誠（九段坂病院 外科医長） 団員43名
2. 第5回米国西海岸診療録管理業務（M R L）視察研究会
1983年7月24日～8月2日
ロスアンジェルス～ホノルル
コーディネータ、高橋 政祺（杏林大学医学部教授） 団員7名
3. 中国病院視察研究会と中国・チベット・三峡の旅
1983年8月18日～9月3日
北京～上海
コーディネータ、小野 肇（大口病院 理事長） 団員6名

第16 調 査 室

本年度は、統計調査部会の決定を受け「病院運営実態分析調査」と「診療報酬、薬価基準改定影響率調査」を公私病院連盟と合同で実施。「病院運営実態分析調査」については集計結果を「病院概況調査報告書」として発刊。

「診療報酬、薬価基準改定影響率調査」についても近く集計結果を公表できる予定。

来年度は従来の調査に加え、3年に1度の「病院部門別原価計算調査」を実施の予定。

第17 医療費対策及び病院大会

1. 病院診療報酬適正化推進会議

1. 開催回数 4回（推進委員会 3回・幹事会 1回）
2. 出席者数 41名
3. 協議事項
 1. 国民医療確保のための病院診療報酬適正化に関する要望決議について
 2. 病院大会開催について
 3. 国民医療崩壊阻止全国病院大会の決議事項の実行運動について
 - 1) 国会に対し請願、アンケートの活動について
 - 2) その他
4. 総 評 「国民医療崩壊阻止全国病院大会」を開催し、国会議員へ現在の病院診療報酬、医療保険制度の改革案等につき、アンケート調査を実施した。

2. 四病院団体連絡協議会

- | | | |
|----------|--|-----|
| 4月25日(月) | 総合部会 | 10名 |
| | <ol style="list-style-type: none">1. 承継税制の動きについて2. 医療法の動きについて3. 厚生省と懇談 | |
| 5月9日(月) | 総合部会 | 11名 |
| | <ol style="list-style-type: none">1. 医療法問題について2. 厚生省と懇談 | |
| 5月26日(木) | 総合部会 | 9名 |
| | <ol style="list-style-type: none">1. 医療法（一人法人、承継税制）について2. 診療報酬問題について3. 59年度税制改正要望について4. 相続税アンケートについて5. 厚生省との懇談 | |
| 6月8日(水) | 総合部会、税制・医療法・医療経済委員会 | 27名 |
| | <ol style="list-style-type: none">1. 医療法改正継続審議に伴う今後の対策2. 税制改正等要望事項について3. 建物耐用年数調査(案)について4. 保険医療問題について | |

	5. 厚生省との懇談	
6月16日(木)	総合部会、税制委員会	5名
	1. 59年度税制改正要望事項について	
7月7日(木)	総合部会、医療経済委員会	16名
	1. 診療報酬問題について	
	2. 59年度税制改正要望事項の確認	
	3. 建物耐用年数調査票(厚生省案)の検討	
8月11日(木)	医療経済委員会	13名
	1. 国民医療確保のための病院診療報酬のあり方に関する要請決議の検討	
8月17日(水)	総合部会	6名
	1. 自民党による59年度予算に係る要望意見聴取に関する対応について	
	2. 国民医療確保のための病院診療報酬のあり方に関する要請決議について	
	3. 室料差額について	
9月26日(月)	総合部会	7名
	1. 室料差額に関する要望書について	
	2. 承継税制等における国会陳情について	
	3. レインボーシステムについて	
	4. 相続税に関するアンケートについて	
	5. 事業税(地方税)について	
	6. 建物耐用年数アンケートについて	
	7. 全国病院団体連盟について	
10月20日(木)	総合部会、医療経済委員会	13名
	1. 医療費抑制政策反対について	
	2. 事業税問題について	
	3. 相続税問題について	
	4. 全国病院団体連盟について	
10月20日(木)	医療法委員会	4名
	1. 医療法施行規則の改正問題について	
11月10日(木)	総合部会、医療経済委員会	11名
	1. 相続税、事業税関係の国会対策について	
	2. 病院給食費一部自己負担について	
	3. 基準看護の比率是正について	

	4. 医療財源について	
	5. 医療費支払いの前倒しについて	
	6. 日医への医療費関係要望について	
11月21日(月)	総合部会	7名
	1. 国会対策について	
	2. 税制、医療費の緊急要望について	
	3. 相続税アンケートについて	
	4. 日医に対する要望について	
12月6日(火)	総合部会	8名
	1. 国会・選挙対策について	
12月6日(火)	医療法委員会	18名
	1. 医療法改正に関して厚生省と懇談	
1月5日(木)	税制委員会	3名
	1. 税制改正の動きについて	
1月11日(水)	総合部会、医療法委員会	14名
	1. 医療法施行規則の改正について	
1月11日(水)	総合部会、医療経済委員会	17名
	1. 診療報酬の改訂要求について	
1月25日(水)	総合部会	6名
	1. 59年度税制改正について	
	2. 厚生省との懇談について	
2月7日(火)	医療法委員会(看護小委員会)	9名
	1. 医療法施行規則(特に看護婦数)および基準看護における人員体制について	
2月29日(水)	総合部会、医療法委員会(看護小委員会)	8名
	1. 基準看護について	
	2. パート医師の給与について	
3月14日(水)	総合部会	10名
	1. 日医会長選について	
3月15日(木)	医療経済委員会	10名
	1. 特定承認医療機関について	
	2. パート医師給について	

3. 診療報酬および薬価基準改定結果に関する意見書等について

3月22日(木) 総合部会 6名

1. 日医会長選挙について

3月29日(木) 看護小委員会・総合部会 9名

1. 看護体制の要望事項について

2. 日医会長選挙について

3. その他

2月17日(金) 点数表改正点の解説書(3,510冊)、薬価基準速報版(2,500冊)、会員病院宛無料配布。

4. 病 院 大 会

1. 名 称 国民医療崩壊阻止全国病院大会
2. 開催日時 昭和58年10月6日(木) 13:30～16:00
3. 開催場所 第一生命ホール・東京都千代田区有楽町1-13-1
4. 主 催 病院診療報酬適正化推進会議
5. 来 賓 日本医師会・日本薬剤師会・国会議員等 60名
6. 参加人員 835名
7. 次 第
 - 1) 開 会
 - 2) 開会挨拶
 - 3) 主催者挨拶
 - 4) 協賛団体紹介
 - 5) 来賓紹介
 - 6) 来賓祝辞
 - 7) 祝電披露
 - 8) 議長団選任
 - 9) 協 議
 - (1) 病院診療報酬適正化改定要求書(案)について
 - (2) 医療保険制度改悪阻止について
 - (3) 国民医療崩壊阻止に向けての当面の運動推進要綱(案)について
 - (4) 意見表明
 - (5) 決 議
 - 10) 陳 情
 - 11) 閉 会
8. 陳 情 先 日本医師会・中医協・厚生省・大蔵省
9. 総 評 昨年に引き続き、病院診療報酬適正化推進会議主催のもと「国民医療崩壊阻止全国病院大会」を開催し、病院診療報酬適正化改定要求、医療保険制度改悪阻止等に向けての運動方針を決定した。

第18 第33回日本病院学会

1. 学 会 長 中山 耕作（総合病院聖隷浜松病院院長）

2. テ ー マ 激動する病院の光と影

3. 開催期日 昭和58年9月8日(木)～10日(土)

4. 開催地 静岡県浜松市

5. 会 場 浜松市民会館

6. 演 題
- (1) 学会長講演 1 題 「激動する病院の光と影」
総合病院聖隷浜松病院 院長 中山 耕作
- (2) 特別講演 4 題 「契約と信頼」 評論家 山 本 七 平
「情報社会とこれからの医療」
日本電気株式会社 社長 関 本 忠 弘
「医事紛争瑣談」
福島県立医科大学 客員教授 赤 石 英
「いろいろな女を演じながら」
女優 左 幸 子
- (3) パネルディスカッション 3 題
「地域医療計画をめぐる」
司会 NHK医療番組チーフディレクター 行 天 良 雄
演者 厚生省医務局 前局長 大 谷 藤 郎
静岡県医師会 会長 安 井 志 郎
新千里病院 院長 吉 岡 観 八
高知県立中央病院 院長 近 藤 慶 二
厚生省病院管理研究所 経営管理部長 石 原 信 吾
「ホスピスは日本に定着するか」
司会 筑波大学社会医学系 教授 紀伊國 献 三
演者 医事評論家 水 野 肇

聖隷三方原病院聖隷ホスピス 所長	原 義 雄
淀川キリスト教病院 副院長（ホスピス準備室長）	柏 木 哲 夫
国立がんセンター 副院長	末 舛 恵 一
日本大学医学部 教授	岡 安 大 仁

「これからどうする日本の病院」

司会	高山整形外科病院 院長	高 山 瑩
演者	牧病院 院長	牧 安 孝
	衣笠病院 院長	山 本 敬
	長野県厚生連篠ノ井病院 院長	新 村 明
	虎の門病院 事務部長	黒 田 幸 男
	独協医科大学 教授	下 田 新 一

(4) 特別企画 1 題 「いま国民は病院に何を求めているか」

司会	国立浜松医科大学 学長	吉 利 和
演者	ノンフィクション作家	中 島 み ち
	「たいまつ」紙 主幹	む の たけじ

(5) シンポジウム 1 題 「病院における予防と福祉活動」

司会	長野県厚生連佐久総合病院 健康管理部長	松 島 松 翠
演者	大分市医師会 会長	吉 川 暉
	大分市医師会立アルメイダ病院 院長	
	大和医療福祉センター 所長	黒 岩 卓 夫
	国保町立ゆきぐに大和総合病院 院長	
	東京都立神経病院 医療相談室	川 村 佐和子
	静岡済生会病院 社会事業部長	竹 下 豊
	東京白十字病院 事務長	武 内 昶 篤

(6) アジア病院連盟論文発表会

(7) 一般演題 189 題

7. 参加者 延べ 5,000 名

8. プログラム (別 掲)

第33回 日本病院学会 プログラム

A会場 浜松市民会館1階大ホール
 B会場 浜松市民会館別館3階会議室
 C会場 浜松市民会館別館2階会議室

時間		9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
期日	会場												
第一日 (九月八日(木))	A会場 (1階)	受付	開会式	一般演題 看護の諸問題Ⅰ 1~16			総会	学会長講演 「激動する病院の光と影」 中山研作	パネルディスカッション 「地域医療計画をめぐって」		パネルディスカッション 「ホスピスは日本に定着するか」		学会記念コンサート
	B会場 (3階)			一般演題 病院経営管理 17~32					一般演題 放射線・RⅠ 33~46				
	C会場 (2階)			一般演題 院内教育研修 47~55	同 施設設計・安全・環境 56~62				一般演題 薬剤 63~74	同 診療管理 75~78			
	展示会場						ホスピタルショー		医科器械展示、健康教育・相談・これからの救急医療展、徳川家康展、静岡県工芸品展、日本の郷土展他			浜松市体育館	
第二日 (九月九日(金))	A会場 (1階)	受付	一般演題 看護の諸問題Ⅱ 79~84	パネルディスカッション 「これからどうする日本の病院」			特別講演 「契約と信頼」 山本七平		特別企画 「いま国民は病院に何を求めているか」		シンポジウム 「病院における予防と福祉活動」		医療人の集い (ホテル・コンコルド浜松2階)
	B会場 (3階)	一般演題 臨床検査 85~97		一般演題 その他 98~106									
	C会場 (2階)	一般演題 情報管理・コンピュータ利用 107~118		一般演題 栄養・給食 119~128									
	展示会場	ホスピタルショー					医科器械展示、健康教育・相談、これからの救急医療展、徳川家康展、静岡県工芸品展、日本の郷土展他			浜松市体育館			
第三日 (九月十日(土))	A会場 (1階)	受付	特別講演 「情報社会とこれからの医療」 関本忠弘		特別講演 「医事紛争瑣談」 赤石 英			アジア病院連盟論文発表会		特別講演 「いろいろな女を演じながら」 左 幸子		開会式	
	B会場 (3階)	一般演題 地域医療・救急医療 129~140		一般演題 ハウスキーピング 未来医療への展望 看護の諸問題Ⅲ 141~150			一般演題 看護の諸問題Ⅳ 151~158						
	C会場 (2階)	一般演題 リハビリテーション 159~170		一般演題 老人医療・末期医療 診療報酬 171~177・190			一般演題 予防医学・健康増進 178~189						
	展示会場	ホスピタルショー					医科器械展示、健康教育・相談、これからの救急医療展、徳川家康展、静岡県工芸品展、日本の郷土展他			浜松市体育館			

第19 第24回日本人間ドック学会

1. 学 会 長 吉川 政己 (東京警察病院院長)

2. 開催期日 昭和58年9月2日(金)～3日(土)

3. 開催地 東京都千代田区

4. 会 場 経団連ホール

5. 演 題 (1) 学会長講演 1題 「高齢化社会と人間ドック」

東京警察病院 院長 吉川 政己

(2) 特別講演 1題 「医療行政における健診制度の展望」

厚生省医務局 前局長 大谷 藤郎

(3) シンポジウム 2題

1. 「加齢による臨床検査所見」

司会 東海大学医学部附属病院 院長 五島 雄一郎

① 腎と水電解質 慶応大学 内科 小西 孝之助

② 脂質・リポ蛋白代謝 東海大学 内科 本間 康彦

” ” 玉地 寛光

③ 糖、内分泌代謝

東京都養育院附属病院 内分泌代謝科 井藤 英喜

東京大学 老人科 折茂 肇

④ 造血能および凝血能

東京都老人総合研究所 臨床第二生理 松田 保

⑤ 肝機能および腹部超音波検査 日本大学 第三内科 小野 良樹

” ” 金田 春雄

⑥ 肺機能 東邦大学 第二内科 福島 保喜

2. 「人間ドックの検査項目、判定基準、並びに指導要領の再検討」

司会 三井記念病院 臨床検査科部長 清瀬 闊

東京警察病院 内科部長 鈴木 豊明

- | | | |
|---------------------|---------------------|---------|
| ① 便の潜血反応 | 牧田総合病院 | 平 松 登 |
| | 大手前病院 健康管理センター | 小 畑 大 吉 |
| ② 肝機能検査 | 京都第二赤十字病院 内科 | 小 関 忠 尚 |
| | 東海大学病院 健診センター | 日野原 茂 雄 |
| ③ HDL - C | | |
| | 東実総合健診センター（東京医大 内科） | 伊 藤 健次郎 |
| | 東京警察病院 | 藤 城 芳 枝 |
| ④ 人間ドックにおける超音波診断の応用 | | |
| | 藤間病院 院長 | 藤 間 弘 行 |
| ⑤ 人間ドック成績表のマイコン化 | | |
| | 三井記念病院 中央検査室 | 山 田 輝 雄 |
| ⑥ 特別指定発言 | 牧田総合病院 副院長 | 笹 森 典 雄 |

(4) 一般演題 48題

6. 参加者 350名(登録参加)

7. プログラム (別掲)

第24回日本人間ドック学会日程（経団連ホール）

第1日 9月2日(金)	
9:00	開場 登録受付
9:30	開会の辞
9:40	一般演題 Ⅰ 糖代謝 1~10
11:10	一般演題 Ⅱ 化学検査 11~14 Ⅲ 検査成績 15~18
12:30	評議員会 昼休(60分)
1:30	総会(30分)
2:00	一般演題 Ⅳ 加齢 19~22
2:40	学会長講演 「高齢化社会と人間ドック」
3:20	シンポジウム〔I〕 「加齢による臨床検査所見」
5:50	第1日目 終了

第2日 9月3日(土)	
9:00	開場
9:10	一般演題 Ⅴ 消化器 23~29
10:10	一般演題 Ⅵ 超音波診断 30~33
10:50	一般演題 Ⅶ 血液評価 34~38 Ⅷ データ処理 39~42
12:10	昼休(50分)
1:00	一般演題 Ⅸ 循環器 肺機能 43~48
2:00	特別講演 「医療行政における健診制度の展望」
3:00	シンポジウム〔II〕 (ワーク・ショップ) 「人間ドックの検査項目・判定基準並びに指導要領の再検討」
5:30	閉会の辞

第20 第7回日本診療録管理学会

1. 学 会 長 田中 敏行 (大阪通信病院院長)

2. 期 日 昭和58年10月20日(木)・21日(金)

3. 会 場 大阪府立青少年会館 (大阪市東区)

4. 演 題 (1) 学会長講演

「近畿病歴管理セミナーとともに」 大阪通信病院 院長 田 中 敏 行

(2) 特別講演 2題

「医療・保健の変革と記録」 大阪大学 教授 中 川 米 造

「診療録にみる先人の足跡」 日本医史学会 理事 長門谷 洋 治

(3) シンポジウム 2題

「診療録管理業務の諸問題とその対策」

座長 日本診療録管理士協会 会長 栗 田 静 枝

○記録作成について

杏林大学医学部付属病院 診療録管理士 三 竹 年世子

○医師の記録と卒後教育について

大阪府立病院 診療録管理士 大 津 淑 子

○カルテ整理、保管場所、貸出業務

虎の門病院 診療録管理士 三 浦 葉 子

○退院時サマリーについて

社会保険小倉記念病院 診療録管理士 三 宅 裕 子

○医師記録・看護記録・検査記録

川崎医科大学付属病院 診療録管理士 武 田 好 子

「診療録管理の将来」

座長 新千里病院 院長 吉 岡 観 八

○明日の医療を考える 北里大学 教授 井 上 昌 彦

○患者中心の医療のために 駒沢短期大学 教授 本 間 襄

○記録のあり方 新潟市民病院 内科部長 木 村 明

○資格制度の確立及び保険点数化 宮城県 保健環境部長 高 野 昭

○診療録管理士の将来 杏林大学 教授 高 橋 政 祺

(4) 特別報告

「検査成績の取り扱いとまとめ方」について

大阪府立病院 精神神経科部長 亀田 英明

(5) 指定課題 6題

(6) 一般演題 32題

5. 展示会

(1) 明治の診療録

(2) 昭和の診療録

(3) 診療録の保管管理のための機器類

6. 参加者数 714名

7. プログラム (別掲)

日 程 表

第 1 日 (10月20日 木曜日)	
第 I 会場 (文化ホール)	第 II 会場 (小ホール)
9:05 :15	受 付
10:00 :12	開 会
シンポジウム I 診療録管理業務の 諸問題とその対策 司会 栗田 静枝	
11:42 :45	一般演題 セッション I (1～4)
12:30	一般演題 セッション II (5～8)
昼 食 休 憩	
13:30	学 会 総 会
14:00 :30	学会長講演 田 中 敏 行
指 定 課 題 「検査成績の扱い方」 について 座長 小出 鈴三	
16:00	特別講演 II 診療録にみる先人の 足跡 長門谷 洋治
17:00 :15	郷 土 芸 能

懇 親 会 立 食 パ ー テ ィ ー

第 2 日 (10月21日 金曜日)	
第 I 会場 (文化ホール)	第 II 会場 (小ホール)
9:05 :30	受 付
10:00 :50	一般演題 セッション III(9～10)
10:50	一般演題 セッション VI(21～22)
11:00 :50	一般演題 セッション IV (11～15)
11:50	一般演題 セッション VII (23～27)
12:00 :50	一般演題 セッション V (16～20)
12:50	一般演題 セッション VIII (28～32)
13:00	特 別 報 告 明 亀 田 英 明
昼 食 休 憩	
13:30	特別講演 I 医療・保健の革新 と記録 中川 米造
14:30	シンポジウム II 診療録管理の将来 司会 吉岡 観八
16:00	閉 会

- 注 意
- ◆発表時間
 - ◇一般演題 8分以内
 - ◇指定課題 10分以内
 - ◆スライドは使わない

第21 '83国際モダンホスピタルショウ

- 会 期 : 昭和58年6月17日(金)～19日(日)
- 会 場 : 東京・池袋サンシャインシティ文化会館 2階・4階
- テ ー マ : 明るい病院のびゆく医療
～ 医療の進歩と病院のシステム化を考える ～
- 主 催 : 社団法人 日本病院会
社団法人 日本経営協会
- 後 援 : 厚生省 外務省 通商産業省 消防庁 東京都 日本貿易振興会 日本医師会
社団法人日本看護協会
- 協 賛 : (社)日本電子機械工業会 (財)日本医薬情報センター
(財)日本医療食協会 (財)医療情報システム開発センター
(社)日本病院建築協会 健康保険組合連合会
(社)日本放射線機器工業会 (順不同)
- 開 場 時 間 : 午前10時～午後6時 (最終日のみ午後4時終了)
- 出 品 社 数 : 90社
- 展 示 面 積 : 1,300㎡
- 特別企画事業 : (1) 病院のシステム展示
(2) 病院情報システムへの提案
① 日本の医療情報システムの現在と将来
② 日本の医療情報システムの提案
- 付 帯 事 業 : (1) 病院人のアートギャラリーコーナー
(2) 医療関係図書即売コーナー
- 開 会 挨 拶
およびテープカット : 社団法人日本病院会会長 諸橋 芳夫
'83国際モダンホスピタルショウ
実行委員長 河野 稔
東芝メディカル株式会社
専務取締役 村松 一夫
社団法人日本経営協会理事長 高橋松三郎 (敬称略)
- 入 場 者 数 : 第1日 6月17日(金) 5,210人
第2日 18日(土) 6,990人
第3日 19日(日) 4,570人
合 計 16,770人

国民医療確保のための 病院診療報酬適正化に関する要請決議

現行社会保険診療報酬は、昭和五十六年六月の診療報酬改定史上、かつてないマイナス改定と、さらに、五十八年一月の薬価基準の引下げおよび二月の老人保健法施行にもなう老人医療向け診療報酬の別建設定においても実質的に減収となり、結果的に昭和五十三年二月改定以降五年有半据置かれている。

一方、真剣に地域医療に取り組んでいる病院の多くは、人的サービス面における給与費の上昇および物的サービス面における諸物価の上昇等により経営費用が増大し、年々歳々、経営悪化の方向をたどり、既に崩壊寸前にあるといっても過言ではない。このことは、今回公表された中央社会保険医療協議会が五十六年十月一カ月間の経営収支を対象とした「医療経済実態調査」の法人病院（医療法人・公的病院）の調査結果においても、また、われわれが毎年実施している「病院経営収支調査」および厚生省医務局調査によっても明白にこれを裏付けている。

われわれは医療資源の有効的利用の見地からも病院経営の効率化、合理化に最大の努力を払ってきたが、すでにその限界に達しており、診療報酬の適正化をこのままの状態で放置するならば、国民医療の質的確保に重大な破綻を生ずることを深く憂慮するものである。

しかし一部医療機関における脱税・不正請求については法治国家において容認され得ないところであり、われわれは深く遺憾とし、不徳な医療機関に対して猛省をうながすものである。

われわれは、すでに「病院診療報酬算定原則」を明らかにし、従来から病院部門別原価計算調査を基礎として、原価割れ診療報酬の是正運動を展開してきたが、厚生省当局は医療保険および国庫財政の窮迫を理由としてこの実現を阻んできた。

確かに、わが国の国民医療費は、高度経済成長時代を背景に医学、薬学の急速な進歩と医療技術の高度化、さらに制度の改善等によって高騰の一端をたどったが、現時点においても、なお、先進諸国に比較し、国民総生産対比で最低であり、且つ、医療技術の評価にたいしても国際的水準からは遙かに低い状態である。

よって、われわれは、目下の低成長経済下における資源制約のなかではあるが、戦後営々として築かれてきたわが国の医療福祉を守り、国民医療の質的確保のための病院診療報酬の適正化について、左記の事項を要請するものであり、さらに具体的な診療行為の要求については、目下、作業中であり、引き続き要請するものである。

記

- 一、中医協は「医療経済実態調査」の詳細な資料を国民に公表するとともにこれをもとに直ちに診療報酬適正化の審議を開始すること。
- 二、病院の医師技術料の適正化を図るとともに、医師以外の給与費を含む病院経営原価を補償すること。
- 三、現行の画一的平均的診療報酬を改め、医療機関の類型別原価補償を行うこと。
- 四、医療法の改正にあたって、厚生省における地域医療計画ガイドラインの作成については、われわれの意見を十分聴取するとともに、とくに地域医療計画の策定は都道府県病院協会の意見を十分反映すること。
- 五、医療法人及び個人病院等の医療税制の見直しをおこなうこと。

右、決議する

昭和五十八年七月六日

病院診療報酬適正化推進会議

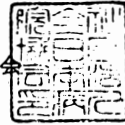
全国公私病院連盟
(社) 日本病院会

昭和 58 年 7 月 7 日

殿

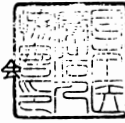
社団法人

全日本病院協会



社団法人

日本医療法人協会



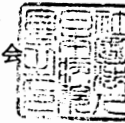
社団法人

日本精神病院協会



社団法人

日本病院会



医療業は、業務の基本的性格から高い公益性を要請されており、また、われわれ医療従事者もこれを自覚し、その社会的使命の達成に努力しております。

医療の原点とも言うべき救急医療又は措置医療に関しても、これに積極的に取組みその責務を果しているのは、民間医療機関であります。

しかしながら、税制面におきましては、一般産業と比較して、その公益的側面に対する配慮が殆どされてなく、また公的医療機関と比較しても、その業務の同質性からみて著しく均衡に欠けるものがあります。

医療業の公益的側面に見合った税制の確立のため、別紙の通り、昭和 59 年度の税制改正要望事項の実現について格別のご配慮の程要望申し上げます。

税制に関する要望書

国 税 関 係

I 所得税、法人税関係

1 剰余金の配当の禁止と業務範囲が制限されている医療法人
について、協同組合等と同様の法人税率を適用すること。
(法人税法第66条第3項)

(理 由)

医療法人は、その法人組織、運営のすべてに亘り、民法第
34条の公益法人のそれを準用している。しかも、剰余金の
配当禁止と業務上附帯業務についての制限等があり、医療事
業の公益的性格と併せて、協同組合等と比較し、その位置づ
けに即応した同率の25%の税率を適用されたい。

2 病院用建物および建物附属設備について、法定耐用年数を
短縮すること。(耐用省令別表第1)

(理 由)

病院の施設基準は患者等の収容に適応した環境条件を要求
している。老朽化した設備については、耐用年数未満でも改

善命令による更新が義務づけられ、国際登録ホテル等と比較
しても、その耐用年数はより短縮されるべきである。

建物鉄筋コンクリート造36年、建物附属設備/2年等登
録ホテル業等の耐用年数と同等以下の年数に短縮されたい。

3 病院、診療所等医療機関の耐火構造を有する建物、構築物
及び防災施設に対する割増償却制度を設けること。

(理 由)

- (1) 火災による災害の多発から、消防・防災査察は一段と強
化され、殊に人体の安全、保護を至上命令とする医療施設
については、建築基準法及び医療法に規定する安全確保の
ための諸設備の実施、履行の徹底が期せられている。
- (2) 規定される諸設備の完全実施はもとより制度の趣旨を生
かし、耐火及び防災施設の改善、促進をはかるためにも、
特例措置が必要である。
- (3) 耐火建築物等、耐火及び防災施設を取得し、事業の用に
供した場合は、以後5年以内の日を含む事業年度について
普通償却限度額の100%の割増償却を認めること。
(昭和49年3月31日限り廃止された措置法48条の耐
火建築物の割増償却の復活)

4 救急医療用等の補助金および謝金による救急用の固定資産を取得した場合は、その取得価格までを限度に補助金および謝金相当額の圧縮記帳による損金算入を認めることとされたい。

(理由)

法人税法第42条ノ項及び施行令79条に規定する国庫補助金等で取得した固定資産等の圧縮記帳は、交付の目的を明示した固定資産の取得に限定されているが、救急医療用等の補助金により、救急用の固定資産等を任意に取得した場合にも、圧縮記帳の適用を認め、助成目的を幅広く活用できるよう要望します。

5 非常勤医師の給与所得源泉徴収額は所得税法第204条の適用を可能にすること。(所得税法第204条第1項)

(理由)

現在は、乙欄適用による高度の累進税率適用になっているため、雇用者の負担は極めて高いものとなっている。必要な法令通達の改正により、報酬又は料金の10%税率適用を可

能にされたい。

6 医師等が休日、夜間診療又は予防接種法による予防接種を実施した場合の協力謝金等の報酬について、特別控除の特例を設けること。

(理由)

救急医療、並びに予防接種の公益性にかんがみ、協力謝金に対する特例措置を講ずることにより、救急医療体制の推進と予防接種の円滑な実施など、地域医療の確保を図る必要がある。

Ⅱ 相続税

1 医療法人の出資持分に対する評価を中小企業の事業承継税制の扱いに準じて改善すること。

(理由)

(1) 医療法人の出資持分の相続税評価は、今回の中小企業の相続税の改正に合せ、類似業種比準方式も選択できることとされたい。

- (2) このため現行の相続税財産評価基本通達 / 96 の適用区分を / 94 に変更されたい。
- (3) 比準すべき業種は、同通達にある業種番号 / 25 のその他の産業とされたい。

2 特定の医療法人に対する財産の贈与又は遺贈があつた場合において、措置法第 40 条の承認を受け、譲渡が無かつたものとされた財産提供については、特定医療法人成立後も受入れ法人に対する法人税を非課税とされたい。

(理 由)

法人設立後の財産の贈与又は遺贈は、基本財産組入れを指定されたもので、これに組入れられたものであつても益金として法人税の課税対象となるのは、提供の趣旨にても不合理である。

/ 医療機関に対する事業税の特例措置、即ち

(1) 医療法人に対する事業税の軽減措置
(地方税法第 72 条の 22)

(2) 社会保険診療報酬にかかる事業税の非課税措置
(同法第 72 条の 14 及び第 72 条の 17)

を現行どおり存続されたい。

(理 由)

従来から医療機関に対する事業税の見なおし論議がありますが

- (1) 公的医療機関に比較し、税負担という差別を余儀なくされている私的医療機関に、更に税負担の加重を強いることは、経営の悪化を招き、医療事業の健全性を損ねることは明らかである。
- (2) 社会保険制度の制限診療の特質や、診療報酬支払基金の性格からみて、これに事業税を課することは妥当でない。
- (3) 収支の悪化から経営危機が叫ばれている私的医療機関の実情無視は、その存在否定にもつながり医療の混乱が懸念される。

2 医療法人が経営する病院、診療所及び看護学校等パラメディカル養成施設において、直接その用に供する固定資産又は不動産について、固定資産税又は、不動産取得税を非課税とされたい。

(理由)

- (1) 現在、公的医療機関の経営する病院、診療所において、直接その用に供する固定資産又は不動産については、固定資産税又は不動産取得税は非課税となっており、また、特定医療法人についても、その設置する医療関係者の養成所において、直接教育の用に供する固定資産又は不動産については、固定資産税又は不動産取得税は非課税とされています。(地方税法第73条の4第1項3号及び同法第348条第2項9号)
- (2) 殊に、特定医療法人は、特に強い公益性を義務づけられた医療法人であり、その要件からみて、公的医療機関と何等変わることはない取り扱いをされてしかるべきものであります。
- (3) 税制上協同組合等に位置づけられている特定医療法人においては、協同組合経営の病院・診療所の不動産取得税及

び固定資産税は非課税となっておりますので、これと同様の措置をとられるよう要望します。(地方税法第73条の4第1項8号及び同法第348条第2項11号の3)

- (4) その他の医療法人についても、社会保険診療機関及び救急医療機関の整備にからめて、全国一律に軽減措置を適用されますよう要望します。

3 救急病院等の救急医療用機器に係る課税標準の特例措置を継続されたい。

(理由)

救急病院等の救急医療用機器の課税標準価額6分の5に関する制度の適用期限を、昭和58年4月1日以降も引き続き延長し、医療設備の近代化とその整備充実の促進をはかるよう要望します。(地方税法附則第15条第4項)

声 明 書

殿

国民医療確保のための病院診療報酬並びに 医療体系のあり方に対する決議

社団法人 全日本病院協会



社団法人 日本医療法人協会



社団法人 日本精神病院協会



社団法人 日本病院会



現行社会保険診療報酬は、昭和56年6月の診療報酬改定史上、かつてないマイナス改定と、さらに、58年1月の薬価基準の引き下げおよび2月の老人保健法施行に伴う老人医療向け診療報酬の別建設定においても実質的に減収となり、結果的に昭和53年2月改定以降5年有半据置かれている。

一方、真剣に地域医療に取り組んでいる病院の多くは、人的サービス面における給与費の上昇および物的サービス面における諸物価の上昇等により経営費用が増大し、年々歳々、経営悪化の方向をたどり、既に崩壊寸前にあると謂って過言ではない。殊に、私的病院の収支は、56年度において25%、57年度においては45%の赤字経営となり倒産件数は毎年増加し、58年度においては4月までに既に倒産件数16件、倒産総額255億円となり最悪の状態にあることは、万人の認めている処である。

更に、本年に引き続き、59年度国家予算はマイナス10%シーリングにおさえられているため、医療費についても更に厳しく抑制するとのことである。

医療が高度化するに従い、又国民の老齢化が急速に進むにつれて、医療費が急上昇するのは当然のことであって、これを経済的理由のみによって大幅に削減するのは、人命を軽視する暴挙と断ぜざるを得ない。

病院四団体は、以上の情勢のもとに、国民の意を体し重大なる決意をもって

次の如く断固要望する。

I 総論的には

1. 保険給付内容の低下、患者自己負担の増加等、弱者いじめの対策を排除されたい。
2. ビタミン剤、総合感冒薬等は医療そのものであるのに医療保険の適用からはずしたり、入院中の食事は医療の一環であるのに患者にその費用の一部負担を求める等は、絶対に反対である。
3. 「医療経済実態調査」の資料を詳細に検討し、病院の医師技術料の適正化を図るとともに、医師以外の給与費を含む病院経営原価を補償すること。
4. 医療法並びに保険法を現行に即して改正すべきである。例えば、現行医師の定員制や基準看護の比率等は、医療費の効率性の見地からも実情に即し早急に改正されたい。
5. 現行の各種医療機関に対する税制は公私医療機関の運営の難易に大きな格差をもたらしている。この際公私医療機関の機会均等をはかるため税制の根本的な改革をはかられたい。
6. 健康保険の赤字は、制限診療で行うべきでなく、各保険者の財政調整で補填すべきである。
7. 労務管理と混同している健保共済保養所等の固定資産や運営費の無駄をなくすこと。
8. 現行の銘柄別薬価収載方式および新薬の薬価決定に関する類似薬効比較方

式は、大手製薬業者に莫大なる利潤を補償するもので早急に改正するべきである。

総医療費に占める薬品費の比重の大なるにかんがみ、早急に統一収載方式による薬価の改定を行い薬品費の節減をはかることによりこれを財源として医療の質的低下を防止すべきである。

9. 医療機関の種別に対応して診療報酬体系の設定をはかることについては、病院、診療所間並びに各種病院間の分断を策するものであって認め難い。

II 各論的には

1. 薬価基準引き下げによる原資は全額、各診療科技術料に振り替えるべきである。
2. 看護の原点である普通看護料の大幅な是正。
3. 入院時医学管理料の大幅な是正を行うとともに期間格差の是正。
4. 給食並びに室料の是正。
5. 調剤料並びに調剤技術基本料の是正。

III 決 意

病院四団体は国民の立場に立って、医療の質的低下を防止すべく前記のことを強く要望する、この要望が満たされない場合においては、国民の意思表示と

しての100万人署名運動を展開するとともに、救急搬入拒否、命令入院、措置入院の拒否等の実力行使を含めたあらゆる手段をもって闘う用意のあることを声明する。

以 上

声 明 書

厚生省は昭和五十九年度予算の概算要求にあたり、事前に十分な論議をつくすことなく、ただ単に財政対策として医療費の国庫負担分をそのまま国民の負担に切り替えた。

即ち、被用者保険の本人給付率を十割から八割に切り下げ、入院時の給食材料費、ビタミン剤、総合感冒薬、健胃剤等を自己負担とし、更に高額医療費の自己負担限度額引き上げ等々の案を公表した。

日本病院会は働く国民に犠牲を強要し、病人たる弱者の生活を脅かすかかる案には断固として反対するものである。

我々は国民生活、国民医療を抑圧する前に各種保険の統合、各保険制度間の財政調整、薬価の適正化等を優先的に行うべきであることを主張し、政府が社会福祉政策を後退させることなく、より前進させることを強く要望するものである。

右 声明する。

昭和五十八年九月七日

社団法人 日本病院

全理事会



国民医療崩壊阻止に関する決議

厚生省は昭和五十九年度予算の編成にあたり国民医療費の抑制を指向して、医療保険制度の改革の方針を明らかにした。

この方針によれば、国民医療と国民皆保険制度は崩壊するところが明白である。

しかも、このような大変革を計画するには、事前に医療関係諸団体と十分な論議をつくして最善の対策を検討しなければならぬにもかかわらず、厚生省は独断で作成し公表したことは国民不在の医療行政と言わざるを得ない。

しかも病院の経営は診療報酬の適正を欠いたため年々悪化の一途をたどりつつあり、その適正化が焦眉の急を要するものとなっている。

言うまでもなく、われわれは不正診療、医の倫理にもとる行為については、自らの力で強力に排除するものであるが、患者負担の増加と、社会保険診療報酬に係わる事業税課税等、医療機関の抑圧をもって制度の改悪をはからんとする医療政策の貧困は、国民医療を破壊し、国民生活の安定をおびやかすものであり、われわれは断固として反対するものである。

よって、国民医療の崩壊を阻止するため、全国の病院は大同団結し、本大会の名において、政府に対し猛省をうながし、左記事項の実現を要求するものである。

記

- 一、政府は、厚生省の発表した医療保険制度の改悪案を撤回すること。
- 一、われわれの策定した病院診療報酬改定要求を直ちに実施すること。

昭和五十八年十月六日

国民医療崩壊阻止全国病院大会

主催団体

病院診療報酬適正化推進会議

社団法人日本病院会

全国公私病院連盟

全国自治体病院協議会

全国公立病院連盟

全国厚生農業協同組合連合会

日本赤十字社病院長連盟

日本私立病院協会

岡山県病院協会

東京病院協会

協賛団体

社会福祉法人恩賜財団済生会

全国済生会病院長会

日本結核病院協会

北海道社会事業協会

北海道私的病院協会

山形県病院協議会

福島県病院協会

栃木県病院協会

神奈川県病院協会

長野県公的病院協議会

新潟県病院協会

静岡県病院協会

山梨県官公立病院協議会

愛知県病院協会

岐阜県病院協会

三重県病院協会

滋賀県病院協会

京都府病院協会

京都私立病院協会

大阪府病院協会

大阪府私立病院協会

奈良県病院協会

和歌山県病院協会

兵庫県病院協会

兵庫県私立病院協会

富山県公的病院長協議会

広島県病院協会

鳥取県病院協会

島根県病院協会

山口県病院協会

愛媛県病院協会

高知県病院協会

福岡県病院協会

横浜市病院協会

川崎市病院協会

日本病院薬剤師会

日本臨床衛生検査技師会

日本理学療法士協会

日本作業療法士協会

日本医療社会事業協会

全国病院理学療法協会

日本放射線技師会

日本栄養士会

(順不同)

昭和 5 8 年 / / 月 / 0 日

医療法人の相続税についての要望書

殿

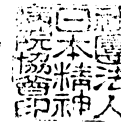
社団法人 全日本病院協会



社団法人 日本医療法人協会



社団法人 日本精神病院協会



社団法人 日本病院会



(五十音順)

医療法人の出資持分に対する相続税評価は純資産価額方式で評価されているため、円滑な医療法人の承継が困難となつている。国民医療の確保、不公平税制是正のため一般中小企業並みの取り扱いで昭和 5 9 年度税制改正に当りご配慮下さいますよう要望申し上げます。

1. 医療法人の出資持分の相続税評価は、今回の中小企業の相続税の改正に合せ、類似業種比準方式も選択できることとされたい。
2. このため現行の相続税財産評価基本通達 / 9 6 の適用区分を / 9 4 に変更されたい。
3. 比準すべき業種は、同通達にある業種番号 / 2 5 のその他の産業とされたい。

昭和58年11月21日

日本医師会

会長 花岡堅而殿

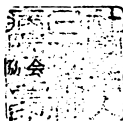
社団法人 全日本病院協会



社団法人 日本医療法人協会



社団法人 日本精神病院協会



社団法人 日本病院会



(五十音順)

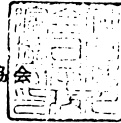
昭和59年度税制改正・医療保険制度の改正及び
医療法改正について、四病院団体の総意により次の
とおり要望いたします。

- 1 昭和59年度税制改正及び医療保険制度の改正
については、別紙により措置されたいこと。
- 2 医療法の改正及びその実施に当っては次の諸点
につき、特に留意されたい。
 - ア 地域医療計画の策定のための地方医療審議
会の構成に当っては、民間医療団体の委員を
過半数とされたいこと。
 - イ 今回の医療法の一部改正案に係る医療法人
に対する監督強化については、その実施に当
り四病院団体の意見を十分に尊重されたいこ
と。
- 3 病院経営の困難な現状に鑑み、医療費の早期是
正を行うとともに、診療報酬の支払いの迅速化に
ついて格段のご努力をお願いしたいこと。

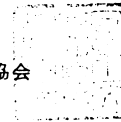
昭和58年11月

殿

社団法人 全日本病院協会



社団法人 日本医療法人協会



社団法人 日本精神病院協会



社団法人 日本病院会



(五十音順)

昭和59年度税制改正及び医療保険制度の改正について、四病院
団体の総意により、次のとおり要望いたします。

I 昭和59年度税制改正事項

(1) 医療法人の相続税について

医療法人の出資持分に対する相続税評価は、純資産価額方式で評価されているため、円滑な医療法人の承継が困難となっている。国民医療の確保、不均衡税制是正のため一般中小企業並みの取り扱いで、昭和59年度税制改正に当り、ご配慮下さいますようお願い申し上げます。

- 1 医療法人の出資持分の相続税評価は、今回の中小企業の相続税の改正に合せ、類似業種比準方式も選択できることとされたい。
- 2 このため現行の相続税財産評価基本通達196の適用区分を194に変更されたい。
- 3 比準すべき業種は、同通達にある業種番号125のその他の産業とされたい。

(2) 社会保険診療報酬に係る事業税の非課税措置について

政府税制調査会の10月17日付答申に、医師に対する税制見なおしの一環として、医療機関に対する地方税の特別措置、即ち、

社会保険診療報酬に係る事業税の非課税措置(同法第72条の14及び第72条の17)の廃止が提起されております。

医療法並びに社会保険診療制度等のあり方に照しても、これに事業税を課税することは、法制上の趣旨に反するものと考えます。

又、現行税制のもとにおいて、公的医療機関に比較し、私的医療機関は税負担という差別を余儀なくされており、更にこれ以上の税負担の加重を強いられることは、私的医療機関に課せられた社会的責務をも果せない結果になることを懸念するものです。

よって医療の公共性、公益的使命と、その中における私的医療機関の果たす役割を自覚し、誠心努力しているわれわれ医療機関の実態をご理解いただき、従来の制度が維持存続されるよう、要望いたします。

Ⅱ 医療保険制度の改正事項

- (1) 入院患者に係る給食費の一部患者負担について
- (2) ビタミン等一部薬剤の保険給付の除外について
- (3) 健康保険本人の医療費の2割患者負担について
- (4) 不当な薬価基準の切り下げについて

昭和59年度政府予算編成に当り、政府は、財政再建の名のもとに、国民の医療及び福祉施策の面で一方的にそのシワ寄せを国民に求めようとしている。

本来国民の健康を守る医療行政は、国の財政措置により左右すべきものであってはならない。

今回の政府案は、国民から医療を奪うものであり、早期検診、早期医療を困難とし、引いては医療費の増大、国民の健康阻害に繋るものと断ぜざるを得ない。

よって、今回の医療保険制度の改正のうち、上記4点の事項については、とくに断固反対である。

税制改正に関する要望書

昭和 5 9 年 1 月

殿

社団法人 全日本病院協会

社団法人 日本医療法人協会

社団法人 日本精神病院協会

社団法人 日本病院会

(五十音順)

政府，自民党税制調査会において審議中の昭和 59 年度税制改正案に対し，われわれ四病院団体はその総意において次の諸点を最重要事項として強く要望いたします。

1. 社団たる医療法人の出資持分の評価方法の改正（医療法人の相続税制）

医療法人の出資持分に対する相続税評価は、純資産価額方式で評価されているため営利会社と比較しても不利な取扱いがなされており、著しく不均衡であるとともに円滑な医業の承継が困難となっているため、これを是正されたい。

2. 社会保険診療報酬に係る事業税の非課税措置の存続（地方税法第72条の14及び17）

医療の公共性に鑑み、医療経営が危機に直面している今日、社会保険診療を円滑に行っていくためには、非課税措置の存続は絶対に必要である。

3. 医療法人に対する事業税の税率の軽減措置の存続（地方税法第72条の22 特別法人扱いの存続）

医療法人は極めて公共性の高い非営利法人であり、営利会社並みの税率とすることは不均衡を生じ、公的医療機関との比較においても差別を増大することとなるのでその存続は絶対に必要である。

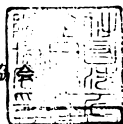
4. 救急医療用機器に対する固定資産税の軽減措置の延長（地方税法附則第15条第14項、3年間 $\frac{5}{6}$ に軽減）

救急医療体制の充実が一層強く求められている現状において、救急医療用機器の整備に当たっての固定資産税課税の軽減措置は、救急医療の公共的使命に鑑み引き続き延長されたい。

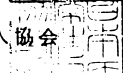
昭和59年3月22日

殿

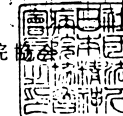
(五十音順)
社団法人 全日本病院協会



社団法人 日本医療法人協会



社団法人 日本精神病院協会



社団法人 日本病院会



謹啓 早春の候 先生には益々ご清祥の段大慶に存じ上げ
ます。

平素は四病院団体の運営につき格別のご指導ご協力をいた
だき感謝申し上げます。

さて先生には、現下の難局を突破する決意をもって、この
度日本医師会長選挙に立候補されることについては敬意を表
するものであります。

当四病院団体としましては、病院経営が近年とみに悪化し
つつある現状に鑑み、今回の日本医師会の役員改選について
は重大な関心を寄せております。

現日本医師会長はじめ役員が現下の社会的に厳しい中で、
税制改正、医療費改訂、医療保険制度の改革等、困難な中に
あつてご努力されたことについては感謝いたしております。

しかし今回の日本医師会長及び役員選挙の後において全医
療人が一致協力してこの難局に対処して行くことが最大の重
要課題であり、そのためなら当四病院団体として協力を惜し
むものではありません。

四病院団体としては、協議の結果その総意により、次の諸
点について強く要望いたします。

1. 病院経営が近年極端に悪化しつつある現状に十分なご
理解をいただき、今後の施策にご配慮を賜りたいこと。
2. 医療費の早期再改正に着手し、病院が健全な運営を
図れる改正に最大のご努力を賜りたいこと。
3. 四病院団体にもご期待に副える適材適所の人材も多く
みられます。つきましては次期日本医師会役員及び厚
生省に設置される中医協委員、医療審議会等委員並び
に日本医師会各種委員会委員について四病院団体より
も起用賜りたいこと。

以上の諸点につきご要望申し上げます。

気候不順の節、先生にはお身体にご留意のうえ、ご健闘下
さいますようお願い申し上げます。

敬 具

顧問・参与

役職名	氏名	所属	〒	連絡先	電
顧問	神崎三益	日本赤十字社常任理事 武蔵野赤十字病院名誉院長	181	東京都三鷹市井口372(自宅)	0422-31-4
〃	東陽一	中伊豆リハビリテーションセンター顧問	412	静岡県御殿場市東田中1705-1(自宅)	0550-2-1
〃	阿久津慎	名鉄病院院長	451 457	愛知県名古屋市区西区松前町3-45 〃 南区霞町78(自宅)	052-551-6 052-811-4
〃	左奈田幸夫	東海大学教授	155	東京都世田谷区代田4-10-16(自宅)	03-328-0
〃	小野田敏郎	佼成病院名誉院長	176	東京都練馬区中村南3-24(自宅)	03-990-9
〃	内藤景岳	総合病院南大阪病院院長	559 558	大阪府大阪市住之江区東加賀屋1-18-18 〃 住吉区帝塚山中1-8-9(自宅)	06-685-0 06-673-4
〃	野村秋守	野村病院院長	181 167	東京都三鷹市下連雀8-3-6 〃 杉並区善福寺2-21-17(自宅)	0422-47-4 03-397-2
〃	遠山豪	遠山病院院長	514 〃	三重県津市新南町17-22 〃 〃 新町1-2-36(自宅)	0592-27-6 0592-28-5
〃	花岡堅而	(社)日本医師会会長	101	東京都千代田区神田駿河台2-5	03-291-2
〃	大浜方栄	参議院議員	100	東京都千代田区永田町2-1-1 参議院議員会館733号室	03-581-3 内5
参与	佐分利輝彦	厚生省病院管理研究所所長	162 154	東京都新宿区戸山町1 〃 世田谷区下馬6-41-7(自宅)	03-203-5 03-418-5
〃	行天良雄	NHK家庭部チーフ・ディレクター	150 240	東京都渋谷区神南2-2-1 神奈川県横浜市保土ヶ谷区桜ヶ丘188 (自宅)	03-465-1 045-331-2
〃	内田卿子	(財)聖路加国際病院総婦長	104 174	東京都中央区明石町10-1 〃 板橋区志村1-34-7-1004(自宅)	03-541-5 03-969-7
〃	大森文子	(社)日本看護協会会長	150	東京都渋谷区神宮前5-8-2	03-400-8

員

職名	都道府県	氏名	病院名	経営主体	〒	所在地	電話
長	千葉県	諸橋 芳夫	国保旭中央病院	市町村 自宅 東京宅	289-25 289-25 153	旭市イの1326 旭市イの1863 東京都目黒区中目黒1-1-17 恵比寿苑 211	04796-3-8111 04796-2-0368 03-711-6604
会長	長野県	若月 俊一	佐久総合病院	厚生連 自宅	384-03 384-03	南佐久郡臼田町大字臼田197 南佐久郡臼田町大字臼田 2,211-2	02678-2-3131 02678-2-2045
〃	東京都	河野 稔	北品川総合病院	公益法人 自宅	140 150	品川区北品川1-23-19 渋谷区南平台4-8 アジアマンション207	03-474-0023 03-463-2455
〃	大阪府	有澤 源蔵	有澤総合病院	医療法人 自宅	573 573	枚方市中宮東之町12-14 枚方市大垣内町1-3-37	0720-47-2606 0720-43-8360
〃	秋田県	竹本 吉夫	秋田赤十字病院	日赤 自宅	010 010	秋田市中通1-4-36 秋田市高陽青柳町14-2	0188-34-3361 0188-24-4484
理事	茨城県	登内 真	土浦協同病院	厚生連 自宅	300 161	土浦市真鍋新町11-7 東京都新宿区下落合3-29-6	0298-23-3111 03-951-1982
〃	茨城県	丹野 清喜	水戸済生会病院	済生会 自宅	310 310	水戸市末広町1-1-8 水戸市見和2-25-10	0292-24-2121 0292-53-0666
〃	埼玉県	池谷 亘	蕨市立病院	市町村 自宅	335 167	蕨市北町2-12-18 東京都杉並区南荻窪1-7-11	0484-32-2277 03-332-0112
〃	千葉県	鈴木 憲輔	八千代中央病院	医療法人 自宅	276 276	八千代市八千代台北6-7 八千代市八千代台北11-20-3	0474-83-1555 0474-82-4732
〃	東京都	高山 瑩	高山整形外科病院	医療法人 自宅	125 271	東京都葛飾区金町3-4-5 千葉県松戸市中矢切488-28	03-607-3260 0473-62-0655
〃	神奈川県	平野 一弥	港北耳鼻咽喉科病院	個人 自宅	222 222	横浜市港北区菊名7-1-11 横浜市港北区菊名7-1-11	045-421-8944 045-421-8946
〃	富山県	西能 正一郎	西能病院	医療法人 自宅	930 930	富山市五福1130 富山市五福2576-8	0764-41-2481 0764-32-3207
〃	静岡県	中山 耕作	総合病院聖隷浜松病院	その他法人 自宅	430 433	浜松市住吉2-12-12 浜松市和合町154	0534-74-2222 0534-73-8737
〃	三重県	岡崎 通	国立津病院	国 自宅	514-11 514	久居市新町1022 津市浜見町770-35	05925-5-3120 0592-25-4030
〃	京都府	岡本 隆一	岡本病院	医療法人 自宅	612 612	京都市伏見区京町9-50 京都市伏見区京町9-36	075-611-1114 075-611-9181
〃	大阪府	二本杉 皎	大阪赤十字病院	日赤 自宅	543 558	大阪市天王寺区筆ヶ崎町5-53 大阪市住吉区帝塚山中2-8-15	06-771-5131 06-671-2306
〃	大阪府	大道 学	大道病院	医療法人 自宅	536 659	大阪市城東区東中浜1-3-17 兵庫県芦屋市三条町23-5	06-967-7111 0797-34-0126
〃	高知県	近藤 慶二	高知県立中央病院	都府県 自宅	780 780	高知市桜井町2-7-33 高知市愛宕山南町4-37	0888-82-1211 0888-75-4220
〃	福岡県	土屋 呂武	済生会福岡総合病院	済生会 自宅	810 810	福岡市中央区天神1-3-46 福岡市博多区中洲5-1-19	092-771-8151 092-291-1253
〃	福岡県	菱山 博文	福岡城南病院	個人 自宅	810 810	福岡市中央区薬院4-6-9 福岡市中央区薬院4-5-9	092-531-7031 092-531-5775

理 事

役職名	都道府県	氏名	病院名	経営主体	〒	所在地	電話番号
理事	北海道	水上 勝太郎	旭川赤十字病院	日赤 自宅	070	旭川市曙1条1丁目	0166-22-81
					070	旭川市神居4条4丁目	0166-62-68
〃	岩手県	金子 保彦	岩手県立中央病院	都府県 自宅	020 020	盛岡市本町通1-1-1 盛岡市天神町13-20	0196-53-11 0196-24-4
〃	山形県	安藤 静男	山形市立病院済生館	市町村 自宅	990 990	山形市七日町1-3-26 山形市あこや町2-14-1	0236-22-52 0236-31-22
〃	福島県	遠藤 良一	白河厚生総合病院	厚生連 自宅	961 961	白河市横町114 白河市昭和町249-3	02482-2-22 02482-2-16
〃	福島県	星 源之助	総合会津中央病院	公益法人 自宅	965 965	会津若松市一箕町大字鶴賀字 船ヶ森東181-1 会津若松市日新町6-17	0242-25-15 0242-27-90
〃	東京都	高橋 政夫 58.8.1退任	大森赤十字病院	日赤 自宅	143 112	大田区中央4-30-11 文京区小石川5-24-21-406	03-775-31 03-811-79
〃	東京都	原 俊夫	公立昭和病院	市町村 自宅	187 1.87	小平市天神町2-450 小平市天神町2-450	0424-61-00 0424-62-86
〃	東京都	北原 哲夫 58.8.1退任	東京通信病院	国その他 自宅	102 156	千代田区富士見2-14-23 世田谷区松原1-15-9	03-238-70 03-328-56
〃	東京都	織本 正慶	織本病院	医療法人 自宅	204 177	清瀬市旭が丘1-261 練馬区東大泉3-38-10	0424-91-21 03-922-12
〃	東京都	深瀬 邦雄	日比谷病院	医療法人 自宅	100 153	千代田区内幸町1-3-2 目黒区上目黒3-31-5	03-502-72 03-713-22
〃	神奈川県	石井 昭郎	相模原協同病院	厚生連 自宅	229 229	相模原市橋本2-8-18 相模原市相武台2-2-18	0427-72-42 0462-51-66
〃	神奈川県	小野 肇	大口病院	医療法人 自宅	221 231	横浜市神奈川区大口通130 横浜市中区石川町2-78	045-401-38 045-641-48
〃	神奈川県	篠崎 功	篠崎病院	個人 自宅	240 240	横浜市保土谷区上星川町391 横浜市保土谷区上星川町391	045-371-00 045-371-00
〃	富山県	村田 勇 58.10.1退任	富山県立中央病院	都府県 自宅	930 930-11	富山市西長江220 富山市今泉30-1 メゾン今泉318	0764-24-15 0764-24-15 内線401
〃	山梨県	清水 八洲雄 58.12.25退任	清水八束病院	個人 自宅	400 400	甲府市中央1-16-2 甲府市中央1-16-2	0552-37-35 0552-37-35
〃	長野県	小口 源一郎	昭和伊南総合病院	市町村 自宅	399-41 399-41	駒ヶ根市赤穂3230 駒ヶ根市赤穂4145	02658-2-21 02658-3-87
〃	岐阜県	松井 永二	大垣市民病院	市町村 自宅	503 503	大垣市南類町4-86 大垣市静里町1259-2	0584-81-33 0584-91-47
〃	岐阜県	藤掛 敏	藤掛第一病院	個人 自宅	500 500	岐阜市一番町1 岐阜市一番町1	0582-65-52 0582-65-52
〃	静岡県	細川 一郎	静岡赤十字病院	日赤 自宅	420 420	静岡市追手町8-2 静岡市大岩本町5-17	0542-54-43 0542-45-32
〃	静岡県	長谷川 豊男 58.6.1退任	静岡市立静岡病院	市町村 自宅	420 420	静岡市追手町10-93 静岡市上足洗3-5-3	0542-53-31 0542-45-95
〃	愛知県	寺田 守	公立陶生病院	市町村 自宅	489 489	瀬戸市西追分町160 瀬戸市南山町3-38	0561-82-51 0561-82-70
〃	愛知県	岡山 義雄	岡山病院	医療法人 自宅	460 461	名古屋市中区栄1-30-1 名古屋市東区泉1-17-3 第2オレンジビル 8F-A	052-221-18 052-951-24

職名	都道府県	氏名	病院名	経営主体	〒	所在地	電話
事	愛知県	太田元次	名古屋掖済会病院	公益法人 自宅	454	名古屋市市中川区松年町4-66	052-652-7711
					454	名古屋市昭和区御器所3-3-12	052-881-0306
"	大阪府	豊島正忠	済生会大阪府中津病院	済生会 自宅	530	大阪市北区芝田2-10-39	06-372-0333
					565	吹田市古江台1-20-10	06-872-0810
"	大阪府	吉岡観八	新千里病院	公益法人 自宅	565	吹田市津雲台1-1-D6	06-871-0121
					545	大阪市阿倍野区北畠3-9-11	06-661-3877
"	大阪府	加納繁美	加納病院	医療法人 自宅	531	大阪市淀川区天神橋7-5-26	06-351-5381
					662	西宮市霞町4-17	0798-36-6000
"	兵庫県	安東三郎	神戸市立西市民病院	市町村 自宅	653	神戸市長田区一番町2-4	078-576-5251
					658	神戸市東灘区本山北町 4-7-59-1306	078-452-7963
"	兵庫県	平野明	共立会病院	医療法人 自宅	675	加古川市米田町平津596	0794-31-0234
					675	加古川市米田町平津629	0794-32-3549
"	兵庫県	北村行彦	優生病院	個人 自宅	660	尼崎市杭瀬大崩1	06-488-1851
					664	伊丹市鈴原町7-49-2	0727-81-1785
"	兵庫県	小原知次郎	小原病院	医療法人 自宅	652	神戸市兵庫区荒田町1-9-19	078-521-1222
					652	神戸市兵庫区荒田町1-11-1	078-531-3849
"	奈良県	南 溢	秋津鴻池病院	医療法人 自宅	639-22	御所市池之内1064	07456-2-2058
					639-22	御所市大字柏原1604	07456-2-2765
"	和歌山県	中村了生	中村病院	医療法人 自宅	640	和歌山市友田町2-28	0734-31-0351
					640	和歌山市新内217	0734-22-5138
"	和歌山県	遠藤香苗	和歌浦中央病院	医療法人 自宅	641	和歌山市塩屋6-2-70	0734-44-1600
					642	海南市日方1188	07348-2-8035
"	島根県	石倉 幌	松江赤十字病院	日 赤 自宅	690	松江市母衣町200	0852-24-2111
					690	松江市灘町40-1	0852-21-3250
"	岡山県	榊原 宏	榊原十全病院	医療法人 自宅	700	岡山市丸の内2-1-10	0862-25-1921
					700	岡山市北方3-7-41-1	0862-22-2084
"	山口県	吉富正一	総合病院山口赤十字病院	日 赤 自宅	753	山口市八幡馬場53-1	0839-23-0111
					753	山口市後河原33	0839-22-0270
"	高知県	岡村一雄	岡村病院	医療法人 自宅	780	高知市入明町1-5	0888-22-5155
					780	高知市大川筋2-7-3	0888-25-2626
"	福岡県	鎌塚登喜郎	福岡赤十字病院	日 赤 自宅	815	福岡市南区大楠3-1-1	092-521-1211
					815	福岡市南区筑紫丘2-18-26	092-541-4401
"	長崎県	岩永光治	十善会病院	その他法人 自宅	850	長崎市籠町7-18	0958-21-1214
					852	長崎市平野町21-9	0958-44-1984
"	熊本県	三浦義一	済生会熊本病院	済生会 自宅	860	熊本市段山本町4-38	0963-54-9163
					862	熊本市水前寺公園27-1	0963-84-0192
事	神奈川県	太田清一	太田総合病院	医療法人 自宅	210	川崎市川崎区駅前本町3-1	044-244-0131
					249	逗子市小坪4-845-15 清風庵	0468-73-3662
"	茨城県	戸川 潔	茨城県立中央病院	都府県 自宅	309-17	西茨城郡友部町鯉淵6528	02967-7-1121
					311-41	水戸市河和田東原149-1	0292-52-6865
議員 会長	滋賀県	財津 晃	長浜赤十字病院	日 赤 自宅	526	長浜市宮前町14-7	07496-3-2111
					526	長浜市宮前町14-35	07496-2-2224
議員 会長	東京都	河井 博	河井病院	個人 自宅	161	新宿区西落合1-27-10	03-951-9116
					170	豊島区駒込1-13-16	03-945-6068

代 議 員

役職名	都道府県	氏名	病院名	経営主体	〒	所在地	電話
代議員	北海道	嘉戸達也	総合病院浦河赤十字病院	日赤	057	浦河郡浦河町東町230	01462-2-511
〃	北海道	野田潔	白石中央病院	医療法人	062	札幌市白石区平和通3丁目北2-3	011-861-817
〃	青森県	末武保政	十和田市立中央病院	市町村	034	十和田市西12番町14-8	01762-3-512
〃	青森県	中村登喜雄	中村外科病院	個人	037	五所川原市宇一ツ谷160	0173-34-331
〃	岩手県	倉光宏	北上済生会病院	済生会	024	北上市花園町1-6-8	0197-64-772
〃	岩手県	栃内巖	栃内整形外科病院	医療法人	020	盛岡市肴町2-28	0196-23-131
〃	宮城県	丹野三男	仙台市立病院	市町村	980	仙台市清水小路3-1	0222-66-711
〃	宮城県	女川浩	仙台赤十字病院	日赤	982	仙台市八木山本町2-43-3	0222-43-111
〃	秋田県	峯木照夫	秋田組合総合病院	厚生連	011	秋田市土崎港中央4-5-14	0188-45-016
〃	秋田県	瀬戸泰士	中通病院	医療法人	010	秋田市南通みその町3-15	0188-33-112
〃	山形県	高橋浩一	長井市立総合病院	市町村	993	長井市宮378	02388-4-216
〃	山形県	篠田秀男	篠田総合病院	医療法人	990	山形市桜町2-68	0230-20-111
〃	福島県	本宿尚	公立藤田総合病院	市町村	969	伊達郡国見町大字塚野目字三本木14	024585-212
〃	福島県	渡辺正光	渡辺内科胃腸科病院	医療法人	960	福島市北町1-40	0245-22-915
〃	茨城県	三宅和夫	県西総合病院	市町村	309	西茨城県岩瀬町大字鍛田604	02967-5-317
〃	茨城県	林茂樹	水戸協同病院	厚生連	310	水戸市宮町3-2-7	0292-31-237
〃	茨城県	会沢孝	大洗海岸病院	医療法人	311	東茨城県大洗町大貫町915	02926-7-219
〃	栃木県	斉藤達郎	大田原赤十字病院	日赤	324	大田原市住吉町2-7-3	02872-3-112
〃	栃木県	松本清一	自治医科大学附属病院	学校法人	329	河内郡南河内町大字薬師寺3311-1	0285-44-211
〃	群馬県	長洋	前橋赤十字病院	日赤	371	前橋市朝日町3-21-36	0272-24-458
〃	群馬県	山崎学	慈光会病院	医療法人	370	高崎市上佐野町786-7	0273-47-117
〃	埼玉県	高木紹夫	深谷赤十字病院	日赤	366	深谷市大字上野台856-1	0485-71-151
〃	埼玉県	井上寿一	上福岡中央病院	個人	356	上福岡市上福岡1-14-7	0492-62-313
〃	千葉県	小林愿之	小見川中央病院	市町村	289	香取郡小見川町南原地新田438	04788-2-316
〃	千葉県	柏戸正英	柏戸病院	医療法人	280	千葉市長州2-21-8	0472-27-836
〃	東京都	丹羽直久	武蔵野赤十字病院	日赤	180	武蔵野市境南町1-26-1	0422-32-311
〃	東京都	川瀬貞臣	社保都南病院	全社連	140	品川区東大井5-8-12	03-474-270
〃	東京都	中川三与三	九段坂病院	共済及連合	102	千代田区九段南2-1-39	03-262-919
〃	東京都	河井博	河井病院	個人	161	新宿区西落合1-27-10	03-951-911
〃	東京都	野村益朗	第一病院	医療法人	125	葛飾区東金町4-2-10	03-607-000
〃	東京都	金地嘉夫	金地病院	個人	114	北区中里1-5-6	03-821-643
〃	東京都	長崎太郎	救世軍ブース記念病院	その他法人	166	杉並区和田1-40-5	03-381-723
〃	神奈川県	藤森一平	川崎市立川崎病院	市町村	210	川崎市川崎区新川通12-1	044-233-552
〃	神奈川県	土屋章	淵野辺病院	医療法人	229	相模原市淵野辺3-2-8	0427-54-222
〃	神奈川県	山本敬	衣笠病院	その他法人	238	横須賀市小矢部2-23-1	0468-52-118
〃	神奈川県	熊田正春	日吉病院	個人	223	横浜市長北区日吉本町1966	044-63-737
〃	新潟県	寺田一郎	水原郷病院	市町村	959	北蒲原郡水原町岡山町13-23	02506-2-278
〃	新潟県	青池卓	信楽園病院	その他法人	950	新潟市西有明町1-27	0252-67-125
〃	富山県	石田礼二	市立富山市民病院	市町村	930	富山市大手町6-16	0764-21-759
〃	富山県	高木弘	高木病院	個人	939	高岡市戸手町3-15-11	0766-63-111

職名	都道府県	氏名	病院名	経営主体	〒	所在地	電話
議員	石川県	道下 忠 藏	石川県立高松病院	都府県	929	河北郡高松町字内高松ヤ36	0762-81-1125
"	石川県	神野 正 一	恵寿総合病院	医療法人	926	七尾市富岡町94	07675-2-3211
"	福井県	向野 栄	福井赤十字病院	日赤	910	福井市月見2-4-1	0776-36-3630
"	福井県	藤沢 正 清	福井県済生会病院	済生会	910	福井市中央2-8-6	0776-23-1111
"	山梨県	飯田 文 良	山梨県立中央病院	都府県	400	甲府市富士見1-1-1	0522-53-7111
"	山梨県	安田 宏	大月市立中央病院	市町村	401	大月市大月町花咲1225	05542-2-1251
"	山梨県	小野 良 藏	小野病院	医療法人	400	甲府市若松町4-7	0552-33-4174
"	長野県	鈴木 辰四郎	長野赤十字病院	日赤	380	長野市北石堂町1177-3	0262-26-4131
"	長野県	関 守	城西病院	医療法人	390	松本市城西1-5-16	0263-33-6400
"	岐阜県	井戸 豊彦	岐阜赤十字病院	日赤	502	岐阜市岩倉町3-36	0582-31-2266
"	岐阜県	木沢 彰	木沢病院	医療法人	505	美濃加茂市古井町下古井2565	05742-5-2181
"	静岡県	59.3.24 就任 三好 秋馬	静岡県立総合病院	都府県	420	静岡市北安東4-27-1	0542-47-6111
"	静岡県	菊池 貞 徳	順天堂伊豆長岡病院	学校法人	410	田方郡伊豆長岡町長岡1129	05594-8-3111
"	愛知県	富永 健 二	名古屋第二赤十字病院	日赤	466	名古屋市昭和区妙見町2-9	052-832-1121
"	愛知県	吉田 孝 夫	半田市立半田病院	市町村	475	半田市東洋町2-29	0569-22-9881
"	愛知県	伊藤 研	総合大雄会病院	医療法人	491	一宮市桜1-9-9	0586-72-1211
"	愛知県	加藤 健	三九朗病院	"	471	豊田市小坂町7-80	0565-32-0282
"	三重県	小山 士 郎	松阪市民病院	市町村	515	松阪市殿町1550	0598-23-1515
"	三重県	田中 矩 夫	田中病院	個人	519	亀山市西丸町539	05958-2-1335
"	滋賀県	財津 晃	長浜赤十字病院	日赤	526	長浜市宮前町14-7	07496-3-2111
"	滋賀県	加藤 明	琵琶湖病院	医療法人	520	大津市坂本本町660	0775-78-2023
"	京都府	塩津 徳 晃	公立南丹病院	市町村	629-01	船井郡八木町大字八木小字上野25	07714-2-2510
"	京都府	中野 進	京都四条病院	医療法人	600	京都市下京区四条堀川下ル	075-361-5471
"	大阪府	田中 敏 行	大阪通信病院	三公社	543	大阪市天王寺区烏ヶ辻2-6-40	06-771-0545
"	大阪府	西田 茂 樹	済生会野江病院	済生会	536	大阪市城東区今福東2-2-33	06-932-0401
"	大阪府	中野 博 光	中野小児病院	医療法人	535	大阪市旭区新森4-13-17	06-952-4771
"	大阪府	牧 安 孝	牧病院	"	535	大阪市旭区清水3-28-17	06-953-0120
"	大阪府	岸 口 繁	府中病院	"	594	和泉市肥子町1-10-17	0725-41-1646
"	兵庫県	岡田 康 男	姫路赤十字病院	日赤	670	姫路市龍野町5-30-1	0792-94-2251
"	兵庫県	依藤 省 三	済生会兵庫県病院	済生会	651	神戸市中央区日暮通5-5-17	078-251-8558
"	兵庫県	安田 俊 吉	広野高原病院	医療法人	673-02	神戸市西区北山台3-1-1	078-994-1155
"	兵庫県	元原 利 武	明舞中央病院	"	673	明石市松が丘4-1-32	078-917-2020
"	兵庫県	多胡 檣 祐	城南多胡病院	"	670	姫路市本町15	0792-25-2211
"	奈良県	久米 道 雄	済生会奈良病院	済生会	630	奈良市杉ヶ町24	0742-22-6881
"	奈良県	沢井 陽 一	沢井病院	公益法人	630	奈良市船橋町8	0742-23-3086
"	和歌山県	内藤 行 雄	和歌山赤十字病院	日赤	640	和歌山市小松原通り4-1	0734-22-4171
"	和歌山県	瀬藤 光 仁	瀬藤病院	医療法人	640	和歌山市岡山丁9	0734-24-3181
"	和歌山県	月山 和 男	月山病院	個人	640	和歌山市小松原通り1-3	0734-23-2300

役職名	都道府県	氏名	病院名	経営主体	〒	所在地	電話番号
代議員	鳥取県	岩宮 緑	済生会境港病院	済生会	684	境港市米川町44	08594-2-31
〃	鳥取県	野島 鉄之助	野島病院	医療法人	682	倉吉市瀬崎町2714-1	08582-2-62
〃	島根県	杉浦 純 宦	島根県立中央病院	都府県	693	出雲市今市町116	0853-22-51
〃	島根県	森本 正 紀	森本産婦人科病院	個人	690	松江市雑賀本町82	0852-25-22
〃	岡山県	秋本 若 二	岡山赤十字病院	日 赤	700	岡山市丸の内1-6-20	0862-22-88
〃	岡山県	宮本 祥 郎	津山中央病院	公益法人	708	津山市二階町67	08682-2-61
〃	岡山県	木田 恵 三	新見中央病院	医療法人	718	新見市新見827-1	08677-2-21
〃	広島県	佐々木 甲子郎	社保広島市民病院	市町村	730	広島市中区基町7-33	082-221-22
〃	広島県	岡田 泰 二	岡田病院	個人	734	広島市南区字品町26-19	0822-55-39
〃	山口県	西村 静 一	社保下関厚生病院	全社連	750	下関市上新地町3-3-8	0832-31-58
〃	山口県	村田 寿太郎	村田博愛病院	医療法人	747	防府市三田尻1-1-24	0835-22-23
〃	徳島県	中西 修	中西病院	〃	770	徳島市中通町1-29	0886-26-38
〃	香川県	妹尾 利 夫	高松病院	共済及連合	760	高松市天神前4-18	0878-61-32
〃	香川県	藤原 憲 和	総合病院回生病院	医療法人	762	坂出市室町3-5-28	08774-6-10
〃	愛媛県	土屋 定 敏	松山赤十字病院	日 赤	790	松山市文京町1	0899-24-11
〃	愛媛県	宮田 信 熙	松山市民病院	公益法人	790	松山市大手町2-6-5	0899-43-11
〃	高知県	山本 彰 芳	高知市立市民病院	市町村	780	高知市丸ノ内1-7-45	0888-22-61
〃	高知県	田中 稔 正	田中整形外科病院	医療法人	780	高知市上町3-2-6	0888-22-76
〃	福岡県	兵働 貞 夫	浜の町病院	共済及連合	810	福岡市中央区舞鶴3-5-27	092-721-08
〃	福岡県	原 安 彦	香椎原病院	医療法人	813	福岡市東区香椎3-3-1	092-662-13
〃	福岡県	井手 一 郎	聖マリア病院	〃	830	久留米市津福本町422	0942-35-33
〃	福岡県	吉川 東 陽	吉川病院	個人	810	福岡市中央区平尾2-13-24	092-521-05
〃	佐賀県	鶴丸 廣 長	佐賀県立病院好生館	都府県	840	佐賀市水ヶ江1-12-9	0952-24-21
〃	佐賀県	山口 弾 之	至誠会病院	医療法人	840	佐賀市田代2-7-24	0952-24-53
〃	長崎県	藤田 長 利	日本赤十字社長崎原爆病院	日 赤	852	長崎市茂里町3-15	0958-26-42
〃	長崎県	福井 順	福井病院	医療法人	851	長崎市深堀町1-11-54	0958-71-15
〃	熊本県	松金 秀 暢	熊本赤十字病院	日 赤	862	熊本市長嶺町225-209	0963-84-21
〃	熊本県	金澤 幸 一	青磁野病院	医療法人	860	熊本市島崎2-22-15	0963-54-17
〃	大分県	岡村 幹 雄	大分赤十字病院	日 赤	870	大分市千代町3-2-37	0975-32-61
〃	宮崎県	船渡 護	宮崎県立延岡病院	都府県	882	延岡市新小路2-1-10	0982-32-61
〃	鹿児島県	上高原 勝 美	鹿児島市立病院	市町村	892	鹿児島市加治屋町20-17	0992-24-21
〃	沖縄県	比 嘉 實	沖縄赤十字病院	日 赤	900	那覇市古波蔵113	0988-53-31

社団法人 日本病院会委員会委員名簿

1. 医療制度委員会

丹野清喜	委員長	水戸済生会病院	茨城県	0292-24-2121
小野肇	副委員長	大口病院	神奈川県	045-401-3861
小西宏	副委員長	済生会神奈川県支部	神奈川県	045-662-4721
左奈田幸夫	委員	病院システム開発研究所	東京都	03-328-0830
井上昌彦	委員	北里大学	東京都	03-444-6161
尾崎恭輔	委員	東海大学	神奈川県	0463-93-1121
大野松次	委員	京浜総合病院	東京都	044-777-3251
佐分利輝彦	委員	厚生省病院管理研究所	東京都	03-203-5327
紀伊国献三	委員	筑波大学	茨城県	0298-53-2111
行天良雄	委員	日本放送協会	東京都	03-465-1111
荒井蝶子	委員	聖路加看護大学	東京都	03-543-6391
大森文子	委員	日本看護協会	東京都	03-400-8331
原俊夫	委員	公立昭和病院	東京都	0424-61-0052

2. 病院管理運営委員会

若月俊一	委員長	佐久総合病院	長野県	02678-2-3131
岡本隆一	副委員長	岡本病院	京都府	075-611-1114
大道学	委員	大道病院	大阪府	06-967-7111
土屋呂武	委員	済生会福岡総合病院	福岡県	092-771-8151
菱山博文	委員	福岡城南病院	福岡県	092-531-7031
小原知次郎	委員	小原病院	兵庫県	078-521-1222
寺田一郎	委員	水原郷病院	新潟県	02506-2-2780
野辺地篤郎	委員	聖路加国際病院	東京都	03-541-5151

①統計調査部会

大道学	部会長	大道病院	大阪府	06-967-7111
三宅浩之	委員	関東逋信病院	東京都	03-448-6537

牧 安 孝	委 員	牧 病 院	大 阪 府	06 - 953-0120
関 田 康 慶	委 員	東 北 大 学	宮 城 県	0222-74-1111
清 水 八洲雄	委 員	清 水 八 束 病 院	山 梨 県	0552-37-3541
遠 藤 香 苗	委 員	和 歌 浦 中 央 病 院	和 歌 山 県	0734-44-1600
飯 田 信 吾	委 員	北 品 川 総 合 病 院	東 京 都	03 - 474-5861

②勤務医対策部会

土 屋 呂 武	部 会 長	濟 生 会 福 岡 総 合 病 院	福 岡 県	092-771-8151
野 辺 地 篤 郎	委 員	聖 路 加 国 際 病 院	東 京 都	03 - 541-5151
安 東 三 郎	委 員	神 戸 市 立 西 市 民 病 院	兵 庫 県	078-576-5251
榊 原 宏	委 員	榊 原 十 全 病 院	岡 山 県	0862-25-1921
石 井 昭 郎	委 員	相 模 原 協 同 病 院	神 奈 川 県	0427-72-4291
鍬 塚 登 喜 郎	委 員	福 岡 赤 十 字 病 院	福 岡 県	092-521-1211
牧 野 永 城	委 員	聖 路 加 国 際 病 院	東 京 都	03 - 541-5151

③医療事故対策部会

菱 山 博 文	部 会 長	福 岡 城 南 病 院	福 岡 県	092-531-7031
藤 森 暢 路	委 員	藤 森 病 院	兵 庫 県	0792-24-1357
勝 守 昭 雄	委 員	北 品 川 総 合 病 院	東 京 都	03 - 474-5861
遠 藤 良 一	委 員	白 河 厚 生 総 合 病 院	福 島 県	02482-2-2211
細 田 健 二	委 員	関 川 総 合 病 院	東 京 都	03 - 803-5151
前 田 マスヨ	委 員	東 海 大 学 病 院	神 奈 川 県	0463-93-1121

④防災対策部会

小 原 知 次 郎	部 会 長	小 原 病 院	兵 庫 県	078-521-1222
上 林 三 郎	委 員	聖 路 加 国 際 病 院	東 京 都	03 - 541-5151
倉 持 一 雄	委 員	自 治 医 科 大 学	栃 木 県	02854-4-2111
松 井 永 二	委 員	大 垣 市 民 病 院	岐 阜 県	0584-81-3341
入 山 和 太 次	委 員	武 蔵 野 赤 十 字 病 院	東 京 都	0422-32-3111

淵 沢 みさえ	委 員	牧 田 総 合 病 院	東 京 都	03 - 762-4671
植 田 義 雄	(協力委員)	恵 寿 総 合 病 院	石 川 県	07675-2-3211

⑤ 労務・福利厚生・物品部会

岡 本 隆 一	部 会 長	岡 本 病 院	京 都 府	075-611-1114
加 納 繁 美	副 部 会 長	総 合 加 納 病 院	大 阪 府	06 - 351-5381
中 野 進	委 員	京 都 四 条 病 院	京 都 府	075-361-5471
本 宿 尚	委 員	公 立 藤 田 総 合 病 院	福 島 県	024585 - 2121
星 源之助	委 員	総 合 会 津 中 央 病 院	福 島 県	0242-25-1515
石 橋 秀 雄	委 員	目 蒲 病 院	東 京 都	03 - 759-8885
石 山 稔	委 員	聖 路 加 国 際 病 院	東 京 都	03- 541-5151
緒 方 廣 市	委 員	武 蔵 野 赤 十 字 病 院	東 京 都	0422-32-3111

3. 教 育 委 員 会

竹 本 吉 夫	委 員 長	秋 田 赤 十 字 病 院	秋 田 県	0188-34-3361
登 内 真	副 委 員 長	土 浦 協 同 病 院	茨 城 県	0298-23-3111
三 宅 史 郎	委 員	日 本 大 学	東 京 都	03 - 972-8111
川 北 祐 幸	委 員	順 天 堂 医 院	東 京 都	03 - 813-3111
石 橋 秀 雄	委 員	目 蒲 病 院	東 京 都	03 - 759-8885
太 田 元 次	委 員	名 古 屋 掖 济 会 病 院	愛 知 県	052-652-7711
中 村 了 生	委 員	中 村 病 院	和 歌 山 県	0734 31-0351
三 宅 浩 之	委 員	関 東 通 信 病 院	東 京 都	03 - 448-6537
井 上 幸 子	委 員	日 本 看 護 協 会	東 京 都	03 - 400-8331
内 田 卿 子	委 員	聖 路 加 国 際 病 院	東 京 都	03 - 541-5151
米 田 啓 二	委 員	全 国 自 治 体 病 院 協 議 会	東 京 都	03 - 261-8555
黒 田 幸 男	委 員	虎 の 門 病 院	東 京 都	03 - 583-6871

4. 通信教育委員会

高橋政祺	委員長	杏林大学医学部	東京都	0422-47-5511
田中敏行	副委員長	大阪通信病院	大阪府	06-771-0545
犬塚貞光	委員	福岡大学病院	福岡県	092-801-1011
大町文子	委員	元日本バプテスト病院	京都府	(自宅) 075-701-8016
落合勝一郎	委員	東京文化学園	東京都	03-381-0196
笠井良一	委員	元日本バプテスト病院	京都府	(自宅) 075-451-7035
栗田静枝	委員	元聖路加国際病院	東京都	(自宅) 03-402-5613
酒井隆子	委員	京都市立病院	京都府	075-311-5311
竹村喬	委員	大阪府立 母子保健総合医療センター	大阪府	0725-56-1220
一条勝夫	委員	自治医科大学	栃木県	02854-4-2111

5. 医療経済委員会

有澤源蔵	委員長	有澤総合病院	大阪府	0720-47-2606
鈴木憲輔	副委員長	八千代中央病院	千葉県	0474-83-1555
深瀬邦雄	委員	日比谷病院	東京都	03-502-7231
森久雄 (58.12.7.死去)	委員	森会計事務所	東京都	03-970-2127
岩井宏方	委員	岩井総合病院	東京都	03-658-2111
酒泉春雄	委員	河北総合病院	東京都	03-339-2121
伊藤寛	委員	伊藤会計事務所	愛知県	052-541-0166
蘭部雅一	委員	兵庫医科大学	兵庫県	0798-45-6500
余語栄三	委員	余語病院	愛知県	052-851-6255

6. 国際委員会

吉岡観八	委員長	新千里病院	大阪府	06-871-0121
紀伊国献三	副委員長	筑波大学	茨城県	0298-53-2111
高橋勝三	委員	武蔵野赤十字病院	東京都	0422-32-3111

関 武 矩	委 員	聖路加国際病院	東 京 都	03 - 541-5151
久 保 文 苗	委 員	日本医薬情報センター	東 京 都	03 - 406-1811
三 宅 浩 之	委 員	関 東 通 信 病 院	東 京 都	03 - 448-6537
高 橋 政 祺	委 員	杏 林 大 学	東 京 都	0422-47-5511
波多野 誠	委 員	九 段 坂 病 院	東 京 都	03 - 262-9191
国 重 信 彦	委 員	佼 成 病 院	東 京 都	03 - 383-1281
左奈田 幸夫	委 員	病院システム開発研究所	東 京 都	03-328-0830
遠 山 豪	委 員	遠 山 病 院	三 重 県	0592-27-6171
長 澤 泰	委 員	厚生省病院管理研究所	東 京 都	03-203-5327

7. 臨床予防医学委員会

二本杉 皎	委員長	大阪赤十字病院	大 阪 府	06 - 771-5131
鈴木 豊明	副委員長	東京警察病院	東 京 都	03 - 263-1371
藤 間 弘 行	副委員長	藤 間 病 院	埼 玉 県	0485-22-0600
安藤 幸夫	委 員	聖路加国際病院	東 京 都	03 - 541-5151
飯 田 晶	委 員	東 芝 中 央 病 院	東 京 都	03 - 764-0511
宇 津 典 彦	委 員	久留米大学病院	福 岡 県	0942-35-3311
榎 本 敏 雄	委 員	静岡厚生病院	静 岡 県	0542-71-7177
小 関 忠 尚	委 員	京都第二赤十字病院	京 都 府	075-231-5171
金 沢 鉄 男	委 員	青森県立中央病院	青 森 県	0177-26-8302
清 瀬 闊	委 員	三 井 記 念 病 院	東 京 都	03 - 862-9111
笹 森 典 雄	委 員	牧 田 総 合 病 院	東 京 都	03 - 762-4671
高 橋 春 雄	委 員	愛知県総合保健センター	愛 知 県	052-962-5371
田 中 剛 二	委 員	東京都済生会中央病院	東 京 都	03 - 451-8211
丹 野 三 男	委 員	仙台市立病院	宮 城 県	0222-25-7111
寺 田 由紀夫	委 員	大阪赤十字病院	大 阪 府	06 - 771-5131
日野原 重明	委 員	聖路加看護大学	東 京 都	03 - 543-6391
松 岡 研	委 員	P L 病 院	大 阪 府	07212-4-3100
三 木 徹	委 員	丸 山 病 院	兵 庫 県	078-642-1031

8. 社会保険委員会

北村行彦	委員長	優生病院	兵庫県	06-488-1851
近藤慶二	副委員長	高知県立中央病院	高知県	0888-82-1211
篠崎功	委員	篠崎病院	神奈川県	045-371-0038
元原利武	委員	明舞中央病院	兵庫県	078-917-2020
牧安孝	委員	牧病院	大阪府	06-953-0120
高橋政夫	委員	日本赤十字社	東京都	03-438-1311
小笠原道夫	委員	河北総合病院	東京都	03-339-2121
一条勝夫	委員	自治医科大学	栃木県	02854-4-2111
中橋彌光	委員	西陣病院	京都府	075-461-8800
三上晃	委員	三井記念病院	東京都	(和泉クリニック) 03-866-8432

9. 組織委員会

岡山義雄	委員長	岡山病院	愛知県	052-221-1851
池谷亘	委員	蕨市立病院	埼玉県	0484-32-2277
財津晃	委員	長浜赤十字病院	滋賀県	07496-3-2111
小野肇	委員	大口病院	神奈川県	045-401-3861
加納繁美	委員	総合加納病院	大阪府	06-351-5381
榊原宏	委員	榊原十全病院	岡山県	0862-25-1921
岩永光治	委員	十善会病院	長崎県	0958-21-1214
深瀬邦雄	委員	日比谷病院	東京都	03-502-7231
北村行彦	委員	優生病院	兵庫県	06-488-1851
星源之助	委員	総合会津中央病院	福島県	0242-25-1515
高山瑩	委員	高山整形外科病院	東京都	03-607-3260
篠崎功	委員	篠崎病院	神奈川県	045-371-0038
平野明	委員	共立会病院	兵庫県	0794-31-0234

10. 学 術 委 員 会

岡崎通	委員長	国立津病院	三重県	05925-5-3120
中山耕作	副委員長	聖隷浜松病院	静岡県	0534-74-2222
北原哲夫	委員	東京逦信病院	東京都	(自宅) 03-328-5610
一条勝夫	委員	自治医科大学	栃木県	02854-4-2111
高橋政祺	委員	杏林大学	東京都	0422-47-5511
三宅史郎	委員	日本大学	東京都	03-972-8111
三宅浩之	委員	関東逦信病院	東京都	03-448-6537
山本修	委員	都立看護専門学校	東京都	(自宅) 03-941-9321
鎌田利雄	委員	北品川総合病院	東京都	03-474-7730
渡辺進	相談役	成田赤十字病院	千葉県	0476-22-2311

①学術図書企画委員会

中山耕作	委員長	聖隷浜松病院	静岡県	0534-74-2222
一条勝夫	副委員長	自治医科大学	栃木県	02854-4-2111

②雑誌編集委員会

北原哲夫	委員長	東京逦信病院	東京都	(自宅) 03-328-5610
一条勝夫	副委員長	自治医科大学	栃木県	02854-4-2111

11. 広 報 委 員 会

高山瑩	委員長	高山整形外科病院	東京都	03-607-3260
西能正一郎	副委員長	西能病院	富山県	0764-41-2481
岸口繁	委員	府中病院	大阪府	0725-41-1646
平野井直英	委員	東芝中央病院	東京都	03-764-0511
浅見信子	委員	蒲田総合病院	東京都	03-738-8221
宇井美代子	委員	聖路加国際病院	東京都	03-541-5151
木村千枝子	委員	東京日立病院	東京都	03-831-2181

後藤	清	委員	駿河台日本大学病院	東京都	03 - 293-1711
平	和夫	委員	東京都済生会中央病院	東京都	03 - 451-8211
三上	晃	委員	三井記念病院	東京都	(和泉クリニック) 03 - 866-8432
三竹	年世子	委員	杏林大学医学部附属病院	東京都	0422-47-5511
行天	良雄	参与	日本放送協会	東京都	03 - 465-1111

12. 諸規定検討委員会

池谷	亘	委員長	蕨市立病院	埼玉県	0484-32-2277
大道	学	副委員長	大道病院	大阪府	06 - 967-7111
大野	松次	委員	京浜総合病院	神奈川県	044-777-3251
高山	瑩	委員	高山整形外科病院	東京都	03 - 607-3260
登内	真	委員	土浦協同病院	茨城県	0298-23-3111
寺田	守	委員	公立陶生病院	愛知県	0561-82-5101
河井	博	委員	河井病院	東京都	03 - 951-9116
高橋	彦太郎	委員	日本病院会	東京都	03 - 265-0077

〔特別委員会〕

1. 病院情報センター運営委員会

三宅浩之	委員長	関東通信病院	東京都	03-448-6537
青木禧和	委員	元神奈川県総合 リハビリテーションセンター	神奈川県	
飯田信吾	委員	北品川総合病院	東京都	03-474-0023
池田博	委員	慈恵医大付属病院	東京都	03-433-1111
一条勝夫	委員	自治医科大学	栃木県	02854-4-2111
岡田行雄	委員	日本電信電話公社 データ通信本部	東京都	03-509-4529
里村洋一	委員	千葉大付属病院	千葉県	0472-22-7171
土井義行	委員	舞子台病院	兵庫県	078-782-0055
日西義之	委員	大阪回生病院	大阪府	06-371-6234

2. 国際モダンホスピタルショウ

河野稔	担当副会長	北品川総合病院	東京都	03-474-5861
竹本吉夫	実行委員会	秋田赤十字病院	秋田県	0188-34-3361
三宅浩之	企画委員会	関東通信病院	東京都	03-448-6537

3. 33周年記念事業企画委員会

諸橋芳夫	委員長	国保旭中央病院	千葉県	04796-3-8111
若月俊一	委員	佐久総合病院	長野県	02678-2-3131
河野稔	委員	北品川総合病院	東京都	03-474-0023
有澤源蔵	委員	有澤総合病院	大阪府	0720-47-2606
竹本吉夫	委員	秋田赤十字病院	秋田県	0188-34-3361
高橋彦太郎	委員	日本病院会	東京都	03-265-0077

4. 33周年記念式典運営委員会

平野一弥	委員長	港北耳鼻咽喉科病院	神奈川県	045-421-8944
篠崎功	委員	篠崎病院	神奈川県	045-371-0038
財津晃	委員	長浜赤十字病院	滋賀県	07496-3-2111
河井博	委員	河井病院	東京都	03-951-9116
大城三郎	委員	日本病院共済会	東京都	03-264-3180
高橋彦太郎	委員	日本病院会	東京都	03-265-0077

5. 30年史記念誌編集委員会

小野田敏郎	委員長	日本病院会顧問	東京都	(自宅) 03-990-9589
内藤景岳	委員	日本病院会顧問	大阪府	(病院) 06-685-0221
渡辺進	委員	成田赤十字病院	千葉県	0476-22-2311
吉岡観八	委員	新千里病院	大阪府	06-871-0121
遠山豪	委員	日本病院会顧問	三重県	(病院) 0592-27-6171
北原哲夫	委員	東京逋信病院	東京都	03-238-7111
高橋政祺	委員	杏林大学	東京都	0422-47-5511
落合勝一郎	委員	東京文化学園	東京都	03-381-0230
大城三郎	委員	日本病院共済会	東京都	03-264-3180
高橋彦太郎	委員	日本病院会	東京都	03-265-0077
西山君枝	委員	日本看護学校協議会	東京都	(自宅) 0424-85-9202

〔他団体との連携委員〕

1. 病院診療報酬適正化推進会議

諸橋 芳夫	代表委員	国保旭中央病院	千葉県	04796-3-8111
有澤 源蔵	委員	有澤総合病院	大阪府	0720-47-2606
竹本 吉夫	委員	秋田赤十字病院	秋田県	0188-34-3361
登内 真	委員	土浦協同病院	茨城県	0298-23-3111
小笠原 道夫	委員	河北総合病院	東京都	03 339-2121
三宅 浩之	委員	関東通信病院	東京都	03 - 448-6537

2. 四病院団体連絡協議会

総合部会

河野 稔	委員	北品川総合病院	東京都	03 - 474-5861
有澤 源蔵	委員	有澤総合病院	大阪府	0720-47-2606

税制委員会

有澤 源蔵	委員	有澤総合病院	大阪府	0720-47-2606
森 久雄 (58. 12. 7. 死去)	委員	森会計事務所	東京都	03 - 970-2127

医療法委員会

池谷 亘	委員	蕨市立病院	埼玉県	0484-32-2277
大道 学	委員	大道病院	大阪府	06 - 967-7111
岡山 義雄	委員	岡山病院	愛知県	052-221-1851
藤掛 敏	委員	藤掛第一病院	岐阜県	0582-65-5255

医療経済委員会

岡本隆一	委員	岡本病院	京都府	075-611-1114
鈴木憲輔	委員	八千代中央病院	千葉県	0474-83-1555
北村行彦	委員	優生病院	兵庫県	06-488-1851

会 員 状 況

昭和59年3月31日現在

都道府県名	会 員 数	都道府県名	会 員 数	都道府県名	会 員 数
北 海 道	39	新 潟	50	鳥 取	9
青 森	14	静 岡	51	島 根	10
岩 手	11	愛 知	120	山 口	23
秋 田	26	岐 阜	24	香 川	10
山 形	10	三 重	32	徳 島	4
宮 城	15	滋 賀	21	高 知	25
福 島	28	京 都	51	愛 媛	23
栃 木	12	大 阪	161	福 岡	64
茨 城	31	奈 良	32	佐 賀	5
群 馬	23	和 歌 山	67	長 崎	37
埼 玉	42	兵 庫	155	熊 本	15
千 葉	66	富 山	16	大 分	7
神 奈 川	89	石 川	12	宮 崎	8
東 京	236	福 井	8	鹿 児 島	8
山 梨	33	岡 山	77	沖 縄	6
長 野	17	広 島	37	合 計	1,860

	昭和58年4月1日	昭和59年3月31日	増 減
正 会 員	1,760	1,860	+100
賛 助 会 員 A	145	151	+ 6
B	119	131	+ 12
C	14	10	- 4
D	107	108	+ 1
計	2,145	2,260	+115

昭和58年度収支計算総括表

昭和58年4月1日から
昭和59年3月31日まで

社団法人 日本病院会

1. 収入の部

単位：円

科 目	合 計	一 般 会 計	基本財産特別会計	退職手当積立金	I H F 国際交流基金
1. 会 費 収 入	187,761,000	187,761,000	0	0	0
2. 事 業 収 入	92,365,635	77,859,935	0	0	14,505,700
3. 寄 附 金 収 入	21,289,140	21,289,140	0	0	0
4. 雑 収 入	35,894,548	33,465,265	1,202,303	956,666	270,314
5. 他会計より繰入	14,000,000	0	0	7,500,000	6,500,000
前期繰越収支差額	51,732,075	16,123,485	17,307,059	15,728,726	2,572,805
収入額合計	403,042,398	336,498,825	18,509,362	24,185,392	23,848,819

2. 支出の部

科 目	合 計	一 般 会 計	基本財産特別会計	退職手当積立金	I H F 国際交流基金
1. 事 務 諸 費	142,794,215	142,736,615			57,600
2. 会 議 費	21,443,717	21,443,717			0
3. 事 業 費	142,903,119	128,578,450			14,324,669
4. 負 担 金	1,013,375	1,013,375			0
5. 他会計へ繰入	14,000,000	14,000,000			0
支出額合計	322,154,426	307,772,157	0	0	14,382,269
次期繰越収支差額	80,887,972	28,726,668	18,509,362	24,185,392	9,466,550

貸借対照表総括表

昭和59年3月31日

1. 資産の部

科 目	合 計	一 般 会 計	基本財産特別会計	退職手当積立金	I H F 国際交流基金
流動資産合計	53,257,174	38,095,870	1,509,362	4,185,392	9,466,550
有形固定資産合計	1,993,169	1,993,169	0	0	0
その他固定資産合計	52,822,931	15,822,931	17,000,000	20,000,000	0
固定資産合計	54,816,100	17,816,100	17,000,000	20,000,000	0
資産合計	108,073,274	55,911,970	18,509,362	24,185,392	9,466,550

2. 負債の部

科 目	合 計	一 般 会 計	基本財産特別会計	退職手当積立金	I H F 国際交流基金
流動負債合計	19,757,152	11,747,152			8,010,000
固定負債合計	0	0			0
負債合計	19,757,152	11,747,152	0	0	8,010,000

3. 正味財産の部

科 目	合 計	一 般 会 計	基本財産特別会計	退職手当積立金	I H F 国際交流基金
基 本 金					
剰余金合計	88,316,122	44,164,818	18,509,362	24,185,392	1,456,550
正味財産合計	88,316,122	44,164,818	18,509,362	24,185,392	1,456,550
負債及び正味財産合計	108,073,274	55,911,970	18,509,362	24,185,392	9,466,550

基本財産特別会計収支計算書

昭和58年4月1日から昭和59年3月31日まで

I 収支計算の部

1. 収入の部

単位：円

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異
1. 預 金 利 子 収 入	1,263,000	1,202,303	△ 60,697
2. 一般会計より繰入収入	0	0	0
前期繰越収支差額	17,305,000	17,307,059	2,059
収入合計	18,568,000	18,509,362	△ 58,638

2. 支出の部

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異
1. 支 払 手 数 料	0	0	0
2. 一般会計へ繰入支出	0	0	0
支出合計	0	0	0
次期繰越収支差額	18,568,000	18,509,362	△ 58,638

退職手当積立金特別会計収支計算書

昭和58年4月1日から昭和59年3月31日まで

I 収支計算の部

1. 収入の部

単位：円

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異
1. 預 金 利 子 収 入	1,136,000	956,666	△ 179,334
2. 一般会計より繰入収入	7,500,000	7,500,000	0
前期繰越収支差額	15,720,000	15,728,726	8,726
収入合計	24,356,000	24,185,392	△ 170,608

2. 支出の部

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異
1. 支 払 手 数 料	0	0	0
2. 退 職 手 当 金 支 出	0	0	0
支出合計	0	0	0
次期繰越収支差額	24,356,000	24,185,392	△ 170,608

IHF国際交流基金特別会計収支計算書

昭和58年4月1日から昭和59年3月31日まで

I 収支計算の部

1. 収入の部

単位：円

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異
1. 参 加 料	0	6,495,700	6,495,700
前 受 参 加 料	0	8,010,000	8,010,000
2. 預 金 利 子 収 入	60,000	115,314	55,314
3. 広 告 収 入	500,000	140,000	△ 360,000
4. 雑 収 入	27,000	15,000	△ 12,000
5. 一般会計より繰入収入	3,500,000	6,500,000	3,000,000
前期繰越収支差額	2,543,000	2,572,805	29,805
収入合計	6,630,000	23,848,819	17,218,819

2. 支出の部

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異
1. 支 払 手 数 料	0	22,600	△ 22,600
2. 交 際 費	300,000	35,000	265,000
3. 旅 費	2,800,000	12,278,151	△ 9,478,151
4. 雑 誌 掲 載 費	50,000	23,951	26,049
5. 雑 誌 発 行 費	1,850,000	2,022,567	△ 172,567
支出合計	5,000,000	14,382,269	△ 9,382,269
次期繰越収支差額	1,630,000	9,466,550	7,836,550

II 正味財産増減計算の部

1. 減少の部

科 目	決 算 額
1. 前受参加料増加額	8,010,000
減少額合計	8,010,000
次期繰越増減差額	△ 8,010,000
剰余金合計	1,456,550

財 産 目 録

昭和59年3月31日

I 資産の部

1. 金 銭 信 託	
安田信託銀行本店	1,509,362
2. 貸 付 信 託	
安田信託銀行本店	17,000,000
資産合計	<u>18,509,362</u>

II 正味財産の部

1. 剰 余 金	
次期繰越収支差額	18,509,362
正味財産合計	<u>18,509,362</u>

財 産 目 録

昭和59年3月31日

I 資産の部

1. 金 銭 信 託	
安田信託銀行本店	4,185,392
2. 貸 付 信 託	
安田信託銀行本店	20,000,000
資産合計	<u>24,185,392</u>

II 正味財産の部

1. 剰 余 金	
次期繰越収支差額	24,185,392
正味財産合計	<u>24,185,392</u>

財 産 目 録

昭和59年3月31日

I 資産の部

1. 普 通 預 金	
富士銀行麴町支店	466,550
2. 通 知 預 金	
富士銀行麴町支店	8,000,000
3. 定 期 預 金	
富士銀行麴町支店	1,000,000
資産合計	<u>9,466,550</u>

II 負債の部

1. 前受参加料	8,010,000
負債合計	<u>8,010,000</u>

III 正味財産の部

1. 剰 余 金	
次期繰越収支差額	9,466,550
次期繰越増減差額	△ 8,010,000
正味財産合計	<u>1,456,550</u>

監 査 報 告 書

昭和 59 年 4 月 17 日

社団法人 日本病院会
会長 諸 橋 芳 夫 殿

東京都千代田区九段北 4 丁目 1 番 5 号
市ヶ谷法曹ビル 505 号室
森公認会計士共同事務所
電話 (230) 3808

公認会計士 杉 山 幹 夫 ㊟

公認会計士 石 井 孝 宜 ㊟

私達は、社団法人日本病院会昭和58年度（自昭和58年4月1日至昭和59年3月31日）の一般会計、特別会計（基本財産特別会計、退職手当積立金特別会計、I H F 国際交流基金特別会計）の収支計算書、貸借対照表及び財産目録の同上期間中の帳簿記録を監査した。

監査の結果、上記の財務書類の会計処理の原則及び手続は、公益法人会計基準に概ね準拠して、前年度と同一基準により継続して適用されているものと認めた。

以上により、上記の財務書類は昭和58年度の法人の財産及び収支の状況を適正に表示しているものと認める。

私達と法人との間に特別の利害関係はない。

以 上

監 査 報 告

定款第11条により昭和58年度一般会計および特別会計につき監査を行った結果下記のとおり報告いたします。

記

1. 現金・預金・有価証券および物品について適正な方法をもって確実に管理保管されている。
2. 帳簿および証拠書類について正確であり、証拠書類は完全に添付されている。
3. 予算の執行状況は、一般会計における一部を除き収支ともに適正である。

昭和 59 年 4 月 21 日

社団法人 日本病院会

監事 太 田 清 一 ㊟

監事 戸 川 潔 ㊟

昭和58年度一般会計収支計算書

昭和58年4月1日から
昭和59年3月31日まで

I 収入の部

単位：円

科 目 目 目	予 算 額	決 算 額	差 異	備 考
1. 会 費	182,600,000	187,761,000	5,161,000	
1. 会 費	182,600,000	187,761,000	5,161,000	
1. 正 会 員 会 費	181,000,000	187,455,680	6,455,680	
前 受 会 費 収 入				
2. 臨 時 会 費	100,000	85,000	△ 15,000	
3. 過 年 度 会 費	1,500,000	220,320	△ 1,279,680	
2. 事 業 収 入	69,620,000	77,859,935	8,239,935	
1. 購 読 料	2,750,000	2,557,365	△ 192,635	
1. 雑 前 受 購 読 誌 料	2,570,000	2,394,365 14,400	△ 175,635 14,400	
2. ニ ュ ー ス	180,000	148,600	△ 31,400	
2. 受 講 料	50,260,000	54,305,570	4,045,570	
1. 定 例 研 究 会	5,500,000	9,426,400	3,926,400	
2. 研 究 研 修 会	13,510,000	12,926,700	△ 583,300	
3. 通 信 受 教 講 育 料	31,250,000	31,892,470 60,000	642,470 60,000	
3. 参 加 料	5,750,000	9,545,000	3,795,000	
1. セ ミ ナ ー	5,450,000	9,430,000	3,980,000	
2. 海 外 視 察 研 究 会	300,000	115,000	△ 185,000	
4. 部 会 費	10,860,000	11,452,000	592,000	
1. 人 間 ド ッ ク 部 会 費	10,860,000	11,452,000	592,000	
3. 賛 助 会 員 会 費 並 び に 寄 付 金	23,120,000	21,289,140	△ 1,830,860	
1. 賛 助 会 員 会 費 並 び に 寄 付 金	23,120,000	21,289,140	△ 1,830,860	
1. 賛 助 会 員 会 費	22,220,000	20,089,140	△ 2,130,860	
2. 一 般 寄 付 金	500,000	800,000	300,000	
3. 行 事 補 助 金	400,000	400,000	0	
4. 雑 収 入	30,400,000	33,465,265	3,065,265	
1. 雑 収 入	30,400,000	33,465,265	3,065,265	
1. 預 金 利 息	2,700,000	3,751,150	1,051,150	
2. 広 告 収 入	17,000,000	13,637,200	△ 3,362,800	
3. 雑 収 入	10,700,000	16,076,915	5,376,915	
5. 特 別 会 計 より 繰 入 収 入	0	0	0	
1. 特 別 会 計 より 繰 入 収 入	0	0	0	
1. 基 本 財 産 特 別 会 計 より 繰 入 収 入	0	0	0	
6. 前 期 繰 越 収 支 差 額	10,260,000	16,123,485	5,863,485	
1. 前 期 繰 越 収 支 差 額	10,260,000	16,123,485	5,863,485	
1. 前 期 繰 越 収 支 差 額	10,260,000	16,123,485	5,863,485	
収 入 合 計	316,000,000	336,498,825	20,498,825	

Ⅱ 支出の部

単位：円

款 科 項 目 目	予 算 額	決 算 額	差 額	備 考
1. 事務諸費	158,500,000	142,736,615	15,763,385	
1. 職員給与費	98,300,000	85,839,386	12,460,614	
1. 俸 給	53,500,000	46,289,452	7,210,548	
2. 諸 手 当	44,800,000	39,549,934	5,250,066	
2. 厚生費	8,000,000	6,739,584	1,260,416	
1. 厚 生 費	500,000	301,940	198,060	
2. 退 職 金	1,000	0	1,000	
3. 法 定 福 利 費	7,499,000	6,437,644	1,061,356	
3. 旅費交通費	3,000,000	3,244,710	△ 244,710	
1. 旅 費	2,300,000	2,550,840	△ 250,840	
2. 交 通 費	700,000	693,870	6,130	
4. 事務所管理費	26,500,000	26,354,520	145,480	
1. 事 務 所 賃 借 料	22,800,000	22,800,000	0	
2. 水 道 光 熱 費	2,200,000	2,192,720	7,280	
3. 備 品 費	700,000	681,400	18,600	
4. 雑 費	800,000	680,400	119,600	630,500 オーバーヘッドプロジェクター 50,900 移動式書棚セット
5. 需要費	18,700,000	17,198,703	1,501,297	
1. 消 耗 備 品 費	200,000	76,550	123,450	
2. 消 耗 品 費	2,200,000	1,478,479	721,521	
3. 印 刷 製 本 費	5,500,000	6,883,203	△ 1,383,203	
4. 公 租 公 課	20,000	30,000	△ 10,000	
5. 通 信 運 搬 費	6,200,000	4,499,836	1,700,164	
6. 借 用 及 損 料	2,800,000	2,336,420	463,580	
7. 臨 時 職 員 費	80,000	0	80,000	
8. 雑 費	1,700,000	1,894,215	△ 194,215	
6. 交 際 費	4,000,000	3,359,712	640,288	
1. 会 長 交 際 費	1,000,000	917,028	82,972	
2. 一 般 交 際 費	2,500,000	2,399,720	100,280	
3. 広 報 関 係 交 際 費	500,000	42,964	457,036	
2. 会議費	19,700,000	21,443,717	△ 1,743,717	
1. 総 会 費	3,400,000	3,209,000	191,000	
1. 総 会 費	3,400,000	3,209,000	191,000	
2. 役員会費	16,300,000	18,234,717	△ 1,934,717	
1. 常 任 理 事 会 費	5,300,000	8,263,132	△ 2,963,132	
2. 理 事 会 費	5,500,000	5,536,196	△ 36,196	
3. 代 議 員 会 費	5,500,000	4,435,389	1,064,611	
3. 事業費	120,860,000	128,578,450	△ 7,718,450	
1. 委員会	9,360,000	13,017,274	△ 3,657,274	
1. 旅 費 交 通 費	4,730,000	6,069,410	△ 1,339,410	
2. 印 刷 製 本 費	1,200,000	2,200,329	△ 1,000,329	
3. 通 信 運 搬 費	960,000	2,127,100	△ 1,167,100	
4. 謝 礼 金	960,000	1,441,150	△ 481,150	
5. 会 場 借 用 費	180,000	153,975	26,025	
6. 委 員 会 打 合 会 費	1,330,000	1,025,310	304,690	
2. 定例研究会	4,920,000	8,394,578	△ 3,474,578	
1. 旅 費 交 通 費	350,000	1,595,580	△ 1,245,580	
2. 印 刷 製 本 費	610,000	1,788,494	△ 1,178,494	
3. 通 信 運 搬 費	1,050,000	1,559,173	△ 509,173	
4. 謝 礼 金	1,210,000	1,005,777	204,223	
5. 会 場 借 用 費	860,000	2,204,454	△ 1,344,454	
6. 委 員 会 打 合 会 費	840,000	241,100	598,900	
3. 研究研修会	13,500,000	13,719,034	△ 219,034	
1. 旅 費 交 通 費	5,510,000	5,725,225	△ 215,225	
2. 印 刷 製 本 費	1,750,000	3,168,816	△ 1,418,816	
3. 通 信 運 搬 費	1,190,000	1,334,834	△ 144,834	
4. 謝 礼 金	1,650,000	859,243	790,757	
5. 会 場 借 用 費	2,460,000	1,191,502	1,268,498	
6. 委 員 会 打 合 会 費	470,000	432,980	37,020	
7. 討 論 会 費	470,000	1,006,434	△ 536,434	

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	備 考
4. 通 信 教 育	26,200,000	26,230,373	△ 30,373	
1. 旅 費 交 通 費	2,600,000	2,388,540	211,460	
2. 印 刷 製 本 費	9,690,000	10,960,019	△ 1,270,019	
3. 通 信 運 搬 費	2,100,000	2,381,962	△ 281,962	
4. 謝 礼 金	8,810,000	7,904,100	905,900	
5. 会 場 借 用 費	1,990,000	1,363,476	626,524	
6. 委 員 会 打 合 会 費	1,010,000	1,232,276	△ 222,276	
3. 5. セ ミ ナ ー	5,180,000	7,879,363	△ 2,699,363	
1. 旅 費 交 通 費	620,000	1,794,380	△ 1,174,380	
2. 印 刷 製 本 費	450,000	1,092,528	△ 642,528	
3. 通 信 運 搬 費	330,000	445,587	△ 115,587	
4. 謝 礼 金	1,500,000	1,054,719	445,281	
5. 会 場 借 用 費	1,450,000	1,522,420	△ 72,420	
6. 委 員 会 打 合 会 費	120,000	189,390	△ 69,390	
7. 討 論 会 費	710,000	1,780,339	△ 1,070,339	
6. 海 外 視 察 研 究 会	150,000	166,824	△ 16,824	
1. 旅 費 交 通 費	90,000	52,560	37,440	
2. 印 刷 製 本 費	3,000	16,814	△ 13,814	
3. 通 信 運 搬 費	10,000	73,950	△ 63,950	
4. 謝 礼 金	45,000	10,140	34,860	
5. 会 場 借 用 費	1,000	0	1,000	
6. 委 員 会 打 合 会 費	1,000	13,360	△ 12,360	
7. 資 料 整 備 費	8,700,000	8,739,081	△ 39,081	
1. 諸 法 規 整 備 費	170,000	165,245	4,755	
2. 調 査 室 費	8,530,000	8,573,836	△ 43,836	
8. ニ ュ ー ス 発 行 費	11,300,000	8,788,217	2,511,783	
1. 編 集 費	400,000	217,921	182,079	
2. 印 刷 製 本 費	6,000,000	4,528,091	1,471,909	
3. 発 送 費	4,750,000	3,935,945	814,055	
4. 取 材 費	150,000	106,260	43,740	
9. 雑 誌 発 行 費	24,000,000	23,472,945	527,055	
1. 編 集 費	800,000	1,021,747	△ 221,747	
2. 印 刷 製 本 費	19,200,000	18,873,800	326,200	
3. 発 送 費	3,970,000	3,572,868	397,132	
4. 取 材 費	30,000	4,530	25,470	
10. 医 療 費 対 策 及 び 病 院 大 会 費	8,500,000	9,566,057	△ 1,066,057	
1. 医 療 費 対 策 及 び 病 院 大 会 費	8,500,000	9,566,057	△ 1,066,057	
11. 助 成 金	7,550,000	7,418,474	131,526	
1. 日 本 病 院 学 会	3,800,000	3,710,108	89,892	
2. 人 間 ド ッ ク 学 会	1,200,000	1,250,106	△ 50,106	
3. 診 療 録 管 理 学 会	950,000	961,260	△ 11,260	
4. 病 院 情 報 セ ン タ ー	1,000,000	1,000,000	0	
5. 各 地 病 院 協 会 研 究 会	300,000	150,000	150,000	
6. 支 部 助 成 金	300,000	347,000	△ 47,000	
12. 海 外 病 院 協 会 関 係 費	1,500,000	1,186,230	313,770	
1. ア ジ ア 病 院 連 盟 会 議 費	1,400,000	945,066	454,934	
2. I. H. F. 会 議 費	100,000	241,164	△ 141,164	
4. 負 担 金	1,070,000	1,013,375	56,625	
1. 負 担 金	1,070,000	1,013,375	56,625	
1. 国 際 病 院 連 盟	650,000	551,925	98,075	
2. ア ジ ア 病 院 連 盟	125,000	117,450	7,550	
3. 諸 会 費	295,000	344,000	△ 49,000	
5. 繰 入 金 支 出	11,000,000	14,000,000	△ 3,000,000	
1. 繰 入 金 支 出	11,000,000	14,000,000	△ 3,000,000	
1. 退 職 手 当 積 立 金 特 別 会 計	7,499,000	7,500,000	△ 1,000	
2. 基 本 財 産 特 別 会 計	1,000	0	1,000	
3. I H F 国 際 交 流 基 金 特 別 会 計	3,500,000	6,500,000	△ 3,000,000	
6. 予 備 費	4,870,000	0	4,870,000	
1. 予 備 費	4,870,000	0	4,870,000	
1. 予 備 費	4,870,000	0	4,870,000	
支 出 合 計	316,000,000	307,772,157	8,227,843	
次 期 繰 越 収 支 差 額	0	28,726,668	28,726,668	

II 正味財産増減計算の部

1. 増加の部

単位：円

科 目	決 算 額	備 考
1. 備 品 増 加 額	630,500	
前期繰越増減差額	15,603,424	
増加額合計	16,233,924	

2. 減少の部

科 目	決 算 額	備 考
1. 備 品 償 却 額	721,374	
2. 前 受 購 読 料 増 加 額	14,400	
3. 前 受 受 講 料 増 加 額	60,000	
減少額合計	795,774	
次期繰越増減差額	15,438,150	
剰余金合計	44,164,818	

貸 借 対 照 表

昭和59年3月31日

1. 資産の部

勘 定 科 目		金 額	
大 科 目	中 科 目		
流動資産			
	現 金 預 金	35,153,100	
	未 収 金	2,070,200	
	立 替 金	150,260	
	前 払 金	722,310	
流動資産合計			38,095,870
有形固定資産			
	什 器 備 品	1,993,169	
有形固定資産合計			1,993,169
その他固定資産			
	電 話 加 入 権	337,931	
	差 入 敷 金	15,260,000	
	保 証 金	225,000	
その他固定資産合計			15,822,931
固定資産合計			17,816,100
資 産 合 計			55,911,970

2. 負債の部

単位：円

勘 定 科 目		金 額	
大 科 目	中 科 目		
流動負債			
	未 払 金	9,957,350	
	前 受 購 読 料	14,400	
	前 受 受 講 料	60,000	
	預 り 金	1,715,402	
流動負債合計			11,747,152
固定負債			
固定負債合計			0
負 債 合 計			11,747,152

3. 正味財産の部

勘 定 科 目		金 額	
大 科 目	中 科 目		
剰余金			
	次期繰越収支差額	28,726,668	
	次期繰越増減差額	15,438,150	
剰余金合計			44,164,818
正味財産合計			44,164,818
負債及び正味財産合計			55,911,970

資産計上什器備品内訳

昭和59年3月31日現在

単位：円

品名	購入先	取得年月日	取得価額	期首簿価	償却費	期末簿価
インターウォール	(株)岡村製作所	49. 6. 25	972,000	48,600	0	48,600
宛名印刷機	宛名印刷機(株)	49. 6. 2	295,000	14,750	0	14,750
アルミガラス間仕切	ファイル事務器(株)	54. 4. 2	400,000	158,979	32,750	126,229
耐火金庫	(株)東京熊平金庫店	55. 6. 23	525,000	378,929	41,303	337,626
ナショナルカラーテレビ	(有)番町電化	55. 6. 23	99,950	27,559	10,169	17,390
タイプライター	(株)難場商会	56. 7. 7	324,000	147,864	54,562	93,302
ゲステットナーファクシル	ゲステットナーリミテッド	57. 7. 19	493,000	356,562	131,571	224,991
宛名印刷機	日本スクリプトマチック(株)	58. 2. 23	600,000	563,100	207,784	355,316
会旗	(株)シバタ徽章工芸	58. 3. 14	400,000	387,700	143,061	244,639
オーバーヘッドプロジェクター	(株)トヨシマビジネス	58. 9. 16	118,500		25,507	92,993
移動式書棚セット	"	58. 9. 20	512,000		74,667	437,333
会計			4,108,950 630,500	2,084,043	721,374	1,993,169

事業収支比較表

昭和58年4月1日から
昭和59年3月31日まで

款項目	収入	支出	差額	備考
受講料	54,305,570	48,343,985	5,961,585	
1. 定例研究会	9,426,400	8,394,578	1,031,822	
2. 研究研修会	12,926,700	13,719,034	△ 792,334	
3. 通信教育	31,952,470	26,230,373	5,722,097	
参加料	9,545,000	8,046,187	1,498,813	
1. セミナー	9,430,000	7,879,363	1,550,637	
2. 海外視察研究会	115,000	166,824	△ 51,824	

一 般 会 計 財 産 目 録

昭和59年 3月31日

単位：円

(資 産 の 部)

I 流 動 資 産

1. 現 金	現金手元有高		158,245
2. 振 替 貯 金	東京地方貯金局		815,681
3. 当 座 預 金	富 士 銀 行 麴 町 支 店		250,668
4. 普 通 預 金	太 陽 神 戸 銀 行	"	1,210,019
	"	通信教育部	38,924
	三 和 銀 行	"	115,149
	富 士 銀 行	"	521,008
	第 一 勧 業 銀 行	"	10,596
	"	通信教育部	95,635
	住 友 銀 行	"	142,749
	"	人間ドック学会	319,000
	三 菱 銀 行	"	3,975
	"	病院幹部医会	64,875
	"	市ヶ谷支店	197,689
	協 和 銀 行	"	107,579
5. 通 知 預 金	東 海 銀 行 九 段 支 店		101,308
	太 陽 神 戸 銀 行 麴 町 支 店		5,000,000
	三 和 銀 行	"	5,000,000
	富 士 銀 行	"	1,000,000
6. 定 期 預 金	太 陽 神 戸 銀 行	"	10,000,000
	三 和 銀 行	"	10,000,000
7. 未 収 金	(株) 廣 研 社	日本病院会雑誌 広告料	227,200
	(株) 丹 水 社	日本病院会雑誌・ニュース 広告料	1,199,200
	(株) 博 報 堂	" 広告料	115,200
	(株) 日立メディコ	日本病院会ニュース 広告料	177,000
	川崎医療短期大学	日本病院会雑誌 広告料	86,400
	日本病院用品(株)	日本病院会ニュース 広告料	72,000
	(株) 東 広 社	日本病院会雑誌 広告料	56,000
	(株) 協 和 企 画	" "	25,200
	(株) 日 盛 通 信 社	" "	56,000
	日本医学広告社	" "	56,000
8. 立 替 金	日本看護学校協議会	郵便料金計器使用分	260
	和歌山県病院協会	点数表改正点の解説	150,000
9. 前 払 金	帝 国 ホ テ ル	創立33周年記念式典 前払金	500,000
	千代田四番町局	郵便計器予納金	222,310
	流 動 資 産 合 計		38,095,870

II 固 定 資 産

1. 有 形 固 定 資 産

(1) 什 器 備 品

インターウォール	48,600
宛 名 印 刷 機	14,750
アルミガラス間仕切	126,229
耐 火 金 庫	337,626
カ ラ ー テ レ ビ	17,390
タイプライター	93,302
ゲステットナーファクシル	224,991
宛 名 印 刷 機	355,316
会 旗	244,639
オーバーヘッドプロジェクター	92,993
移動式書棚セット	437,333

有 形 固 定 資 産 合 計

1,993,169

2. そ の 他 固 定 資 産

(1) 電 話 加 入 権

265-0070, 0077~0079	4台	199,706
230-2898	1台	138,225

(2) 差 入 敷 金

ミドリ防災管理(株) 15,260,000

(3) 保 証 金

ジャパンリーシングシステム 前払リース料 225,000

そ の 他 固 定 資 産 合 計

15,822,931

固 定 資 産 合 計

17,816,100

資 産 合 計

55,911,970

(負債の部)

単位：円

I 流動負債

1. 未払金

東京労働基準局	58年度	労働保険料確定分	24,116	
東医健保組合	3月分	健康保険料	181,300	
麴町社会保険事務所	"	厚生年金保険料等	256,956	
ミドリ防災管理(株)	"	共益費・電気水道料	556,557	
ニコニコ堂	"	事務用品代	29,049	
(有)興和社	"	印刷代	718,400	
富士ゼロックス(株)	"	コピー代, 用紙代	105,940	
九段電報電話局	"	電話料	184,980	
国際電信電話(株)	"	"	66,040	
(株)ダイヤモンドホテル	"	研究会・代議員会・総会室料	776,050	
アート録音	"	代議員会・総会速記料	58,500	
(株)古橋書店	7月分	勤務医白書代	25,400	
祐文社	2月分	印刷代	39,000	
国際空輸(株)	3月分	発送代	8,900	
ふくおか会館	"	通信教育懇親会費	223,560	
栗田静枝	"	資料代	8,050	
酒井隆子	"	"	27,600	
高橋政祺	"	"	54,300	
中央法規出版(株)	58/5~59/3	「厚生」購読料	5,555	
全国公私病院連盟	58年度	経営分析, 実態調査報告	2,400,000	
日本農業新聞	3月分	ニュース印刷代	337,013	
(株)岩戸紙店	"	雑誌用紙代	377,075	
中和印刷(株)	"	"印刷製本代	1,252,200	
(有)中村発送	"	ニュース, 雑誌 発送手数料	106,209	
社会保険研究所	"	点数表改正点の解説	2,106,000	
日本医事新報社	"	広告料	28,600	9,957,350
東京大学医学部	59年度	雑誌購読料		14,400
中村絹子	通信教育	25期生受講料	30,000	
原口知恵	"	"	30,000	60,000
従業員預り	3月分	源泉所得税	321,232	
"	"	住民税	398,910	
"	"	社会保険料	539,940	
プラザ記念病院	58年度	会費重複分	57,820	
日本耳鼻咽喉科学会(神奈川)	点数表,	薬価速報送料過入金	8,650	
病院情報センター	3月分	書籍代預り	69,850	
日本人間ドック学会	"	事務局	319,000	1,715,402
流動負債合計				11,747,152
負債合計				11,747,152

(正味財産の部)

I 剰余金

1. 次期繰越収支差額	28,726,668
2. 次期繰越増減差額	15,438,150
剰余金合計	44,164,818
負債および正味財産合計	55,911,970

消 耗 備 品 内 訳

昭和 59 年 3 月 31 日現在

単位：円

品 名	購 入 先	取得年月	数量	取得価額	期末簿価	品 名	購 入 先	取得年月	数量	取得価額	期末簿価
スチール机	(株)高橋商店	41. 8. 22	7	86,160	4,308	ロッカー	岡村製作所	55. 5. 16	1	14,000	7,692
”	岡村製作所	45. 2. 28	1	14,360	1,869	”	”	56. 4. 3	1	28,000	17,686
”	”	49. 12. 11	1	27,600	6,625	”	(財)厚生共済会	58. 3. 31	2	54,000	45,784
”	”	50. 5. 27	1	27,600	7,051	食器棚	新宿ステーションビル	44. 3. 31	1	10,900	545
”	”	50. 6. 30	2	55,200	14,294	”	丸竹家具	54. 4. 3	1	20,000	4,746
”	”	51. 4. 30	2	55,200	16,213	部 品 棚	岡村製作所	52. 9. 16	2	41,700	6,339
”	”	51. 10. 30	1	27,600	8,666	”	”	58. 2. 16	3	57,000	40,969
”	”	52. 8. 10	2	55,200	19,937	衝 立	千代田医療器(株)	44. 3. 24	1	12,000	1,390
”	”	52. 9. 1	1	27,600	10,100	”	(財)厚生共済会	54. 10. 24	1	14,800	4,177
”	”	52. 9. 9	5	138,000	50,495	”	”	57. 9. 30	1	27,420	17,566
”	”	53. 3. 10	1	27,000	10,880	暗 幕	”	56. 5. 20	4	210,000	55,331
”	”	56. 4. 3	1	27,000	17,054	雑 誌 架	岡村製作所	49. 3. 31	2	77,000	19,174
”	(財)厚生共済会	58. 3. 31	2	153,400	130,060	黒 板	(株)幸平屋	44. 8. 8	1	21,000	1,050
タイプ用デスク	菅沼タイプライター販売(株)	51. 4. 30	1	45,000	13,217	”	ニコニコ堂	50. 8. 7	1	22,307	1,115
サイドテーブル	三好木工(株)	41. 8. 22	6	55,200	2,760	”	”	51. 7. 31	1	19,620	2,128
”	岡村製作所	45. 12. 28	1	10,350	1,346	”	(財)厚生共済会	54. 4. 2	2	48,000	11,390
”	”	51. 10. 30	1	16,500	5,180	電動黒板ふき	(株)字研事務機	58. 9. 14	1	10,000	7,847
”	”	56. 4. 3	3	63,000	39,792	か け 時 計	日 本 堂	57. 9. 10	1	9,000	4,457
キャビネット	”	56. 4. 3	1	18,500	11,685	”	”	58. 4. 18	1	10,800	6,815
複写機専用テーブル	(株)小林商会	50. 7. 4	1	27,000	7,085	写 真 機	テレビ写真工業(株)	45. 9. 2	1	15,000	750
折たたみ長机	岡村製作所	44. 2. 4	10	110,000	5,500	”	(株)ヨドバシカメラ	55. 8. 25	1	56,500	10,703
”	”	44. 3. 20	2	22,000	1,100	ス ト ロ ボ	”	55. 8. 25	1	13,000	2,463
”	”	45. 5. 30	3	29,100	1,455	プロジェクター	花 山 商 店	44. 3. 31	1	26,900	1,345
会議用テーブル	(財)厚生共済会	54. 4. 2	16	408,000	96,820	”	テレビ写真工業(株)	49. 1. 26	1	39,690	1,984
会議用演壇	”	54. 4. 2	2	50,000	15,409	ワイヤレスアンプ	アイワ企業(株)	58. 8. 25	1	50,900	38,379
折たたみ椅子	岡村製作所	44. 2. 4	20	60,000	6,115	三脚スクリーン	(株)トヨシマビジネス	58. 9. 16	1	37,500	29,428
会議用椅子	(財)厚生共済会	54. 4. 2	96	364,800	169,626	テープレコーダー	八 紘 電 気 (株)	45. 3. 5	1	16,500	825
事務用椅子	岡村製作所	41. 9. 30	1	4,620	231	”	”	46. 9. 23	1	22,770	1,139
”	”	45. 12. 28	4	21,720	2,826	”	”	48. 12. 13	1	28,900	1,445
”	”	49. 12. 11	1	14,100	3,385	”	大阪府医師協同組合	50. 6. 30	1	22,000	1,100
”	”	50. 5. 27	1	7,200	1,839	”	森川電気商会	57. 2. 18	1	8,900	3,321
”	”	50. 6. 30	2	14,400	3,730	トランジスターラジオ	(株)末広電器杉並店	46. 7. 27	1	6,400	320
”	”	51. 4. 30	2	14,400	4,229	電 卓	(株)小林商会	52. 3. 31	1	21,000	1,050
”	”	51. 5. 31	1	6,100	1,792	”	ヤマギワ(株)	58. 10. 30	1	9,480	7,731
”	”	51. 10. 30	1	6,100	1,915	タイプ用ライト	(株)難波商会	56. 12. 20	1	9,500	5,009
”	”	52. 8. 10	2	12,200	4,406	ゲス ッ ト ナ ー マ シ ン	ゲステットナー	51. 5. 30	1	40,000	11,749
”	”	52. 8. 10	1	21,000	7,586	キャビネット	リミテッド	51. 5. 30	1	7,200	360
”	”	52. 9. 9	5	30,500	11,161	ハガキガイド	”	54. 6. 20	1	28,500	3,128
”	”	53. 1. 27	1	6,100	2,347	インターリバー	”	58. 2. 18	1	27,540	23,350
”	”	53. 3. 10	1	6,100	2,405	宛名ストレージファイル	日本スクリプトステック	50. 7. 24	1	5,217	1,369
”	(有)中村商店	57. 6. 11	1	5,700	4,311	レ タ ー ケ ー ス	ニコニコ堂	50. 8. 2	1	5,217	1,387
布 張 椅 子	(財)厚生共済会	58. 3. 31	2	92,000	78,002	”	”	58. 9. 30	1	8,800	8,175
書 庫	岡村製作所	49. 3. 31	1	24,800	6,176	伝 票 ボ ッ ク ス	”	50. 7. 24	1	4,498	225
”	”	50. 6. 30	2	49,600	12,844	手 提 金 庫	”	50. 7. 24	1	5,577	279
二段式引違い書庫	”	52. 12. 26	1	57,890	22,003	チェックライター	”	50. 7. 29	1	10,344	517
”	”	55. 7. 15	1	69,700	39,336	ライオン金示器	(株)トヨシマビジネス	54. 9. 29	1	13,300	1,654
”	”	56. 4. 6	2	71,600	45,225	電動ホッチキス	ニコニコ堂	57. 9. 10	1	11,840	5,863
”	”	56. 4. 27	7	394,100	248,925	タイムレコーダー	(株)トヨシマビジネス	55. 5. 20	1	79,600	13,234
ロ ッ カ ー	”	31. 11. 22	1	16,000	800	自 転 車	東京トヨペット(株)	56. 1. 12	1	24,800	1,240
”	”	41. 9. 30	1	13,000	650	運 搬 車	(有)中村商店	58. 6. 8	1	13,000	8,255
”	”	45. 12. 28	1	9,830	1,278	換 気 扇	坂野工務店	56. 6. 25	4	221,100	75,280
”	”	50. 6. 30	1	24,800	6,420	合 計				4,594,550	1,707,722